

平成17年度 文部科学省委託事業  
「専修学校教育等の運営改善に関する調査指導」

# 「私立専修学校における自己点検等の実施状況調査」 調査報告書

平成18年3月  
財団法人専修学校教育振興会

## はじめに

平成14年4月の専修学校設置基準の一部改正により、専修学校は、「教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と定められました。

自己点検・評価の実施状況については、文部省の平成9年度専修学校に関する実態調査にて、「実施していない」と回答した専修学校が30.7%であったにも関わらず、平成16年5月における文部科学省の調査では、「実施している」と回答した私立専修学校が、全体の約20%となっています。

この数値の背景には、実際には自己点検・評価を実施しているものの、それが組織的・体系的でない等の理由から、「実施している」と回答しなかった学校や、あるいは何から始めて良いのか判断のつかない学校も少なからずあったのではないかと考えられますが、この数値は既に第三者評価が開始されている4年制大学や短期大学は言うまでもなく、専修学校と同時期に自己点検・評価が努力義務化された中学校、高等学校の公立校の実施率約90%等と比較して、高いものとは言えません。

一方、近年、4年制専門学校卒業生に対する「高度専門士の称号」や「大学院入学資格」の付与など制度の充実もはかられ、専修学校に対する社会からの期待や関心はますます高まり、より信頼性の高い教育の提供が求められています。

このような中で、専修学校が自己点検・評価に積極的に取り組み、教育の向上や健全な学校運営等に前向きに取り組むことは、社会に対して専修学校の現状や活動をアピールでき、今後の専修学校を振興する観点からも大変重要であると考えられます。

今回の調査研究では、専修学校が自己点検・評価に取り組めない様々な要因も明らかになりましたが、専修学校の自己点検・評価に対する捉え方の違いも明らかになりました。

このことから、本委員会では“専修学校らしさを活かす”ことを大切にしながら、自己点検・自己評価の重要性を再認識していただくと同時に、一校でも多くの専修学校が、自己点検・評価に取り組めることを目標とした導入モデルを作成しました。

また、本報告書の4章には、調査にご協力くださった学校の自己点検・評価様式を、5章には、研修会での事例発表の講演録を掲載しました。

本書が、今後の専修学校における自己点検・評価実施の一助となることを願いますと同時に、貴重な資料のご提供、ご講演をいただきました多くの皆様に、この機会をお借りして深く御礼申し上げます。

自己点検・評価に関する調査研究委員会  
中西 義裕

## もくじ

はじめに	1
もくじ	2
第1章 調査の概要	
調査の趣旨	3
調査の実施	3
本調査における「自己点検・自己評価」の考え方	4
自己点検・自己評価とは	5
調査票（1次、2次A・B）	6
導入モデル実施要項	9
導入モデル（私立専修学校用「自己点検・自己評価」簡易チェック様式）	17
第2章 調査研究報告	
1次調査の目的と結果の概要	21
2次調査の目的と結果の概要	25
1次調査、2次調査を通して	31
第3章 自己点検・自己評価実施校リスト	36
第4章 自己点検・自己評価様式集	43
第5章 講演録（「平成17年度 自己点検・評価研修会」より）	
宮城理容美容専門学校	82
中央情報経理専門学校	94
広島工業大学専門学校	108
熊本電子ビジネス専門学校	120
（社）静岡県専修学校各種学校教育振興会	138
総括	142

(pdf ファイルのページ標記は、正確なものではありません。)

# 第1章 調査の概要

## 1. 調査の主旨

本調査は、全国の私立専修学校に、自己点検・自己評価の重要性と必要性を広く理解していただき、1校でも多くの私立専修学校が自己点検・自己評価を実施できるよう、

- ① 私立専修学校の自己点検・自己評価の実施状況を把握すること
- ② 私立専修学校のうち『取組んでいない』学校を中心に、本会作成の簡易な自己点検・自己評価の様式を送付し、実際に着手してもらうこと

を目的に行う。

同時に、『取組んでいる』学校からは、活用している具体的な様式をご提供いただき、それらを様式集にまとめてフィードバックすることで、より多角的かつ実践的な自己点検・自己評価への取組を広めていく。

## 2. 調査の実施

### (1) 調査経過

全国専修学校各種学校総連合会の専修学校会員校を対象に、アンケート郵送法による調査を行った。

#### ○1次調査

【調査時期】 平成17年9月28日～10月17日

【送付校】 2,265校

【回収数】 1,180校

【回収率】 52.1%

#### ○2次調査

【調査時期】 平成17年11月24日～12月9日

【送付校】 A 1次調査で自己点検・自己評価に「まったく取組んでいない」と回答した学校 229校

B 1次調査に回答が無かった学校 1,085校

【回収数】 A 144校 B 425校

【回収率】 A 62.9% B 39.2%

#### ○合計

【送付校】 2,265校

【回収数】 1,605校

【回収率】 70.9%

## (2) 研究委員会

委員長 中村 徹 (静岡福祉医療専門学校副理事長、専教振研修・研究担当常務理事)

委員 秋葉英一 (千葉情報経理専門学校理事長)

喜多憲治 (富山情報ビジネス専門学校副校長)

中西義裕 (名古屋製菓専門学校校長)

平田眞一 (中国デザイン専門学校理事長)

## 3. 本調査における「自己点検・自己評価」の考え方

本調査では、次頁の資料「自己点検・自己評価とは」にもとづき、自己点検・自己評価を、次の手順で行う活動と位置づける。

- ① 個々の学校の現状を正確に把握するために、次のことを行う。
  - ・学内で作成・整備した関連資料を確認する。
  - ・学内の関係者（教職員、学生生徒等）から意見を聴取、学内の関係者で話し合いの機会を設ける。
  - ・必要に応じて学外の者（保護者、就職先企業等）から意見を聴取、学外の者との話し合いの機会を設ける。
- ② ①の過程で把握された現状について、学内で分析や検討を加えて、改善あるいは向上の必要性を自ら診断する。
- ③ ②の結果、改善あるいは向上が必要と認めた事項について、実施可能な具体的な方策を自ら導き出し、できるところから実行する。
- ④ ③で実行した方策が、どの程度効果をあげているか、①の過程を繰り返して検証する。

## 自己点検・自己評価とは

次のような活動が自己点検・自己評価です。  
各校の日頃の活動にも、この考え方が反映されています。

### 学校 の 現 状

例えば…

- ①教育目的：〇〇〇を育成するため、△△△の知識・技術等を教育する。
- ②教 職 員：×××学科の□□□系科目は3名の教員で担当している。
- ③教育課程：×××学科の授業科目の座学と実習の比率は1：1。
- ④就職状況：就職率は80%、うち関連分野への就職は90%。 等々

ところが、学内外から寄せられる声からは…

- ①業界の人材ニーズは変化しているようだ。
- ②□□□系科目の教員の負担が大きいようだ。
- ③実習の多い科目は、到達度もあがっているようだ。
- ④早期離職する者が増えているようだ。 等々

### 現 状 を 正 確 に 把 握 す る

学内の関連資料を確認したり、あるいは学内外の関係者から意見を聴いたり、会議等を開いて話し合ったりする。

### 自 己 診 断 （ 現 状 の 分 析 ・ 検 討 ）

把握された現状について、改善・向上の必要性を自己診断し、具体的な改善・向上の方策を練る。

### 教 育 活 動 の 改 善 ・ 向 上 を 図 る

方策がまとまったら、できるところから、…

- ①付加価値を高めるため、教育目的・内容に◇◇の技術も追加しよう。
- ②×××学科の□□□系科目で、非常勤教員の担当部分を増やそう。
- ③来年度から一部科目の実習時間を増やそう。
- ④ミスマッチを無くすために就職セミナーを充実させよう。 等々

検  
証

－「私立専修学校における自己点検等の実施状況調査」調査票－

※ 別紙の「自己点検・自己評価とは」または実施要領をご覧のうえ、お答えください。

**Q1** 貴校では、自己点検・自己評価（現状の確認と分析・検討、教育活動等の改善・向上）に取り組んでいますか？ 1つだけチェックしてください。

- 恒常的に取り組んでいる ⇒ **Q2**をお答えください  
 必要に応じて取り組んでいる ⇒ **Q2**をお答えください  
 まったく取り組んでいない ⇒ **Q3**と**Q4**をお答えください

**Q2** **Q1**で『恒常的に取り組んでいる』『必要に応じて取り組んでいる』と回答した学校にお聞きします。次にあげる事項について、定型的な自己点検・自己評価の様式を整備していますか？ 該当するすべてにチェックしてください。

- 「教育目的、課程の編成、カリキュラムや科目の内容・時間数」について  
 「募集活動、入学・進級・卒業の状況」について  
 「目標とする資格・検定の設定や取得状況、就職状況」について  
 「教員や職員の配置・勤務の状況」について  
 「施設設備の使用・更新等の状況」について  
 「経営方針、組織の管理のあり方」について  
 その他〔具体的に： \_\_\_\_\_〕

**Q3** **Q1**で『まったく取り組んでいない』と回答された学校にお聞きします。貴校は、主にどのような理由で取り組んでいないのですか？ 一番の理由を1つだけチェックしてください。

- 何をどのように作業・分析するのか、やり方が分からないから  
 担当する者がいない、または時間が取れないから  
 取り組んでいる学校が周りにないから、または少ないから  
 現在のままで、教育も経営もうまくいっているから  
 その他〔具体的に： \_\_\_\_\_〕

**Q4** **Q1**で『まったく取り組んでいない』と回答された学校にお聞きします。貴校は、マニュアルや簡易な様式があれば自己点検・自己評価に取り組むことができるとお考えですか？ 1つだけチェックしてください。

- 取り組むことができると思う  
 取り組むことは難しいと思う

都道府県名： \_\_\_\_\_

学 校 名： \_\_\_\_\_  
 （学校名の公表について… 公表してよい  公表は望まない）

回答者氏名： \_\_\_\_\_（役職名： \_\_\_\_\_）

ご協力ありがとうございました。本紙をご返送ください。

**Q2**の様式等をご提供いただける場合は、あわせてご郵送をお願いします。いただきました個人情報につきましては、適切に管理いたします。

**財専教振「導入モデルによる自己点検・自己評価の取組状況の調査」調査票**

**Q1** 導入モデルを使って「自己点検・自己評価」に取組みましたか？（1つだけをチェック）

- 取組んだ ⇒ **Q2**と**Q3**へ進んでください  
 取組まなかった ⇒ **Q4**へ進んでください

**Q2** **Q1**で『取組んだ』と回答された学校にお聞きします。「導入モデルによる自己点検・自己評価」に取組んだ感想や意見をお答えください（各項目1つだけチェック）。

- ① 基礎的な考え方 …  理解できた  理解できなかった  
 ② 基礎的なやり方 …  理解できた  理解できなかった  
 ③ 教育活動等の改善に対して…  役立ったと思う  何も変わらないと思う  
 ④ 継続していくことに対して …  自信がついた  何とも言えない  
 ⑤ その他 [具体的に： \_\_\_\_\_ ]

**Q3** **Q1**で『取組んだ』と回答された学校にお聞きします。今後、どのような項目の様式（導入モデルと同項目の他の内容を含む）を希望しますか？（該当するすべてをチェック）

- 「教育目的、課程の編成、カリキュラムや科目の内容・時間数」に関する内容  
 「募集活動、入学・進級・卒業の状況」に関する内容  
 「目標とする資格・検定の設定や取得状況、就職状況」に関する内容  
 「教員や職員の配置・勤務の状況」に関する内容  
 「施設設備の使用・更新等の状況」に関する内容  
 「経営方針、組織の管理のあり方」に関する内容  
 その他 [具体的に： \_\_\_\_\_ ]

**Q4** **Q1**で『取組まなかった』と回答された学校にお聞きします。貴校は、主にどのような理由で取組まなかったのですか？（一番の理由を1つだけチェック）

- 作業する担当者がいなかった、または作業する時間が取れなかったから  
 点検・評価したい項目と違ったから  
 今回の様式では効果が期待できないと思ったから  
 その他 [具体的に： \_\_\_\_\_ ]

『取組んだ』学校のお名前のみ、実施校として本年度の調査研究報告書に記載する予定です。また、取組の有無にかかわらず報告書ならびに来年度の本会様式を送付します。そのための利用のみを目的として、本調査に回答された方の学校名、役職名、お名前をお聞きしますので、ご記入をお願いします（それ以外の目的には利用しません）。

都道府県名： \_\_\_\_\_

学 校 名： \_\_\_\_\_

（学校名の公表について… 公表してよい  公表は望まない）

回答者氏名： \_\_\_\_\_（役職名： \_\_\_\_\_）

ご協力ありがとうございました。送付状は不要です。本紙のみを12月9日までにご返送ください。



## 財専教振「導入モデルによる自己点検・自己評価の取組状況の調査」調査票

**Q1** 貴校は、「自己点検・自己評価」に取組まれていますか？（1つだけをチェック）

- 恒常的に取組んでいる ⇒ **Q4**のみお答えください  
 必要に応じて取組んでいる ⇒ **Q4**のみお答えください  
 まったく取組んでいない ⇒ **Q2**へ進んでください

**Q2** **Q1**で『まったく取組んでいない』と回答された学校にお聞きします。導入モデルを使って「自己点検・自己評価」に取組みましたか？（1つだけをチェック）

- 取組んだ ⇒ **Q3**と**Q4**をお答えください  
 取組まなかった ⇒ **Q5**をお答えください

**Q3** **Q2**で『取組んだ』と回答された学校にお聞きします。「導入モデルによる自己点検・自己評価」に取組んだ感想や意見をお答えください（各項目1つだけチェック）。

- ① 基礎的な考え方 …  理解できた  理解できなかった  
 ② 基礎的なやり方 …  理解できた  理解できなかった  
 ③ 教育活動等の改善に対して…  役立ったと思う  何も変わらないと思う  
 ④ 継続していくことに対して …  自信がついた  何とも言えない  
 ⑤ その他 [具体的に： \_\_\_\_\_ ]

**Q4** **Q1**で『(恒常的に、または必要に応じて) 取組んでいる』と回答された学校、**Q2**で『取組んだ』と回答された学校にお聞きします。貴校では、どのような項目の様式（導入モデルと同項目の他の内容を含む）を希望しますか？（該当するすべてをチェック）

- 「教育目的、課程の編成、カリキュラムや科目の内容・時間数」に関する内容  
 「募集活動、入学・進級・卒業の状況」に関する内容  
 「目標とする資格・検定の設定や取得状況、就職状況」に関する内容  
 「教員や職員の配置・勤務の状況」に関する内容  
 「施設設備の使用・更新等の状況」に関する内容  
 「経営方針、組織の管理のあり方」に関する内容  
 その他 [具体的に： \_\_\_\_\_ ]

**Q5** **Q2**で『取組まなかった』と回答された学校にお聞きします。貴校は、主にどのような理由で取組まなかったのですか？（一番の理由を1つだけチェック）

- 作業する担当者がいなかった、または作業する時間が取れなかったから  
 点検・評価したい項目と違ったから  
 今回の様式では効果が期待できないと思ったから  
 その他 [具体的に： \_\_\_\_\_ ]

**Q1**で『(恒常的に、あるいは必要に応じて) 取組んでいる』と回答された学校、**Q2**で『取組んだ』と回答された学校のお名前のみ、実施校として本年度の調査研究報告書に記載する予定です。また、取組の有無にかかわらず報告書ならびに来年度の本会様式を送付します。そのための利用のみを目的として、本調査に回答された方の学校名、役職名、お名前をお聞きしますので、ご記入をお願いします（それ以外の目的には利用しません）。

都道府県名： \_\_\_\_\_

学 校 名： \_\_\_\_\_  
 （学校名の公表について…  公表してよい  公表は望まない）

回答者氏名： \_\_\_\_\_（役職名： \_\_\_\_\_）

ご協力ありがとうございました。送付状は不要です。本紙のみを12月9日までにご返送ください。

平成17年度版 財団法人 専修学校教育振興会  
私立専修学校用「自己点検・自己評価」簡易チェック様式（導入モデル）  
実 施 要 領

## 1 今回の自己点検・自己評価の位置づけ

本来、自己点検・自己評価は、各学校が、適切かつ効果的な教育活動、健全かつ安定的な学校運営を実現するために行う手段の1つであり、実際に取組む場合には、

- 学校全体として  
「現状把握・課題発見 ⇒ 原因究明・対策検討 ⇒ 対策実践・達成度確認」という一連の作業を行う。
- 組織的かつ恒常的な取組として学内に位置づけ、構成員全体で達成目標を共有し、協力連携して実施する。
- 学校としての説明責任を果たすために、在籍者やその保護者をはじめ社会に対して、点検・評価の結果を公表する。

と考えられています。

しかしながら、今までに自己点検・自己評価に取組まれていない学校が、初めから上記の考え方によって取組むことは、過度の負担が伴い、結果的に取組もうとする意欲自体を失わしめるものと考えます。

そこで、財団法人専修学校教育振興会（財専教振）に設置した調査研究委員会は、各学校の前向きに取組もうとする意思を尊重し、どのような形態であっても実際に着手する点を重視して、内容的にも量的にも容易に取組みやすいことを方針として検討を重ね、入門的な自己点検・自己評価の簡易チェック様式（以下、「導入モデル」という。）を作成し、取組まれていない学校にお送りすることとしました。

したがって、今回、各学校では、導入モデルをもとに、

- 実際に点検・評価の作業に取組むこと（向上・改善策の検討・実践などは、各学校独自に、必要に応じて副次的に行うこと）
- 学校長など管理者自らが点検・評価に取組むこと（教職員や学生生徒に対する意見聴取などは、各学校独自に、必要に応じて副次的に行うこと）
- 点検・評価の直接的な作業を優先すること（点検・評価の結果の公表は、各学校独自に、必要に応じて副次的に行うこと）

をお願いするものです。

## 2 導入モデルによる点検・評価の進め方（項目別の点検・評価）

導入モデルは、全体で6つの項目に絞って、1項目あたり3ないし4つの基礎的事項について点検・評価する形態をとっています。

上記1の位置づけにより各事項にチェックをするだけの形を採用していますが、チェックする際に、次のような手順で進めるように心がけてください。

### 【教育理念（建学の精神）・目的・目標等】

言葉の定義としては、

- 教育理念（建学の精神）・目的は、『学校の教育に対する考え方、教育活動や学習活動全般の指針を示すもの』
- 教育目標は、『教育理念（建学の精神）・目的を達成するために必要な教育内容を設定したもの』

としてお考えください。

- |  |
|--|
| <p>1. 明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> しっかりと明文化している</li><li><input type="checkbox"/> ある程度は明文化している</li><li><input type="checkbox"/> まったく明文化していない</li></ul> |
|--|

この事項は、関連する資料（学校案内・パンフレットや学則、校訓や校歌、その他関係の深い資料など）を参考にして、学校の考え方などが反映され、明示されているかを判断してください。

2. 職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等を盛り込んでいるか（該当するすべてにチェック）。

- 育成を目指す職業人像（人間性の涵養を含む）
- 教育する能力、知識や技術(それらの到達レベルを含む)
- 学生生徒に求める学習の考えや姿勢
- 地域社会への教育活動の成果の還元
- 教育理念（建学の精神）・目的・目標等を実現するための環境や体制（内容や方法等）
- その他〔具体的に： \_\_\_\_\_〕

この事項では、上記1の作業で「反映され、明示されている」と判断した内容を選んでください。  
例えば、選択肢の内容に直接的に言及していない場合でも、該当すると判断したものは選んでください。

3. 次の者に周知され、理解されているか（各項目1つだけチェック）。

- ① 教職員は …  全員  一部の者  不明
- ② 学生生徒（その保護者）は…  全員  一部の者  不明
- ③ 学生生徒の出身校の教員は…  全員  一部の者  不明
- ④ 卒業者の就職先の人事担当者は …  全員  一部の者  不明
- ⑤ 所在する地域の住民は …  全員  一部の者  不明

この事項は、日頃接している①から⑤に該当する者の会話や行動などから受ける印象のほか、必要に応じて関連する資料（授業の計画案、資格や検定の出願率、学校案内の請求状況、企業の求人状況、学校行事への地域住民の参加状況など）を参考にして判断してください。

4. 内容の適否を検証し、見直しを行っているか（1つだけチェック）。

- 定期的に検証し、見直しを行っている
- 必要に応じて検証し、見直しを行っている
- まったく検証も見直しも行っていない

この事項は、過去の関連する資料（学校案内・パンフレットや学則など）と対比したり、役員会や教務会議の会議録などを参考にしたりして判断してください。

なお、判断する際には「検証の有無」に重点をおいてお考えください（検証した結果、適切な内容であれば見直す必要はないためです）。

#### 【経営理念・方針】

言葉の定義としては、

- 経営理念・方針は、『学校の意思決定を行う者が、学校のより一層の発展を目指し、健全な経営活動を主体的に行うための指針を示すもの』

としてお考えください。

1. 明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。

- しっかりと明文化している
- ある程度は明文化している
- まったく明文化していない

決算書など)を参考にして、学校的意思決定を行う者にとって、経営・管理の実際の活動に対する考えなどが明示されているかを判断してください。

2. 次の経営計画を策定しているか(各項目1つだけチェック)。

- ① 短期的な経営計画は …  策定している  策定していない  
② 中長期的な経営計画は…  策定している  策定していない

この事項では、関連する資料(課程や学科の設置・変更・廃止の計画、収支の見通しや借入金にかかる算定書類など)を参考にして、学校的意思決定を行う者の経営・管理の活動計画が、書類として整備されているかを判断してください。

3. 内容の適否を検証し、見直しを行っているか(1つだけチェック)。

- 定期的に検証し、見直しを行っている  
 必要に応じて検証し、見直しを行っている  
 まったく検証も見直しも行っていない

この事項は、過去の関連する資料(事業報告書・決算書、課程や学科の設置・変更・廃止の実績など)と対比したり、役員会等の議事録などを参考にしたりして判断してください。

なお、判断する際には「検証の有無」に重点をおいてお考えください(検証した結果、適切な内容であれば見直す必要はないためです)。

### 【学生生徒の状況】

言葉の定義としては、

- 学生生徒は、『正規課程に在籍する者(附帯教育事業の講座を受講する者などは除く)』

としてお考えください。

1. 教育理念(建学の精神)・目標・目的等を反映した学生生徒の受入方針(入学資格や条件等)を明文化(文章等にまとめ他者が確認できる状態)しているか(1つだけチェック)。

- しっかりと明文化している  
 ある程度は明文化している  
 まったく明文化していない

この事項は、関連する資料(学校案内・パンフレットや学則、願書、体験入学やガイダンスでの配布書類、選考手続や基準など)を参考にして、教育を受けるために最低限必要とされる学生生徒の資格や条件を、分かりやすく明示しているかを判断してください。

2. 募集要項(学校案内)の書きぶりや広報担当者の対応は、志願者や保護者、中学高校の進路指導担当者にとって適切か(各項目1つだけチェック)。

- ① 要項への必要な情報は …  すべてを記載  一部は記載  不明  
② 要項の分かりやすさは …  全体的に配慮  一部は配慮  不明  
③ 担当者の問合せ対応は …  全員が適切  一部は適切  不明

この事項では、①から③ごとに、次のようにお考えください。

- ① 志願者や保護者、中学高校の進路指導者が進路選択・決定を行う際に必要としている学校の情報（設置学科・コース、修業年限、教育内容、施設・設備の内容のほか、就職や資格取得の実績、学納金の内容、入学選考手続など）が、不足なく正確に載っているかを判断してください。
- ② 上記①で「載せている」と判断した学校の情報について、目立つように、また、分かりやすく誤解を招かないように、志願者や保護者、中学高校の進路指導者の立場を考え、内容、順序、記述方法（文字の修飾、図表や写真の活用）などに配慮しているかを判断してください。
- ③ 電話やメール、あるいは体験入学やガイダンスを通じて、志願者や保護者、中学高校の進路指導者からあった問合せや相談の内容に対して、分かりやすく正確に対処ができ、安心感を与えているかを判断してください。

3. 過去3年間、すべての学科・コースにおいて、志願者数や入学者数は定員に達しているか（各項目1つだけチェック）。

① 志願者数は

…  すべて定員以上     一部は定員以上     すべて定員未満

② 入学者数は

…  すべて定員以上     一部は定員以上     すべて定員未満

この事項では、①と②について次のようにお考えください。

- ① 郵便、電話やメール、あるいは体験入学やガイダンスを通じて学校案内などを入手した者の人数のほか、志望する学科・コースに対するアンケートの結果、実際に出願した者の人数を参考にして、可能な限り個々の学科・コースごとに具体的に把握して、判断してください。
- ② 個々の学科・コースごとに入学式時に在籍していた者の人数を参考にして判断してください。なお、入学を許可した者で入学式前に辞退した者は含めないでください（辞退者については別の点検・評価の項目を設定します）。

4. 過去3年間、すべての学科・コースにおいて、入学者数に対する進級や卒業の比率は目標とする数値と比べて良好であるか（各項目1つだけチェック）。

① 進級状況は…  すべて良い     一部は良い     すべて悪い

② 卒業状況は…  すべて良い     一部は良い     すべて悪い

この事項では、①と②について次のようにお考えください。

なお、入学者からは学業不振、進路変更、経済的理由などによる中途退学者の人数は差し引いてください（中途退学者については別の点検・評価の項目を設定します）。

- ① 個々の学科・コースごとに入学者が上級学年にどの程度進級しているかを把握した上で、上級学年の定員、過年度の上級学年の在籍者数の推移、過年度の進級者数の推移などを参考にして判断してください。
- ② 個々の学科・コースごとに入学者が最終学年にどの程度進級し、かつ卒業しているかを把握した上で、最終学年の定員、過年度の最終学年の在籍者数の推移、過年度の卒業生数の推移などを参考にして判断してください。

#### 【教育課程・学習指導】

以下の事項では、個々の学科・コースについて

- 履修科目一覧（国の定める指定規則を含む）
- 履修要覧やシラバス（授業計画書）、時間割表

- 実習室の利用状況
- 学生生徒の成績評価表
- 学生生徒（卒業生を含む）や卒業生の就職先に対するアンケートの結果などを参考にしてお考えください。

1. すべての学科・コースにおいて、適切にカリキュラムを編成しているか（各項目1つだけチェック）。
- ① 専門科目の体系的な編成  
 …  すべて適切     一部は適切     不明
- ② 人間性の涵養に資する科目の編成  
 …  すべて適切     一部は適切     不明
- ③ 社会や業界のニーズへの配慮  
 …  すべて適切     一部は適切     不明
- ④ 学生生徒の時間的負担への配慮  
 …  すべて適切     一部は適切     不明

この事項では、『教育理念（建学の精神）・目的・目標等を達成できるかどうか』の観点で、①から④ごとに次のようにお考えください。

- ① 個々の学科・コースごとに、各科目の選択・必修の別（実際の履修状況）、各学年における科目の配置（基礎から応用に至る履修順序）などを参考にして判断してください。
- ② 個々の学科・コースごとに、社会人に最低限必要とされる素養を養成する科目（マナーやコミュニケーション能力など）や教養的な科目の選択・必修の別（実際の履修状況）、各学年における科目の配置（専門科目の配置との関連性）などを参考にして判断してください。
- ③ 社会（経済産業）構造の変化、卒業生が就職する業界の動向などを参考にして、必要（これから必要）とされる知識や技術・技能が、カリキュラムあるいは個々の科目の内容に盛り込まれているか（盛り込みやすいか）を判断してください。
- ④ 日単位、週単位、学期（セメスタ）単位、学年単位の予習復習を含めた科目の履修時間、学生生徒の成績評価表、学生生徒に対するアンケートの結果などを参考にして、学生生徒が過度の負担がなく学習ができているかを判断してください。

2. 個別の学習指導において、必要な対応をとっているか（該当するすべてにチェック）。
- 履修要覧やシラバス（授業計画書）の作成
- 内容に応じた授業形態（講義・演習、実験・実習）の実施
- 授業ごとの学生生徒の到達度の評価（必要に応じた補習授業の実施）
- その他〔具体的に： \_\_\_\_\_ 〕

3. テキスト及び教材等は適否を検証し、見直しを行っているか（1つだけチェック）。
- 定期的に検証し、見直しを行っている
- 必要に応じて検証し、見直しを行っている
- まったく検証も見直しも行っていない

この事項は、過去の履修要覧やシラバス（授業計画書）、学生生徒の成績評価表、学生生徒や教員に対するアンケートの結果、教員会議の議事録などを参考にして判断してください。

なお、判断する際には「検証の有無」に重点をおいてお考えください（検証した結果、適切な内容であれば見直す必要はないためです）。

### 【教員の状況】

1. 教員の選考・採用・配置に関する方針を明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。

- しっかりと明文化している
- ある程度は明文化している
- まったく明文化していない

言葉の定義としては、

- 選考・採用・配置に関する方針は、『教育理念（建学の精神）・目的・目標等を達成するために、教員に求める要件や基準（必要な保有資格、知識や技術・技能、実務能力、人格など）、効率的かつ効果的な配置（人数、常勤と非常勤の比率、連絡調整の措置など）にかかる指針を示すもの』

としてお考えください。

この事項では、関連する資料（求人票、学科や科目の担当教員リスト、定例会議の開催状況、国の定める指定規則など）を参考にして、教員志望者または教員等に対して明示されているかを判断してください。

2. 教育目標の達成に向けた教育活動に必要十分な人数の教員を確保しているか（各項目1つだけチェック）。

- ① 常勤教員は …  確保している  確保していない  不明
- ② 非常勤教員は…  確保している  確保していない  不明

この事項は、個々の学科・コースにおける①と②に該当する教員ごとに、関連する資料（過去の採用・退職した者の人数の推移、教員別の授業の進捗状況など）のほか、学生生徒や教員に対するアンケートの結果などを参考にして判断してください。

3. 教員の適当たりの担当授業時間数は適切か（各項目1つだけチェック）。

（注）文部科学省の平成16年度学校教員統計調査中間報告によると、私立専修学校の常勤教員の適当たり平均の担当授業時間（実時間）数は12.4時間

- ① 常勤教員は …  適当  多い  少ない  不明
- ② 非常勤教員は…  適当  多い  少ない  不明

この事項は、個々の学科・コースにおける①と②に該当する教員ごとに、具体的な平均時間数と文部科学省調査の結果のほか、過去の学科や科目の担当教員リストや学生生徒や教員に対するアンケートの結果などを参考にして判断してください。

4. 教員の資質の維持や向上に向けた取組を行っているか（該当するすべてにチェック）。

- 専門性や指導力等の把握や評価
- 専門性や指導力等の維持や向上のための内部研修・研究の実施
- 専門性や指導力等の維持や向上のための外部研修・研究への派遣
- 専門性や指導力等の維持や向上のための自己啓発への時間的・財政的な支援
- その他 [具体的に： \_\_\_\_\_ ]

この事項は、関連する資料（人事考課または勤務評定の基準、過去の研修や研究の事業報告・支出額など）を参考にして、「行っている」と判断したものを選んでください。

## 【職員の状況】

1. 職員の選考・採用・配置に関する方針を明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。
- しっかりと明文化している
  - ある程度は明文化している
  - まったく明文化していない

言葉の定義としては、

- 選考・採用・配置に関する方針は、『教育理念（建学の精神）・目的・目標等を達成するために、教育活動や経営活動を支援する職員に求める要件や基準（必要な保有資格、知識や技術・技能、実務能力、人格など）、効率的かつ効果的な配置（人数、常勤と非常勤の比率、連絡調整の措置など）にかかる指針を示すもの』

としてお考えください。

この事項では、関連する資料（求人票、各部署所属の職員リスト、所管会議の会議録など）を参考にして、職員志望者または職員等に対して明示されているかを判断してください。

2. すべての部署において、必要十分な人数の職員を確保しているか（各項目1つだけチェック）。
- ① 常勤職員は …  確保している  確保していない  不明
  - ② 非常勤職員は…  確保している  確保していない  不明

この事項は、個々の部署における①と②に該当する職員ごとに、関連する資料（過去の採用・退職した者の人数の推移、職員別の勤務状況など）のほか、学生生徒や職員に対するアンケートの結果などを参考にして判断してください。

3. 部署ごとの職務分掌と責任を明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。
- しっかりと明文化している
  - ある程度は明文化している
  - まったく明文化していない

等に対して明示されているかを判断してください。

### 3 導入モデルによる点検・評価の進め方（点検・評価の総括）

項目別の点検・評価を行った後に、各項目の基礎的事項について点検・評価した結果、あるいは判断する際に参考とした資料から受けた印象や感想をもとに、各項目について2つの選択肢の1つにチェックをしてください。

言葉の定義としては、

- 「現状を維持」は、『適切な教育活動等を実践できているので、従来どおり対応していくもの』
- 「検討に努めることが必要」は、『改善を要する点もあるので、引き続き検討していくもの』

としてお考えください。

また、「検討に努めることが必要」と判断した場合は、あわせて何に検討の必要性を認めたかを、選択肢（点検・評価した基礎的事項）のうちから、該当するものすべてにチェックしてください。



#### 4 自己点検・自己評価の後の対応

##### (1) 各学校内での対応

全4頁にわたる作業によって、貴校の本年度の自己点検・自己評価は終了です。点検・評価を終えた導入モデルを返送する必要はありませんので、各学校で参考とした資料とあわせて大切に保管してください。

また、各学校の状況に応じて、他の関係者にも導入モデルによる自己点検・自己評価を行ってもらい、

- 結果に相違はないか
- 判断した理由は何か

などを検証してください。

さらに、次年度以降、時期を見て改めて同じ導入モデルで点検・評価を行い、今回の結果と対比してください。

##### (2) 財専教振への対応

本年度、導入モデルによる自己点検・自己評価に専修学校が何校取組んだか（導入モデルの改善点を含む）を確認するために、調査票を同封していますので、各質問事項に回答の上、下記へ調査票のみ返送をお願いします。

※ 導入モデルによる自己点検・自己評価に取組まなかった学校においても、今後の導入モデル作成の参考とするため、調査票の提出にはご協力をお願いします。

平成17年度版 財団法人 専修学校教育振興会  
私立専修学校用「自己点検・自己評価」簡易チェック様式（導入モデル）

I 学校の教育理念（建学の精神）・目的・目標、経営理念・方針について

【教育理念（建学の精神）・目的・目標等】

1. 明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。

- しっかりと明文化している
- ある程度は明文化している
- まったく明文化していない

2. 職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等を盛り込んでいるか（該当するすべてにチェック）。

- 教育理念（建学の精神）・目的・目標等を実現するための環境や体制（内容や方法等）
- 育成を目指す職業人像（人間性の涵養を含む）
- 地域社会への教育活動の成果の還元
- 教育する能力、知識や技術（それらの到達レベルを含む）
- 学生生徒に求める学習の考えや姿勢
- その他〔具体的に： \_\_\_\_\_〕

3. 次の者に周知され、理解されているか（各項目1つだけチェック）。

- ① 教職員は …  全員  一部の者  不明
- ② 学生生徒（その保護者）は …  全員  一部の者  不明
- ③ 学生生徒の出身校の教員は …  全員  一部の者  不明
- ④ 卒業者の就職先の人事担当者は…  全員  一部の者  不明
- ⑤ 所在する地域の住民は …  全員  一部の者  不明

4. 内容の適否を検証し、見直しを行っているか（1つだけチェック）。

- 定期的に検証し、見直しを行っている
- 必要に応じて検証し、見直しを行っている
- まったく検証も見直しも行っていない

【経営理念・方針】

1. 明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。

- しっかりと明文化している
- ある程度は明文化している
- まったく明文化していない

2. 次の経営計画を策定しているか（各項目1つだけチェック）。

- ① 短期的な経営計画は …  策定している  策定していない
- ② 中長期的な経営計画は…  策定している  策定していない

3. 内容の適否を検証し、見直しを行っているか（1つだけチェック）。

- 定期的に検証し、見直しを行っている
- 必要に応じて検証し、見直しを行っている
- まったく検証も見直しも行っていない

## II 学生生徒の状況、教育課程・学習指導について

### 【学生生徒の状況】

1. 教育理念（建学の精神）・目標・目的等を反映した学生生徒の受入方針（入学資格や条件等）を明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。
  - しっかりと明文化している
  - ある程度は明文化している
  - まったく明文化していない
2. 募集要項（学校案内）の書きぶりや広報担当者の対応は、志願者や保護者、中学高校の進路指導担当者にとって適切か（各項目1つだけチェック）。
  - ① 要項への必要な情報は…  すべてを記載  一部は記載  不明
  - ② 要項の分かりやすさは…  全体的に配慮  一部は配慮  不明
  - ③ 担当者の間合せ対応は…  全員が適切  一部は適切  不明
3. 過去3年間、すべての学科・コースにおいて、志願者数や入学者数は定員に達しているか（各項目1つだけチェック）。
  - ① 志願者数は…  すべて定員以上  一部は定員以上  すべて定員未満
  - ② 入学者数は…  すべて定員以上  一部は定員以上  すべて定員未満
4. 過去3年間、すべての学科・コースにおいて、入学者数に対する進級や卒業の比率は目標とする数値と比べて良好であるか（各項目1つだけチェック）。
  - ① 進級状況は…  すべて良い  一部は良い  すべて悪い
  - ② 卒業状況は…  すべて良い  一部は良い  すべて悪い

### 【教育課程・学習指導】

1. すべての学科・コースにおいて、適切にカリキュラムを編成しているか（各項目1つだけチェック）。
  - ① 専門科目の体系的な編成 …  すべて適切  一部は適切  不明
  - ② 人間性の涵養に資する科目の編成…  すべて適切  一部は適切  不明
  - ③ 社会や業界のニーズへの配慮 …  すべて適切  一部は適切  不明
  - ④ 学生生徒の時間的負担への配慮 …  すべて適切  一部は適切  不明
2. 個別の学習指導において、必要な対応をとっているか（該当するすべてにチェック）。
  - 履修要覧やシラバス（授業計画書）の作成
  - 内容に応じた授業形態（講義・演習、実験・実習）の実施
  - 授業ごとの学生生徒の到達度の評価（必要に応じた補習授業の実施）
  - その他〔具体的に： \_\_\_\_\_ 〕
3. テキスト及び教材等は適否を検証し、見直しを行っているか（1つだけチェック）。
  - 定期的に検証し、見直しを行っている
  - 必要に応じて検証し、見直しを行っている
  - まったく検証も見直しも行っていない

### Ⅲ 教職員の状況について

#### 【教員の状況】

1. 教員の選考・採用・配置に関する方針を明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。

- しっかりと明文化している
- ある程度は明文化している
- まったく明文化していない

2. 教育目標の達成に向けた教育活動に必要な十分な人数の教員を確保しているか（各項目1つだけチェック）。

- ① 常勤教員は …  確保している  確保していない  不明
- ② 非常勤教員は…  確保している  確保していない  不明

3. 教員の過当りりの担当授業時間数は適切か（各項目1つだけチェック）。

（注）文部科学省の平成16年度学校教員統計調査中間報告によると、私立専修学校の常勤教員の過当りり平均の担当授業時間（実時間）数は12.4時間

- ① 常勤教員は …  適当  多い  少ない  不明
- ② 非常勤教員は…  適当  多い  少ない  不明

4. 教員の資質の維持や向上に向けた取組を行っているか（該当する□すべてにチェック）。

- 専門性や指導力等の把握や評価
- 専門性や指導力等の維持や向上のための内部研修・研究の実施
- 専門性や指導力等の維持や向上のための外部研修・研究への派遣
- 専門性や指導力等の維持や向上のための自己啓発への時間的・財政的な支援
- その他〔具体的に： \_\_\_\_\_〕

#### 【職員の状況】

1. 職員の選考・採用・配置に関する方針を明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。

- しっかりと明文化している
- ある程度は明文化している
- まったく明文化していない

2. すべての部署において、必要十分な人数の職員を確保しているか（各項目1つだけチェック）。

- ① 常勤職員は …  確保している  確保していない  不明
- ② 非常勤職員は…  確保している  確保していない  不明

3. 部署ごとの職務分掌と責任を明文化（文章等にまとめ他者が確認できる状態）しているか（1つだけチェック）。

- しっかりと明文化している
- ある程度は明文化している
- まったく明文化していない

#### IV 自己点検・評価の総括

##### 【教育理念（建学の精神）・目的・目標等】 & 【経営理念・方針】

点検・評価結果から…  現状を維持  検討に努めることが必要

- 何を…
- 教育理念等の明文化
  - 教育理念等に不足している考え方や指針、内容
  - 教育理念等の周知の仕方や分かりやすい書きぶり
  - 教育理念等の見直しの方法
  - 経営理念等の明文化
  - 経営計画の策定
  - 経営理念等の見直しの方法
  - その他 具体的に：

##### 【学生生徒の状況】 & 【教育課程・学習指導】

点検・評価結果から…  現状を維持  検討に努めることが必要

- 何を…
- 学生生徒の受入方針の明文化
  - 募集要項の書きぶり、広報担当者の対応のあり方
  - 志願者の属性や動向、入学者の決定要因
  - 学生生徒の学力、進級・卒業の評価基準のあり方
  - カリキュラム編成の適切性
  - 具体的な学習指導の適切性
  - テキスト及び教材の見直しの方法
  - その他 具体的に：

##### 【教員の状況】 & 【職員の状況】

点検・評価結果から…  現状を維持  検討に努めることが必要

- 何を…
- 教員の選考・採用・配置に関する方針の明文化
  - 必要十分な教員数と教員の確保に向けた取組
  - 個々の教員が担当する授業時間数
  - 教員の専門性や指導力等の維持・向上に向けた取組
  - 職員の選考・採用・配置に関する方針の明文化
  - 必要十分な職員数と職員の確保に向けた取組
  - 個々の職員の職務分掌と責任の明確化
  - その他 具体的に：

以上で、自己点検・自己評価は終了です。本票は各校で大切に保管してください。  
また、別紙のアンケートに記入の上、アンケートのみ返送してください。

## 第2章 調査研究報告

### 1. 1次調査の目的と結果の概要

今回の1次調査の目的は、自己点検・自己評価の正確な実施率と実施内容、そしてさらなる実施率向上に向けた課題の把握である。

まず、調査対象校選出にあたっては、当初、「学校法人立の専修学校のみを対象とする」「専修学校専門課程のみを対象とする」「各種学校も含める」等の様々な意見が出されたが、検討の結果、「全国専修学校各種学校総連合会に加盟する専修学校2,265校」を対象にすることになった。

これは、過去の調査が①「全国専修学校各種学校総連合会に加盟する専修学校」を対象として行われたこと、②全国専修学校各種学校総連合会の各都道府県協会等の支援を得て、回答率の向上を見込むことができること、が主な理由である。

この結果、全専修学校3,439校（平成17年度学校基本調査）のうち、約66%にあたる2,265校を対象とした1次調査を9月下旬に実施した。

この調査では1,180校からの回答が得られたが、そのうち約80%の学校が自己点検・自己評価に取り組んでおり、回答のなかった学校すべてが自己点検・自己評価を行っていないと仮定しても、会員校全体の実施率が40%を超えることが判明した。

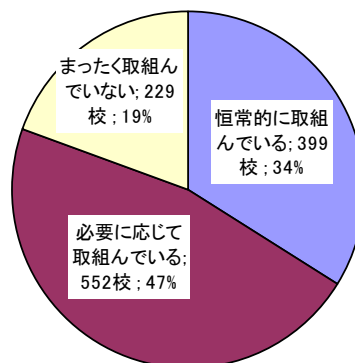
また、回答のあった学校のうち、自己点検・自己評価を実施していないという約20%の学校においても、その理由が明確になったことにより、将来の実施率向上のための課題を探る上での有益な結果が得られたと考えられる。

では、回収されたこれらの結果を項目別に分けて分析を進めてみたい。

## Q1 貴校では「自己点検・自己評価」に取り組んでいますか。(択一回答)

「恒常的に取り組んでいる」学校 399 校 (34%) と「必要に応じて取り組んでいる」学校 552 校 (47%) を合わせると合計 951 校となり、回答のあった 1,180 校のうち、自己点検・自己評価の実施率は 81%となる。

図表 I 自己点検・評価の実施

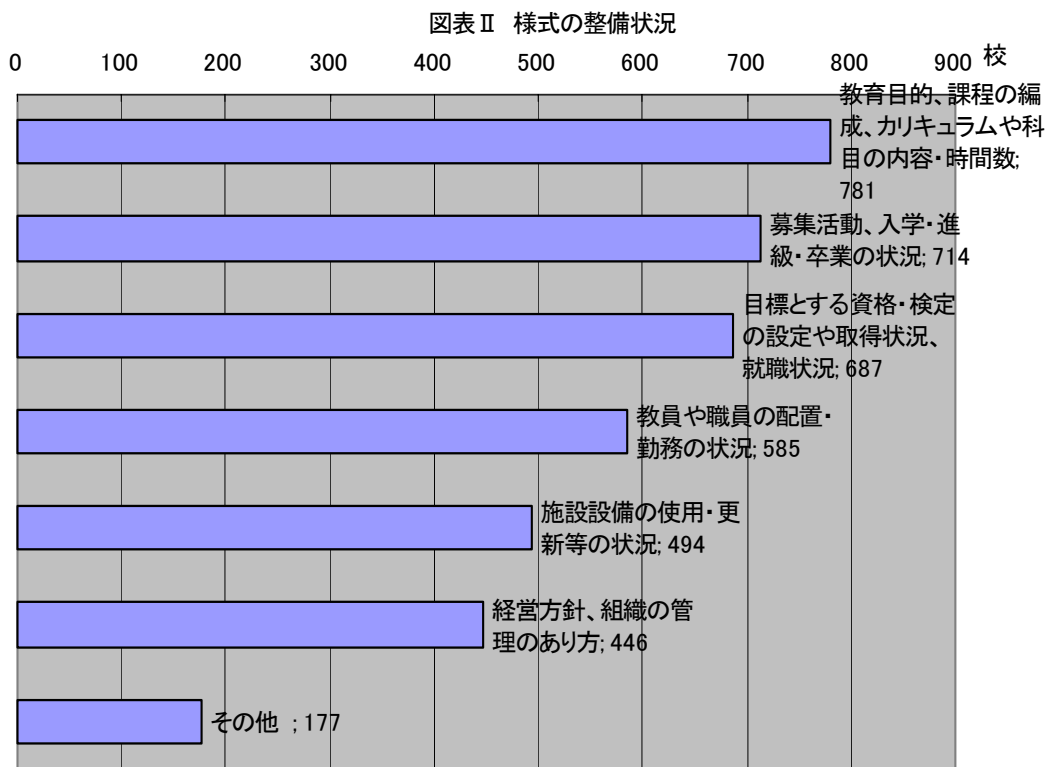


## Q2 次にあげる事項について、定型的な自己点検・自己評価の様式を整備していますか。(複数回答)

「教育目的、課程の編成、カリキュラムや科目の内容・時間数」については、自己点検・自己評価に取り組んでいる 951 校のうち、781 校 (82%) が様式を整備を行い、時代のニーズに対応するため、毎年、課程の編成やカリキュラムの見直しを実施している。

さらに、「募集活動、入学、進級・卒業の状況」については 714 校 (75%)、「目標とする資格・検定の設定や取得状況、就職状況」については 687 校 (72%) が取り組んでおり、ともに 70%を超える高い実施率となっている。このことから、大学との競合や少子化の影響で入学生の確保が厳しくなり、その活動や教育の質的向上による退学者の予防や資格取得・就職指導に重点を置いていることが推測される。

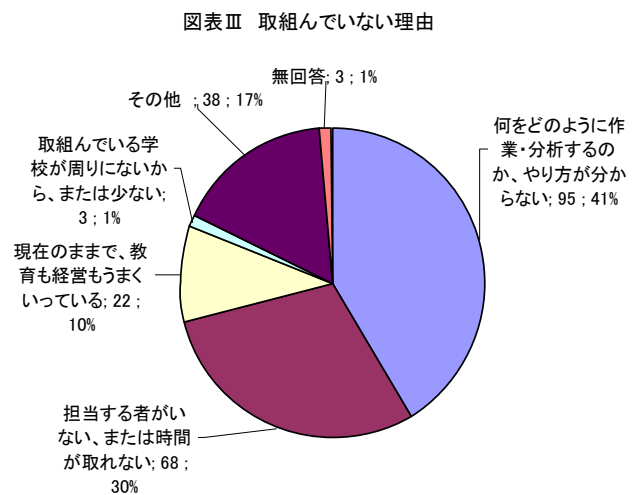
また、「その他」の回答における自由記述では、学生による学校評価(授業・生活指導・設備等)を実施するための様式を整備している学校が多かった。



### Q3 取組んでいない主な理由は何ですか。(択一回答)

Q1の質問に「まったく取組んでいない」と回答した229校において、「何をどのように作業・分析するのか、やり方が分からないから」という回答が95校(42%)あった。このことから、実施率を高めるためには、モデルの提示や、研修等の啓発活動を続ける必要が感じられた。

また、「担当する者がいない、または時間が取れないから」という回答も68校(30%)あり、その裏側には、自己点検・自己評価が難しいもの、手間のかかるものというイメージがあることがうかがえた。

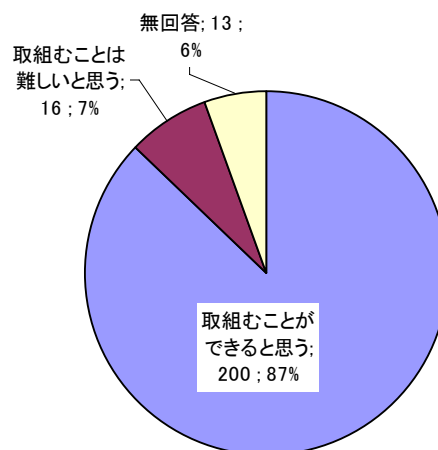




#### Q4 マニュアルや簡単な様式があれば自己点検・自己評価に取り組むことができますか。(択一回答)

Q3 同様、Q1 の質問に「まったく取り組んでいない」という回答のあった 229 校に対して、この質問をしたところ、「取り組める」とした回答が 200 校(87%)を占めており、今後この事業を通して、自己点検・自己評価の統一した様式を含めた簡単なマニュアルが作成され、多くの学校において共有化することにより自己点検・自己評価の実施率は、十分向上が可能であると考えられる。

図表Ⅳ マニュアルや簡易様式があれば取り組めるか



委員 喜多 憲治

## 2. 2次調査の目的と結果の概要

今回の調査における一つのテーマは、1次調査において自己点検・自己評価に「まったく取り組んでいない」と回答した学校に対して、どのようにすれば取り組んでもらえるか、興味を持ってもらえるかを工夫することである。

そこで導入モデルを作成し、取り組みを簡易に可能にすることができるかどうかを2次調査の項目とした。また、1次調査にまったく返答しなかった学校にも同様のものを送り、回答率を上げると同時に、より多くの学校が、自己点検・自己評価に関心を持てるよう工夫した。

これにより、調査対象は、1次調査に回答の無かった学校1,085校と、1次調査で、自己点検・自己評価に「まったく取り組んでいない」と回答した学校229校、合計1,314校となった。

この対象校に、11月下旬、2次調査依頼状と導入モデルとして作成された簡易チェック様式、調査票などを発送した。

1月中旬までの回収結果は次の通りである。

2次調査に回答のあった学校数は、合計569校となった。内訳は、1次調査に回答の無かった学校から425校と、1次調査で、自己点検・自己評価に「まったく取り組んでいない」と回答した学校から144校である。やはり、1次調査において返答の無かった学校からの回答は少なかったが、1次調査に比べれば数は増加したことになり、効果は認められた。これはどの研究にも言える問題であるが、郵送によるアンケート調査の効果を上げることは難しいものであり、2度送ることで、400校以上が返答したことは評価できると言えよう。なお、効率を上げるために、1次調査で自己点検・自己評価に「まったく取り組んでいない」と回答した学校229校については、1次調査回答者（個人名）宛に2次調査用紙を送付した。

さて、2次調査本来の目的である、自己点検・自己評価の実施校数を増加させるということについては、1次調査で「まったく取り組んでいない」と回答した学校

からの返答率は約 63%とかなり高いものとなった。

これらの回収された調査結果を項目別に分けて分析を進めてみたい。

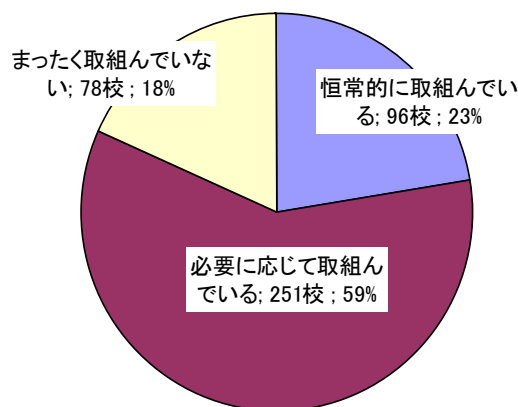
(各質問項目の標記番号(例: Q1)は、1次調査に回答いただけなかった学校に送付した調査用紙‘P8の調査票2次B’に記した番号とする。)

### Q1 貴校では、「自己点検・自己評価」に取り組んでいますか？(択一回答)

この項目は、1次調査に回答が無かった学校のうち、2次調査に答えていただいた425校からの回答を分析したものである。その中で、「恒常的に取り組んでいる」と答えた学校が96校(23%)、「必要に応じて取り組んでいる」と答えた学校が251校(59%)、「まったく取り組んでいない」と答えた学校が78校(18%)であった。

本来なら1次調査で回答していただく学校であるが、何らかの理由で前回のアンケートに返答できなかったのであろう。それは別として、80%以上の学校が自己点検・自己評価に取り組んでいると回答している。

図表V 自己点検・評価の実施

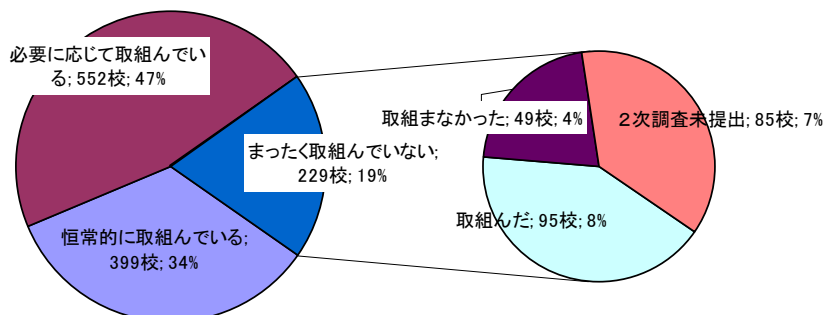


### Q2 導入モデルを使って「自己点検・自己評価」に取り組みましたか？(択一回答)

1次調査で「まったく取り組んでいない」と回答した学校の中で、2次調査において導入モデルを使って自己点検・自己評価を行った学校は95校(8%)、1次調査に回答は無かったが、2次調査に回答した学校では33校(8%)が行ったと答えており、合計128校が自己点検・自己評価を新たに実施したこととなる。

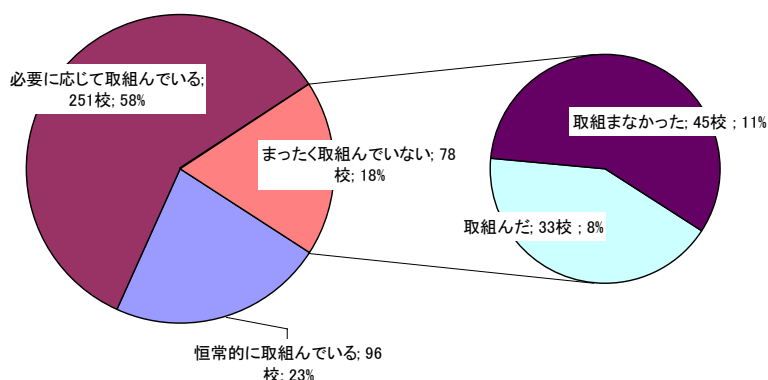
図表VI 1次調査の実施状況と2次調査の導入モデル取組状況

1次調査回答 1,180校                      2次調査発送 229校



図表VII 2次調査のみ回答校の実施状況と導入モデル取組状況

2次調査のみ回答 425校                      導入モデル取組状況



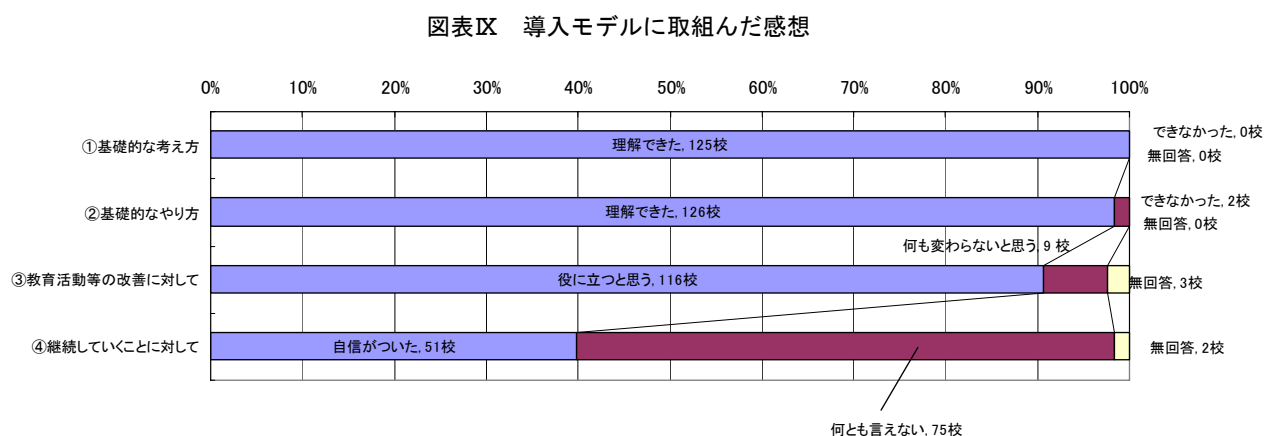
なお、この質問で導入モデルに取り組みなかった94校の属性は以下の通りである。

図表VIII Q2で、導入モデルに取組まなかった94校の属性(分母別はのべ数)

法人種別	学校数	工業	農業	医療	衛生	教育・社会福祉	商業実務	服飾・家政	文化・教養
学校法人	61	12	0	10	15	3	8	13	12
学校法人以外	33	2	0	4	1	1	6	19	3

**Q3 「導入モデルによる自己点検・自己評価」に取り組んだ感想や意見をお答えください。(択一回答)**

上記 Q2 で、新たに自己点検・自己評価に取り組んだ 128 校の回答を分析すると次のようになる。



基本的な考え方は全ての回答に理解できたと答えている。しかし、内容に対する質問や継続等の質問に対しては、ネガティブな回答が増加してきている。この中で、「基本的な考え方と基礎的なやり方が理解できた」にもかかわらず、「継続していくことに対して自信がない」と回答した 75 校の理由は、「全学的に動くのが難しい」、「導入モデルは、総括時に選択肢 2 つのうち 1 つを選択する基準が不明」、「専修学校高等課程として点検・評価の必要性について疑問」などがあつた。

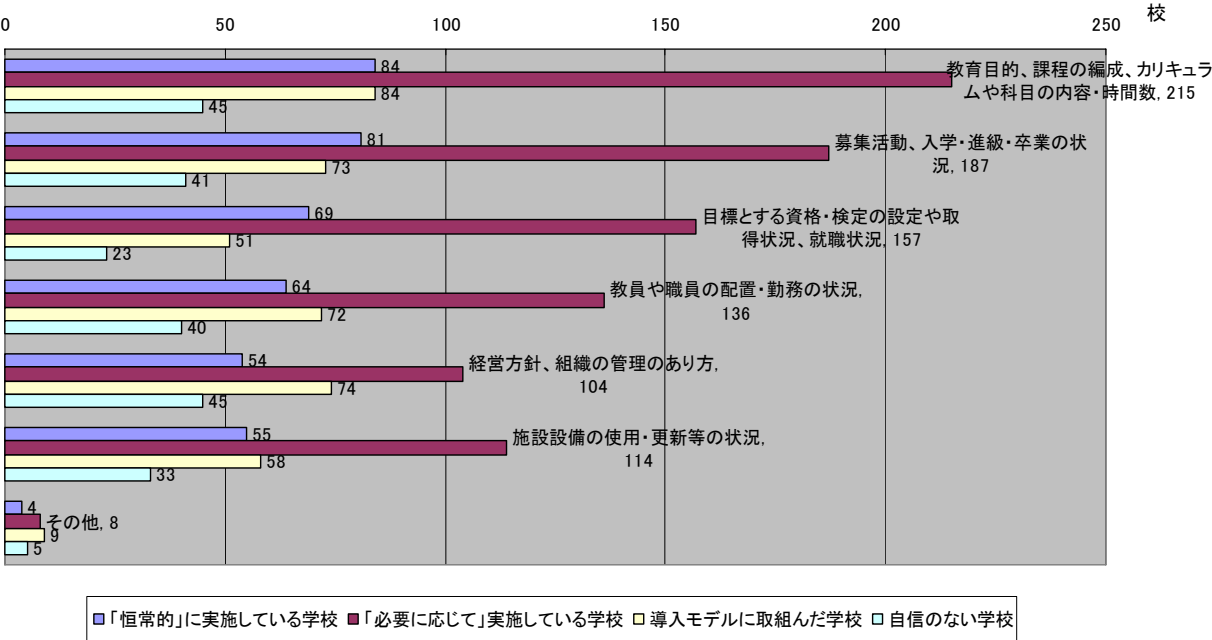
**Q4 今後、どのような項目の様式を希望しますか？(複数回答)**

この質問は、2 次調査において「自己点検・自己評価を恒常的、または必要に応じて取り組んでいる、および導入モデルに取り組んだ」と回答した 475 校に対して行われた。

希望する項目としては、「教育目的やカリキュラムに対する内容」や「募集活動等の内容に対する内容」の割合が高い。さらに、この質問の回答を細かく分けて分析

すると、「恒常的に取組んでいる」「必要に応じて取組んでいる」「導入モデルに取り組んだ」「継続していくことに自信がない」と回答した学校ではそれぞれ少しずつ内容が異なっていることがわかる。前者2グループの希望はそれぞれの項目でもかなり希望は高いものが見られた。逆に自信のない学校群では希望にばらつきがあり、一定とは言えない。内容に対する理解が足りないのであろう。

図表X 今後希望する簡易様式の項目



更に導入モデル実施校 128 校の属性を分野別、法人別に分類してみた。  
 今回の回収結果でははっきりとは出てはこなかったが、学校法人立の学校でもまだまだ取り組みが多くないことがわかった。さらに、導入モデルで実施した学校は、実施の意欲はあるけれども内容的にまだ理解が不足、情報を模索している学校であると推測される。いずれにしても、自己点検・自己評価への関心は徐々に高まっていると言えよう。

図表 X I 導入モデル実施校 128 校の属性(分野別はのべ数)

法人種別	学校数	工業	農業	医療	衛生	教育・ 社会福祉	商業実務	服飾・家政	文化・教養
学校法人	98	16	3	25	19	19	16	12	13
学校法人以外	30	2	1	14	5	1	1	7	2

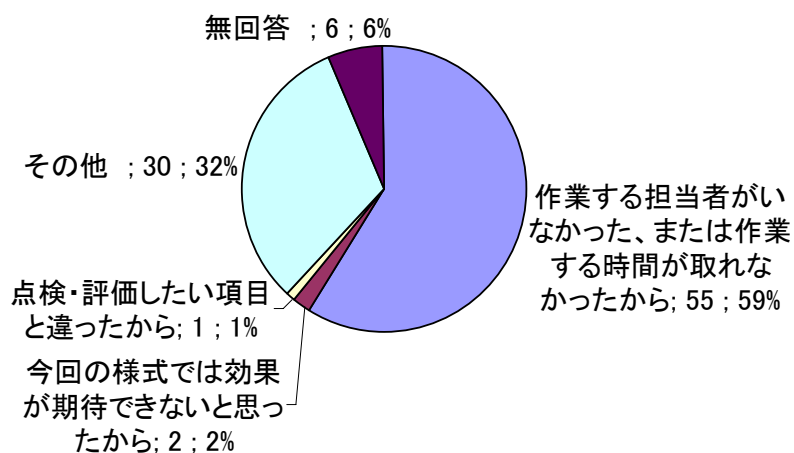
### Q5 導入モデルに、主にどの様な理由で取り組まなかったのですか？（択一回答）

最後に、Q2で「取り組まなかった」と回答した学校は94校あり、その回答内容は次の通りである。

「作業する人間や時間が無い」と答えた学校が半数以上あり、専修学校が如何に少ない人間で学校を運営しているかを物語っている。その他の理由では、これから取り組みたいという意見とは別に、学校の存続も含めて継続は難しいと答えている学校もある。

なお、設置について別に基準を持つ特定分野では、所轄庁等からも自己評価指針が出ていることが見受けられ、同じ内容を目指しているものではないかと推測されるが、現場ではそれぞれ別のものと判断していると解釈される回答が見られたことも気になった。

図表 X II 導入モデルに取り組まなかった理由



委員 平田 眞一

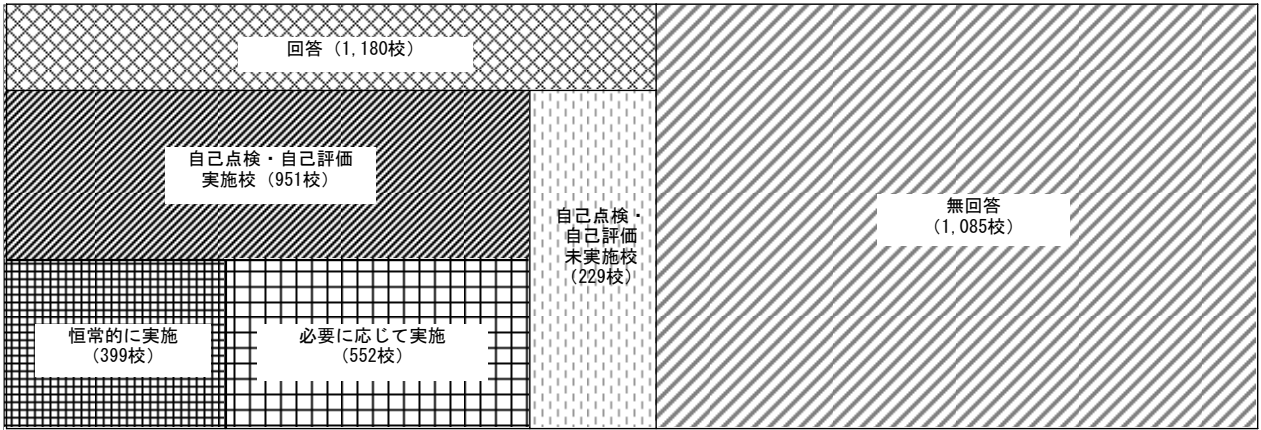
### 3. 1次調査、2次調査を通して

#### (1) 自己点検・自己評価取組み状況

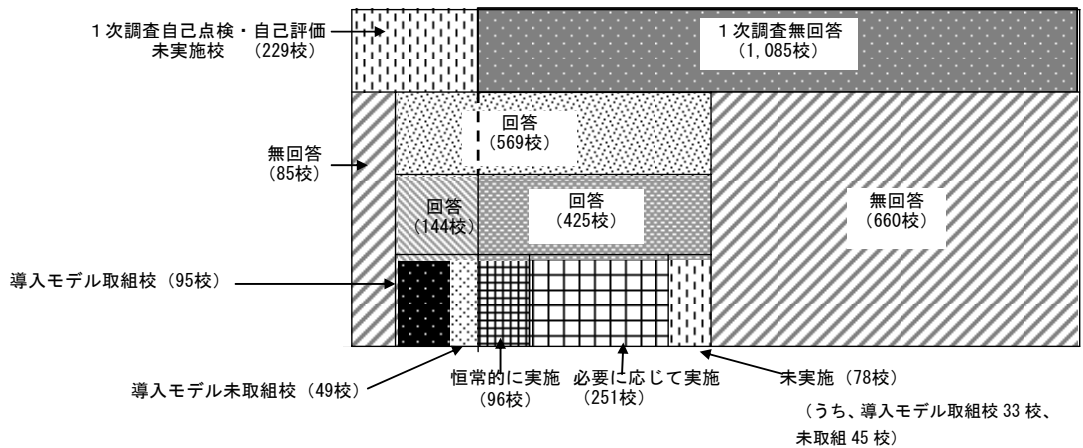
今回の調査は、全国の私立専修学校のうち、全国専修学校各種学校総連合会の会員校2,265校を対象にした1次調査と、1次調査の無回答校1,085校と1次調査で自己点検・自己評価に取り組まないと回答した229校、計1,314校を対象にした2次調査より成り立っている。

図表XⅢ 1次、2次調査の回答状況

1次調査（対象：2,265校）



2次調査（1,314校） 1次調査にて自己点検・評価未実施：229校 1次調査無回答校：1,085校





自己点検・自己評価の取組みにのみ注目すると、次の表のようになる。

図表XIV 自己点検・自己評価への取組状況

		合計	1次調査	2次調査	
取組んでいる	1,298校	恒常的に取組んでいる	495校	399校	96校
		必要に応じて取組んでいる	803校	552校	251校
取組んでいない	307校	取組んでいない	307校	229校	78校
		『導入モデル』に取組んだ	128校	95校	33校
		『導入モデル』に取組まなかった	94校	49校	45校

『導入モデル』に取組んだ学校も自己点検・自己評価の取組んだことになるので、最終的に自己点検・自己評価の取組校は右の表のようになる。

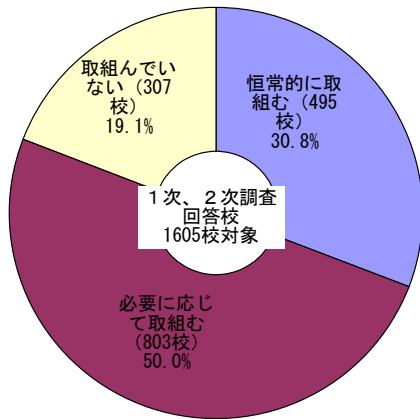
図表XV 実施校

自己点検・自己評価の取組校 （『導入モデル』も含めて）	1,426校
自己点検・自己評価の未取組校	179校

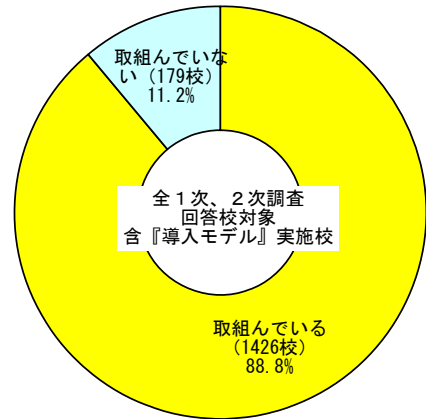
1次調査と2次調査をまとめて議論すれば、全専修学校2,265校の内、自己点検・自己評価に「恒常的に取組んでいる」は495校（22%）、「必要に応じて取組んでいる」が803校（35%）、「取組んでいない」は307校（14%）、無回答660校（29%）となった。自己点検・自己評価は、項目によっては年とともに大きく変化する部分は少ないことから、各学校が毎年のように実施するものではないのかもしれないし、自己点検・自己評価が議論されてから時間経過がないことから、自己点検・自己評価に「恒常的に取組んでいる」と「必要に応じて取組んでいる」は同一視して、自己点検・自己評価に「取組んでいる」と括ってよいのかもしれない。そうすれば、「取組んでいる」は1,298校（57%）となる。

また、今回の調査研究にて提案・提示した『導入モデル』を使って、1次調査で「取組んでいない」と回答した学校から95校、2次調査で「取組んでいない」と回答した学校から33校の計128校から自己点検・自己評価の新たな取組みを得た。これを加えると自己点検・自己評価に「取組んでいる」は1,426校（63%）となる。

図表XVI 取組みへの意欲



自己点検・自己評価実施状況  
(1次、2次調査計 回答校対象)



自己点検・自己評価取組み状況  
(1次、2次調査計 回答校対象 含『導入モデル』実施校)

## (2) 『導入モデル』取組み状況

1次調査で「まったく取組んでいない」と回答した学校229校への、『マニュアルや簡単な様式があれば自己点検・自己評価に取り組むことができるか』との問いには、「取組める」と答えたのは200校、「取組めない」と回答したのが16校、未選択で不明だったのが13校あった。2次調査で提案・提示した『導入モデル』のそれらの学校での取組み状況は以下の表のようになった。

図表XVII 取組みへの意欲

1次調査で「自己点検・自己評価に取り組んでいない」と回答 229校					
様式があれば取り組めるか					
取組める 200校		取組めない 16校		不明 13校	
『導入モデル』		『導入モデル』		『導入モデル』	
取組校	非取組校	取組校	非取組校	取組校	非取組校
87校	41校	4校	6校	4校	2校
2次調査 無回答 72校		2次調査 無回答 6校		2次調査 無回答 7校	

図表XVIII 導入モデル取組校（2次回答分）

2次調査回答校425校中、「自己点検・自己評価に取り組んでいない」と回答した78校に、提案・提示した『導入モデル』の取組み状況は右の表のようになった。

(1次調査無回答) 2次調査で自己点検・自己評価に 「取り組んでいない」と回答 78校	
『導入モデル』取組校 33校	『導入モデル』非取組校 45校

最終的に、2次調査で提案・提示した『導入モデル』は以下のように、128校が取組んだ。新たに自己点検・自己評価を実施しようとするどこから手をつけたら良いのか一般的にはわからないと思えるので、『導入モデル』の提案・提示から、さらに段階を追っての手段・方法を示すことが大事なのだろう。

図表XIX 調査別、導入モデル取組校

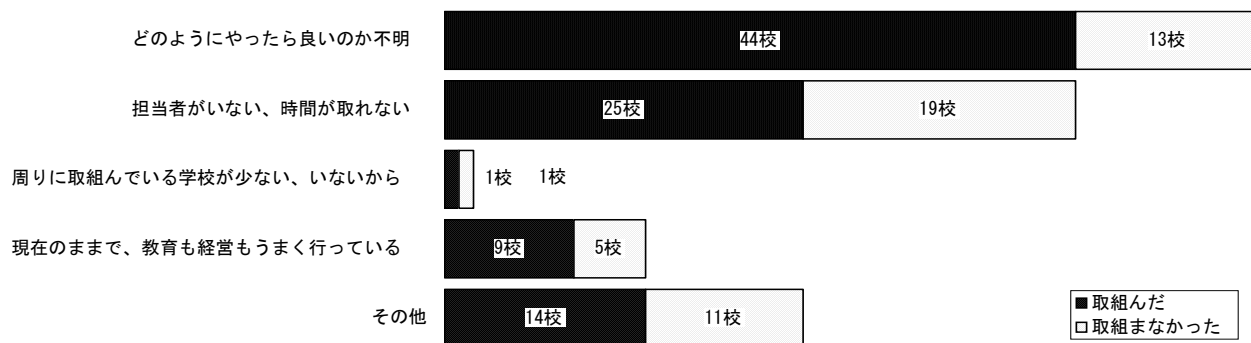
	『導入モデル』 取組校	『導入モデル』 非取組校
1次調査で「自己点検・自己評価に取り組んでいない」と回答	95校	49校
(1次調査無回答で) 2次調査で「自己点検・自己評価に取り組んでいない」と回答	33校	45校
計	128校	94校

1次調査で「まったく取り組んでいない」と回答し、「マニュアルや簡単な様式があれば自己点検・自己評価に取り組むことができるか」との問いに「取組める」と答えた学校200校の内、41校には実際に取り組んでいただけなかった。その理由としては、「作業する担当者がいなかった、または作業する時間が取れなかった（24件）」が圧倒的に多かった。人的、時間的に余裕がないと自己点検・自己評価を実施することは難しいのだろう。

### (3) 自己点検・自己評価に取組めない理由別『導入モデル』取組み状況

1次調査で「自己点検・自己評価に取組んでいない」と回答した学校のその理由ごとの『導入モデル』への取組み状況を図に示す。

図表XX 取組めない理由別『導入モデル』取組み状況 (択一回答)



「どのようにやったら良いのか不明」と回答した学校の77%の学校が、『導入モデル』に取組んだ。このことから、何らかの導入モデルを提案・提示していくことが大切であることがわかる。また、「担当者がいない、時間が取れない」と回答した学校の57%の学校にも取組んでいただいた。簡便な様式ならばできることを示しているのだろう。簡便なものの積み重ねでまとまった自己点検・自己評価になるように提案・提示が必要なのだろう。「現在のままでも、教育も経営もうまくいっているから」と回答した学校の64%の学校が実施していることは、自己点検・自己評価の必要性を感じているからなのだろう。

委員 秋葉 英一

## 第3章 自己点検・自己評価実施校リスト

平成18年3月10日現在

### <北海道>

旭川調理師専門学校  
エス・ワン動物専門学校  
大原医療福祉専門学校  
大原法律公務員専門学校  
大原簿記情報専門学校札幌校  
小樽歯科衛生士専門学校  
帯広コンピュータ・福祉専門学校  
帯広調理師専門学校  
北見美容専門学校  
釧路福祉・情報専門学校  
札幌医学技術福祉専門学校  
札幌医療科学専門学校  
札幌商科専門学校  
札幌心療福祉専門学校  
札幌デジタル専門学校  
札幌ビューティ・メイク専門学校  
札幌ベルエポック美容専門学校  
札幌リハビリテーション専門学校  
専修学校ファイブスターハイムバナーハイ函館校  
専修学校北海道ホームマンアカデミー  
専門学校日本福祉看護学院  
専門学校日本福祉リハビリテーション学院  
日本ビジネス総合専門学校  
函館理容美容専門学校  
函館臨床福祉専門学校  
北海道鍼灸専門学校  
北海道総合電子専門学校  
北海道千歳リハビリテーション学院  
北海道福祉衛生専門学校  
吉田学園自動車整備専門学校  
吉田学園社会体育専門学校  
吉田学園総合美容専門学校  
吉田学園総合福祉専門学校  
吉田学園電子専門学校  
吉田学園動物看護専門学校  
吉田学園ビジネス公務員専門学校  
吉田学園保健看護専門学校  
吉田学園リハビリテーション専門学校

### <青森県>

東奥保育・福祉専門学院  
東北コンピュータ専門学校  
八戸社会福祉専門学校  
ヘアアートカレッジ木浪学園

### <岩手県>

岩手医科大学歯科技工専門学校  
北東北東洋医療専門学校  
北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ  
北日本ヘア・スタイリストカレッジ  
水沢学苑看護専門学校  
盛岡医療福祉専門学校  
盛岡情報ビジネス専門学校  
盛岡調理師専門学校

### <宮城県>

専修学校河合塾文理  
仙台医療技術専門学校  
仙台医療福祉専門学校  
仙台大原簿記公務員専門学校  
仙台歯科技工士専門学校  
仙台情報ビジネス専門学校  
仙台接骨医療専門学校  
仙台総合ペット専門学校  
仙台デザイン専門学校  
仙台ビューティーアート専門学校  
仙台法経専門学校  
仙台幼児保育専門学校  
仙台理容美容専門学校  
専門学校アニマルインターカレッジ  
専門学校仙台カレッジオブデザイン  
専門学校デジタルアーツ仙台  
中央理容美容専門学校  
東北外国語専門学校  
東北福祉情報専門学校  
東北文化学園専門学校  
文理ランドスケープ園芸専門学校  
宮城文化服装専門学校  
モイジャパン美容専門学校

### <秋田県>

湯沢ドレメ専門学校

### <山形県>

三友堂病院看護専門学校  
山形厚生看護学校  
山形歯科専門学校  
山形総合ビジネス専門学校  
山形ヘアモード学院

### <福島県>

会津服装専門学校  
磐城高等商業学校  
太田看護専門学校  
ケイセン公務員ビジネス専門学校  
郡山学院高等専修学校  
郡山健康科学専門学校  
国際ビューティ・ファッション専門学校  
日本調理技術専門学校  
福島柔整鍼灸専門学校

### <茨城県>

アール医療福祉専門学校  
アール情報ビジネス専門学校  
石岡和裁専門学校  
技友ビューティ福祉専門学校  
鯉淵学園農業栄養専門学校  
筑波研究学園専門学校  
つくばビジネスカレッジ専門学校  
文化学院芸術工科専門学校  
水戸スクール・オブ・ビジネス  
水戸調理師専門学校  
リリー保育福祉専門学校

<栃木県>

荒川編物服飾専門学校  
石山和装専門学校  
宇都宮メディア・アーツ専門学校  
国際テクニカル調理師専門学校  
国際テクニカルデザイン専門学校  
国際ファッションビューティ専門学校  
国際ペット総合専門学校

<群馬県>

大泉保育福祉専門学校  
太田情報商科専門学校  
昭和服装専門学校  
東日本デザイン&コンピュータ専門学校  
東日本ホテルトラベル専門学校  
前橋文化服装専門学校

<埼玉県>

アルスコンピュータ専門学校  
浦和専門学校  
大原情報ビジネス専門学校大宮校  
大原法律公務員専門学校大宮校  
大原簿記医療秘書専門学校大宮校  
関東福祉専門学校  
越谷保育専門学校  
埼玉歯科衛生専門学校  
東都コンピュータ専門学校  
東武医学技術専門学校  
所沢文化服装専門学校  
日本動物総合専門学校  
平成福祉教育専門学校  
ワタナベ学園調理師専門学校

<千葉県>

イーストウエスト外国語専門学校  
上野法科ビジネス専門学校  
江戸川大学総合福祉専門学校  
大原簿記法律専門学校柏校  
大原簿記法律専門学校津田沼校  
北原学院歯科衛生専門学校  
組合立千葉美容専門学校  
国際トラベル・ホテル専門学校  
国際理工専門学校  
専門学校新国際福祉カレッジ  
専門学校ちば愛犬動物学園  
専門学校藤リハビリテーション学院  
瀧澤学園千葉専門学校  
千葉福祉専門学校  
中央介護福祉専門学校  
中央自動車大学校  
東京動物専門学校  
新堀自動車専門学校  
船橋情報ビジネス専門学校  
松山学園松山福祉専門学校  
ユニバーサルビューティカレッジ

<東京都>

青山製図専門学校  
赤堀栄養専門学校  
池見東京歯科衛生士専門学校  
上野法律専門学校

大塚情報処理専門学校  
大塚末子きもの学院  
大塚テキスタイルデザイン専門学校  
大原情報ビジネス専門学校  
大原法律専門学校  
大原簿記法律専門学校立川校  
大原簿記法律専門学校町田校  
御茶の水美術専門学校  
音響技術専門学校  
関東柔道整復専門学校  
共立医療秘書専門学校  
江東服飾高等専修学校  
国際医療管理専門学校  
国際観光専門学校  
資生堂美容技術専門学校  
秀林外語専門学校  
新宿情報ビジネス専門学校  
聖徳調理師専門学校  
専門学校桑沢デザイン研究所  
専門学校東京テクニカルカレッジ  
専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美  
専門学校日本ホテルスクール  
専門学校舞台芸術学院  
専門学校ミューズ・モード音楽院  
専門学校ミューズ音楽院  
専門学校武蔵野ファッションカレッジ  
竹早教員保育士養成所  
多摩調理師専門学校  
中央医療学園専門学校  
中央工学校  
中央動物専門学校  
東京医療専門学校  
東京医療秘書福祉専門学校  
東京衛生学園専門学校  
東京教育専門学校  
東京健康科学専門学校  
東京建築専門学校  
東京工科専門学校  
東京工科専門学校品川校  
東京工科専門学校世田谷校  
東京商工経済専門学校  
東京スポーツ・レクリエーション専門学校  
東京誠心調理師専門学校  
東京聖星社会福祉専門学校  
東京調理師専門学校  
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校  
東京デジタルテクニカル専門学校  
東京都歯科医師会附属歯科衛生士専門学校  
東京トフィ・ファッション専門学校  
東京ビューティーアート専門学校  
東京文化医学技術専門学校  
東京ホテルビジネス専門学校  
東京マスダ学院調理師専門学校  
東京マスダ学院文化服装専門学校  
東京モード学園  
東京理容専修学校  
東京YMCA医療福祉専門学校

東京Y M C A社会体育・保育専門学校  
 東放学園音響専門学校  
 東洋鍼灸専門学校  
 トラベルジャーナル旅行専門学校  
 西東京歯科衛生士専門学校  
 日体柔整専門学校  
 日本医学柔整鍼灸専門学校  
 日本医歯薬専門学校  
 日本音楽学校  
 日本工学院八王子専門学校  
 日本電子専門学校  
 日本フラワーデザイン専門学校  
 華学園栄養専門学校  
 華学園ビジネス専門学校  
 マリエルイズ美容専門学校  
 武蔵野栄養専門学校  
 武蔵野調理師専門学校  
 武蔵野東技能高等専修学校  
 ヤマザキ動物専門学校  
 読売東京理工専門学校  
 臨床福祉専門学校  
 早稲田速記医療福祉専門学校  
 早稲田大学芸術学校  
 <神奈川県>  
 浅野工学専門学校  
 岩谷学園アーティスティックB専門学校  
 岩谷学園高等専修学校  
 岩谷学園テクノビジネス専門学校  
 大原情報ビジネス専門学校横浜校  
 大原法律公務員専門学校横浜校  
 大原簿記専門学校横浜校  
 小田原看護専門学校  
 小田原高等看護専門学校  
 神奈川県大学附属歯科理工専門学校  
 神奈川県社会福祉専門学校  
 社会保険横浜看護専門学校  
 湘南歯科衛生士専門学校  
 湘南平塚看護専門学校  
 情報科学専門学校  
 生蘭高等専修学校  
 専修学校代々木ゼミナール横浜校  
 専門学校横浜電算学院  
 専門学校横浜ミュージックスクール  
 総合電子専門学校  
 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校  
 日産横浜整備専門学校  
 日本ヒューマンセラモニー専門学校  
 日本溶接構造専門学校  
 早見芸術学園専門学校  
 矢沢服飾専門学校  
 大和商业高等専修学校  
 山本文化服装学院  
 横浜市医師会看護専門学校  
 横浜日建工科専門学校  
 横浜ファッションデザイン専門学校  
 横浜Y M C A学院専門学校  
 米山ファッション・ビジネス専門学校  
 Y M C A健康福祉専門学校  
 <新潟県>  
 アップルスポーツカレッジ  
 国際アウトドア専門学校  
 国際音楽エンタテイメント専門学校  
 国際自動車工科専門学校  
 国際福祉医療カレッジ  
 J A P A Nサッカーカレッジ  
 上越保健医療福祉専門学校  
 全日本ウィンタースポーツ専門学校  
 長岡看護福祉専門学校  
 長岡美容専門学校  
 新潟医療技術専門学校  
 新潟工科専門学校  
 新潟公務員法律専門学校  
 新潟コンピュータ専門学校  
 にいがた製菓・調理師専門学校えぷろん  
 新潟中央福祉専門学校  
 新潟デザイン専門学校  
 日本アニメ・マンガ専門学校  
 日本ベースボール・セキュリティ専門学校  
 北陸調理・製菓専門学校  
 北陸福祉保育専門学院  
 悠久山栄養調理専門学校  
 <富山県>  
 雄山家政専修学校  
 出町家政専修学校  
 富山建築・デザイン専門学校  
 富山県理容美容専門学校  
 富山コンピュータ専門学校  
 富山情報ビジネス専門学校  
 富山デザイン・ビューティー専門学校  
 北陸ビジネス福祉専門学校  
 <石川県>  
 一輝星高等専修学校  
 金沢国際専門学校  
 専修学校K I D I P A R S O N S  
 (専)日本航空大学校  
 <福井県>  
 天谷調理師専門学校  
 福井県理容美容専門学校  
 <山梨県>  
 甲府看護専門学校  
 日本アーツオブビューティ専門学校  
 <長野県>  
 飯田ゆめみらいI C Tカレッジ  
 上田情報ビジネス専門学校  
 専門学校長野外語カレッジ  
 長野医療衛生専門学校  
 長野調理製菓専門学校  
 長野法律専門学校  
 長野理容美容専門学校  
 文化女子大学長野専門学校  
 松本衣デザイン専門学校  
 松本調理師製菓師専門学校  
 松本理容美容専門学校  
 八ヶ岳中央農業実践大学校

<岐阜県>

岐阜調理製菓高等専修学校  
岐阜美容専門学校  
専修学校中部国際自動車大学校  
中日本航空専門学校  
ベルフォートアカデミーオブビューティ  
ミュキ文化服飾専門学校

<静岡県>

オイスカ開発教育専門学校  
大原情報ビジネス専門学校静岡校  
大原法律公務員専門学校静岡校  
大原法律公務員専門学校浜松校  
大原簿記専門学校静岡校  
大原簿記専門学校浜松校  
国際医療管理専門学校熱海校  
国際観光専門学校熱海校  
国際トラベル・ホテル専門学校静岡校  
国際トラベル・ホテル専門学校浜松校  
静岡産業技術専門学校  
静岡山水歯科衛生士専門学校  
専門学校静岡医療秘書学院  
専門学校静岡工科自動車大学校  
専門学校静岡電子情報カレッジ  
専門学校白寿医療学院  
専門学校ルネサンス・アカデミー  
中遠調理師家政専門学校  
土屋学園家政専門学校  
東海医療学園専門学校  
東海工科専門学校  
東海福祉専門学校  
常葉学園医療専門学校  
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校  
浜松経理専門学校  
浜松情報専門学校  
富士コンピュータ専門学校  
富士調理製菓専門学校  
<愛知県>  
愛知調理専門学校  
家政専門学校緑ヶ丘女学院  
菊武ビジネス専門学校  
コンピュータ総合学園HAL専門学校  
慈恵福祉保育専門学校  
専修学校さつき調理・福祉学院  
専門学校愛知医療学院  
専門学校中部ビューティ・デザインカレッジ  
専門学校名古屋デザイナー学院  
専門学校名古屋デンタル衛生士学院  
専門学校日本デザイナー芸術学院  
中部大学技術医療専門学校  
中部美容専門学校一宮校  
中部ファッション専門学校  
中部リハビリテーション専門学校  
東海医療工学専門学校  
桐華家政専門学校  
トヨタ名古屋整備専門学校  
名古屋医療秘書福祉専門学校  
名古屋経営会計専門学校

名古屋コミュニケーションアート専門学校  
名古屋文化学園保育専門学校  
名古屋モード学園  
名古屋ユマニテク歯科医療専門学校  
名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校  
日産愛知整備専門学校  
日本医療福祉専門学校  
布池外語専門学校  
ビジネス教養専門学校エクセレンス  
藤田保健衛生大学看護専門学校  
藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校  
三河歯科衛生専門学校  
三菱自動車整備専門学校  
名鉄自動車専門学校  
山本学園情報文化専門学校

<三重県>

伊勢調理製菓専門学校  
伊勢理容美容専門学校  
ユマニテクデザイン専門学校  
四日市情報外語専門学校

<滋賀県>

国際経営情報専門学校

<京都府>

大原簿記法律専門学校京都校  
キャリアールホテル旅行専門学校  
京都医健専門学校  
京都栄養医療専門学校  
京都外国語専門学校  
京都芸術デザイン専門学校  
京都建築専門学校  
京都コンピュータ学院鴨川校  
京都コンピュータ学院京都駅前校  
京都コンピュータ学院洛北校  
京都自動車専門学校  
京都製菓技術専門学校  
京都調理師専門学校  
京都福祉専門学校  
日産京都整備専門学校

<大阪府>

ECC国際外語専門学校  
ECCコンピュータ専門学校  
上田安子服飾専門学校  
エールネットワーク専門学校  
大阪医専  
大阪医療技術学園専門学校  
大阪教育福祉専門学校  
大阪建設専門学校  
大阪工業技術専門学校  
大阪コミュニケーションアート専門学校  
大阪歯科衛生士専門学校  
大阪情報コンピュータ高等専修学校  
大阪スクールオブミュージック専門学校  
大阪総合デザイン専門学校  
大阪中央理容美容専門学校  
大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校  
大阪バイオメディカル専門学校  
大阪ファッションアート専門学校



大阪モード学園  
 大阪リゾートアンドスポーツ専門学校  
 大阪YWCA専門学校  
 大原医療秘書福祉専門学校梅田校  
 大原医療秘書福祉専門学校大阪校  
 大原情報システム専門学校  
 大原法律公務員専門学校大阪校  
 大原簿記専門学校大阪校  
 大原簿記法律専門学校梅田校  
 大原簿記法律専門学校難波校  
 河崎医療技術専門学校  
 コンピュータ総合学園HAL専門学校  
 財団法人日本生命済生会付属日生看護専門学校  
 修成建設専門学校  
 新大阪歯科技工士専門学校  
 清風情報工科学院  
 専修学校大阪YMCA学院  
 中央学園専門学校  
 中央テクニカルカレッジ専門学校  
 テラ外語専門学校  
 天王寺デジタルコミュニケーション専門学校  
 東洋きもの専門学校  
 東洋ファッションデザイン専門学校  
 トラジャール旅行ホテル専門学校  
 日本コンピュータ専門学校  
 日本分析化学専門学校  
 日本メディカル福祉専門学校  
 日本理工情報専門学校  
 平成医療学園専門学校  
 ベルランド看護助産専門学校  
 ホンダ関西自動車整備専門学校  
 美原看護専門学校  
 メディカルエステ専門学校  
 森ノ宮医療学園専門学校  
 履正社学園コミュニティ・スポーツ専門学校  
 <兵庫県>  
 愛甲法科専門学校  
 大原簿記専門学校神戸校  
 神戸歯科助手学院専門学校  
 神戸電子専門学校  
 神戸YMCA学院専門学校  
 商業実務専門学校東亜リフレックススクール長田校  
 専門学校アートカレッジ神戸  
 東亜経理専門学校神戸駅前校  
 日本栄養専門学校  
 播磨中央福祉専門学院  
 <奈良県>  
 五條ドレスメーカー専門学校  
 奈良情報経理高等専修学校  
 <和歌山県>  
 オカファッションデザイン専門学校  
 和歌山コンピュータビジネス専門学校  
 和歌山社会福祉専門学校  
 和歌山YMCA国際福祉専門学校  
 <鳥取県>  
 鳥取県中部医師会附属倉吉看護高等専修学校  
 鳥取県理容美容高等専修学校  
 日本海情報ビジネス専門学校  
 島根総合福祉専門学校  
 島根デザイン専門学校  
 島根リハビリテーション学院  
 <岡山県>  
 朝日医療技術専門学校  
 旭川荘厚生専門学院  
 旭川荘厚生専門学院吉井川キャンパス  
 朝日リハビリテーション専門学校  
 岡山医療技術専門学校  
 岡山科学技術専門学校  
 岡山済生会看護専門学校  
 岡山赤十字看護専門学校  
 岡山理科大学専門学校  
 岡山労災看護専門学校  
 倉敷看護専門学校  
 倉敷中央看護専門学校  
 桑原服装専門学校  
 順正高等看護専門学校  
 専門学校岡山ビジネスカレッジ  
 専門学校岡山ビューティモード  
 専門学校川崎リハビリテーション学院  
 専門学校倉敷ファッションカレッジ  
 専門学校ビーマックス  
 専門学校ワールドオプティカルカレッジ  
 ソワニエ看護専門学校  
 玉野総合医療専門学校  
 中国デザイン専門学校  
 西日本調理製菓専門学校  
 ベル総合福祉専門学校  
 <広島県>  
 IGL医療専門学校  
 尾道YMCA福祉専門学校  
 日本海洋技術専門学校  
 ヒューマンウェルフェア広島専門学校  
 広島医療体育学院専門学校  
 広島会計学院専門学校  
 広島外語専門学校  
 広島県理容美容専門学校  
 広島工業大学専門学校  
 広島情報ビジネス専門学校  
 広島電子専門学校  
 広島ビジネス専門学校  
 広島YMCA健康福祉専門学校  
 <山口県>  
 下関福祉専門学校  
 下関文化産業専門学校  
 防府福祉医療専門学校  
 山口インフォメーション・カレッジ  
 山口福祉専門学校  
 <徳島県>  
 平成調理師専門学校  
 <香川県>  
 四国福祉専門学校  
 四国リハビリテーション学院  
 専門学校禅林学園  
 アイペットワールド専門学校

<愛媛県>

今治商業専門学校  
愛媛十全医療学院  
松山総合福祉専門学校

<高知県>

高知情報ビジネス専門学校  
高知文化服装専門学校  
高知リハビリテーション学院  
国際デザイン・ビューティカレッジ  
須崎ビジネス専門学校  
平成福祉専門学校

<福岡県>

アーバン医療福祉専門学校  
麻生医療福祉専門学校北九州校  
麻生医療福祉専門学校福岡校  
麻生工科デザイン専門学校  
麻生公務員専門学校北九州校  
麻生公務員専門学校福岡校  
麻生情報ビジネス専門学校北九州校  
麻生リハビリテーション専門学校  
大原公務員医療専門学校福岡校  
大原簿記公務員専門学校小倉校  
大原簿記情報専門学校福岡校  
九州電気専門学校  
国土館大学福祉専門学校  
専修学校麻生外語観光カレッジ  
専修学校麻生ビューティーカレッジ  
専修学校麗学園  
専修学校K I 服飾学園  
専門学校九州リハビリテーション大学校  
西鉄自動車整備専門学校  
平岡栄養士専門学校  
福岡医科歯科技術専門学校  
福岡医健専門学校  
福岡医療秘書福祉専門学校  
福岡エコ・コミュニケーション専門学校  
福岡お茶の水医療秘書福祉専門学校  
福岡外語専門学校  
福岡国際コミュニケーション専門学校  
福岡コミュニケーションアート専門学校  
福岡柔道整復専門学校  
福岡スクールオブミュージック専門学校  
福岡デザイン専門学校  
福岡マルチメディア専門学校

<佐賀県>

佐賀インテリジェントビジネスカレッジ  
佐賀工業専門学校  
専修学校佐賀高等予備校

<長崎県>

大村看護高等専修学校  
ソシアル淳心ファッションビジネス専門学校  
長崎医療技術専門学校

<熊本県>

熊本外語専門学校  
熊本高等理容学校  
熊本電子ビジネス専門学校  
熊本労災看護専門学校

専修学校熊本壺溪塾（大学予備校）

専門学校熊本ビジネスカレッジ  
専門学校公務員ゼミナール熊本校  
メディカル・カレッジ青照館

<大分県>

明日香美容文化専門学校  
総合技術工学院  
田北調理師専門学校

<宮崎県>

えびの高原国際専門学校  
向洋学園高等専修学校  
サンアートアカデミー宮崎  
潤和会記念病院附属宮崎リハビリテーション学院  
都城調理師高等専修学校  
宮崎医療福祉専門学校  
宮崎調理師専門学校  
宮崎ユニバーサル・カレッジ

<鹿児島県>

奄美情報処理専門学校  
鹿児島県理容美容専門学校  
鹿児島情報ビジネス専門学校  
鹿児島測量専門学校  
鹿児島ハイテク専門学校  
加治木看護専門学校

<沖縄県>

沖縄大原簿記専門学校  
国際電子ビジネス専門学校  
サイ・テク・カレッジ那覇  
専修学校インターナショナルデザインアカデミー  
専修学校インターナショナルリゾートカレッジ  
専修学校ビューティーモードカレッジ  
専門学校那覇日経ビジネス工学院  
専門学校沖縄中央学園  
専門学校大育  
専門学校日経ビジネス工学院  
専門学校琉球リハビリテーション学院  
ソーシャルワーク専門学校  
大育高等専修学校  
大育情報ビジネス専門学校  
琉球調理師専修学校  
琉球美容専修学校

（注：今回の調査で、自己点検・自己評価を「恒常的に実施」あるいは「必要に応じて実施」と回答した学校、もしくは専教振の提示した「導入モデル」に取り組んだ学校のうち、自己点検・自己評価を実施していることを公表して良いと答えた学校を掲載）

## 第4章

### 自己点検・自己評価 様式例

◆◆◆◆ 授業アンケート ◆◆◆◆

\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ コース

このアンケートは、学生のみなさんにとってより良い授業を提供するために行います。  
無記名のアンケートですから、率直な意見をお書き下さい。この集計結果を、後期開始時に掲示しますのでご確認ください。なお、アンケートはボールペンにてご記入下さい。

1. 授業には意欲的に取り組みましたか？………… Yes …… No
2. 授業の課題は提出しましたか？………… Yes …… No
3. 授業中、ノートやメモを採りましたか？…… Yes …… No
4. 予習・復習をしましたか？………… Yes …… No
5. ニュースに関心がありますか？………… Yes …… No
6. 教科書以外の専門書・専門雑誌を読みましたか？ …… Yes …… No

7. 専門科目の中で興味を持って取り組めた授業を**最大3つ**あげて下さい。

科目名	①	②	③
理由			

8. 専門科目の中で興味を持てなかった授業を**最大3つ**あげて下さい。

科目名	①	②	③
理由			

ご協力ありがとうございました。

1. 授業概要

学科：	担当者：	印	提出日：平成 年 月 日
科目群：	科目：	単位数：	
開講時期：	年次	前期・後期・通年	履修条件：必修・選択
講義日：	平成 年 月 日	第 回	全回数： 回
教科書：	教材・参考書：		
使用教室：	教育機器：		
授業目標			
授業概要			
重要項目			
①			
②			
③			
④			
⑤			

2. 出席状況

在籍者： 名	受講者： 名	遅刻者： 名	出席者： 名	出席率： %
--------	--------	--------	--------	--------

3. 理解度テスト

出席者： 名	受験者： 名	平均点： 名	合格者： 名	合格率： %
理解度確認方法：				

4. 担当者評価

--

科目の教育目標・授業計画 「平成 年度」

学科：	担当者：	印	提出日：平成 年 月 日
科目群：	科目：	単位数：	
開講時期：	年次	前期・後期・通年	履修条件：必修・選択
教科書：	教材・参考書：		
成績評価方法：			

1. 教育目標

--

2. 授業計画

前期	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
後期	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

3. 単位認定

目標合格率： %

評価平均：	点	在籍者：	名	合格者：	名	合格率：	%
-------	---	------	---	------	---	------	---

4. 担当者評価

--

## 平成 年度(前期・後期)講義計画・自己評価表

科目：No. ( )

担当教員：

曜 日： 時 限：

使用教科書（著書名、出版社、著者）
-------------------

●仕上がり像

●講義計画

日付	講義内容（単元、内容、テキストの頁数等）	補助教材
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		
/		

枠が不足する場合は、コピーをして添付すること。

**学生対象授業アンケート：座学授業**

学 科： コース：	学科 コース	科 目：	担当者：
実施日： 年 月 日	単位数： 必修・選択	単 位	開講時期： 学年： 前期・後期・通年

**アンケート実施方法**

①回答は別紙マークシートに鉛筆で記入して下さい。

評価方法は、下記を参照して下さい。

1	2	3	4	5
不満	←	普通	→	満足
不十分		普通		十分
否定的回答				肯定的回答

②アンケート用紙の「その他の意見」には、自由な意見を記入して下さい。

③アンケート用紙・マークシートは無記名で両方提出して下さい。

~~~~~アンケート~~~~~

**1. 授業方法について**

- ①声は聞き取りやすいですか
- ②話す早さは適切ですか
- ③字は丁寧で見やすいですか
- ④進行ペースは適切ですか
- ⑤学生の理解度を考慮していますか
- ⑥騒がしい学生に対する指導は適切ですか

その他の意見

**2. 授業内容について**

- ⑦年間授業計画の説明は適切ですか
- ⑧毎回の授業概要の説明は適切ですか
- ⑨授業計画通り進行していますか
- ⑩授業内容のレベルは適切ですか
- ⑪教科書や教材等を有効に活用していますか
- ⑫授業の内容を理解できましたか

その他の意見

**3. 教育環境**

- ⑬教室の環境（照明・音響等）は適切ですか
- ⑭清掃状況は適切ですか
- ⑮椅子・机などは適切ですか
- ⑯あなた自身校内美化を心がけていますか

その他の意見

**4. 学生自身の取り組みについて**

- ⑰出席率は十分でしたか
- ⑱遅刻・早退はありませんでしたか
- ⑲この授業に真剣に臨みましたか
- ⑳授業内容を理解するための努力をしましたか

その他の意見



## 別表1 自己点検・自己評価の項目及び観点と確認資料（データ）

※1 ○印のついた部署は自己点検・自己評価項目ごとに観点に従って点検・評価する

※2 校長：学校運営責任部門（者）、学科：学科長・主任、事務局：事務局（長）及び該当する各課（長）・室（長）、委員会：自己点検・自己評価委員会（長）・教務委員会（長）・学生委員会（長）

### 3 教育課程の領域

| 校長 | 学科 | 事務局 | 委員会 | 自己点検・自己評価項目                             | 観点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 確認資料（データ）                                                   |
|----|----|-----|-----|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| ○  | ○  | ○   |     | 1 教育課程の運営は組織的に行われ、編成した教育課程の評価は適切に行われている | 2)教育課程の編成を組織的に行うために目的、機能・役割を明確に規定しているか。<br>3)教育課程の運営は、編成した教育課程の評価結果を改善につなげる活動になっているか。                                                                                                                                                                                                                                              | ・教育課程を編成者（委員会等）の目的、機能・役割を示した文書<br>・編成した教育課程の評価と改善の考え方を示した文書 |
|    | ○  | ○   |     | 2 教育課程の編成の考え方は明快であり、主体性のある具体的な構成になっている  | 1)教育課程は、各専門分野の内容、求める学修の到達について基本的な考え方を明確にし、根拠をもって編成しているか。<br>2)指定学科等の場合は、指定規則に示された教育内容を単に遵守するだけでなく、本校としての主体性を持って、どのような教育課程が適切であるかを明快にして、編成しているか。<br>3)教育課程は、何を必修・選択とするか等についての考え方が明確になっているか。                                                                                                                                         | ・教育課程編成の考え方とその具体的な構成を示した文書                                  |
|    | ○  | ○   |     | 3 教育分野の位置づけと配分の考え方が明確である                | 1)基礎分野、専門分野、総合分野についての考え方と各分野の具体的な内容をどのようなものとするかが明示されているか。<br>2)基礎分野は、設定した内容がなぜ基礎と位置づけられるのか、何に対する基礎なのか明確になっているか。<br>3)専門分野は、それぞれの学科で要求される内容で構成されるが、社会人として求められる能力を持った人材を育成するために必要かつ妥当な内容が選択されているか。<br>4)総合分野は、各学科共通の内容で構成されるが、それぞれの学科にとって必要と思われる内容が網羅され、選択されているか。<br>5)単位数と授業時間数は、設定した教育内容がどのように授業され、学生によって、どのように学ばれるのかを理解して設定しているか。 | ・教育内容の階層的関連性、配分の考え方を明示した文書、学生便覧、履修要覧等                       |
|    |    |     |     | 5 教育計画                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                             |
|    | ○  | ○   |     | 1)単位履修の考え方を明快に明示している                    | 1)学科毎に定められた就業年限を遵守した上で、学生が効果的に学修できるように、科目の履修方法を考慮しているか。                                                                                                                                                                                                                                                                            | ・単位履修の考え方を示した文書、学生便覧、履修要覧等                                  |
|    | ○  | ○   |     | 2)科目の配列は適切である                           | 1)学生が科目間の関連を理解し、各科目で修得した知識・技術が統合されて理解できるように、科目の配列（履修の順序性）を意図的に決めているか。                                                                                                                                                                                                                                                              | ・単位履修の考え方を示した文書、学生便覧、履修要覧等                                  |

### 3 教育課程の領域

| 校長 | 学科 | 事務局 | 委員会 | 自己点検・自己評価項目                      | 観点                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 確認資料（データ）                                            |
|----|----|-----|-----|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
|    |    |     |     | 6 教育課程評価の体系                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                      |
| ○  | ○  | ○   | ○   | 1) 単位認定の考え方、方法は妥当であり、明示され理解されている | 1) 単位認定の基準および方法は、必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、妥当であるか。<br>2) 単位認定にあたっては、教育目標との一貫性があるか。<br>3) 評価の時期、評価基準は明確に設定され、全ての授業担当者が理解しているか。<br>4) 単位認定の方法は学生に明示され、それが学修の支援につながっているか。<br>5) 大学等、他の高等教育機関において修得した単位が相互に認められる体制を整えているか。<br>6) 授業担当者の裁量と学校としての基準との関連を明確にしてあるか。                               | ・単位認定の考え方、方法を明示した文書                                  |
| ○  | ○  | ○   | ○   | 2) 教育課程を体系的に評価している               | 1) 教育課程の評価を、教育目的、教育目標の達成を見極め、改善して行く活動として実施しているか。<br>2) 学生の到達状況や単位認定結果だけではなく、教師、学習環境、組織運営を対象とした評価など、多角的に資料を収集し、分析しているか。<br>4) 評価資料を多角的かつより客観的に得るために、教師を対象とした評価では、学生による授業評価の取り入れ、教育課程運営の評価では、他部門等から評価を受けることなどを意図的に取り入れているか。<br>6) 評価結果の活用にあたっては、評価対象者にとって不利にならないような配慮についての倫理的規定を明確にしているか。 | ・教育課程の評価をどのように行うかを示した資料<br>・教育課程の評価に使用した記録           |
|    |    |     |     | 8 学生の実習体験が保障されている                |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                      |
|    | ○  | ○   |     | 1) 実習施設は適切に選択し、新規開拓を行っている        | 1) 実習は専修学校教育の特徴であり、実習施設は、教育目標を達成するために適した施設を第一に考慮しているか。<br>2) 施設の運営理念、考え方、体制等が、学生の学修の場として適しているかどうか十分に検討しているか。<br>3) 実習施設の事情による変更への対処や、学生の学習の保障のために、実習施設の新規開拓をしているか。                                                                                                                      | ・実習施設の選択、学生の配置についての方針および施設との連絡・調整をどのようにしているかを示している資料 |
|    | ○  |     |     | 2) 実習目標達成のための実習施設との協力体制ができている    | 1) 実習指導における学生の学びのために、学生指導は、実習指導者と教員が協力しあいながら行なっているか。<br>2) 実習指導者と教員は実習体験の意味づけを明確にし、学習内容、指導方法の選択について連携を図っているか。<br>3) 実習施設は、学生の学習段階に応じて指導できるような協力体制になっているか。                                                                                                                               | ・実習施設の選択、学生の配置についての方針および施設との連絡・調整をどのようにしているかを示している資料 |
|    | ○  |     |     | 4) 対象者の権利の尊重についての指導が確立している       | 実習の対象となる人に対して、権利及びプライバシーを侵害することがないように、依頼・承諾、実習記録の取り扱い等についての基本的な指導をしているか。                                                                                                                                                                                                                | ・権利とプライバシーの保護について、指導の考え方を示した文書                       |

### 3 教育課程の領域

| 校長 | 学科 | 事務局 | 委員会 | 自己点検・自己評価項目         | 観点                                                                                                                                                                                                                                             | 確認資料（データ）             |
|----|----|-----|-----|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
|    | ○  | ○   |     | 5)実習における安全対策が確立している | <p>1)実習中には、学生自身が事故（感染に関する内容も含む）を起こしたり、巻き込まれたりする可能性があり、事故が発生した場合、学生への影響を可能な限り最小限に止め、学習の継続が可能になるような手だてを整えているか。</p> <p>2)事故の考え方、実習に関連する事故の現状や対策について、実習の進度にあわせて安全教育を実施しているか。</p> <p>3)事故が発生した場合は、内容と原因を把握・分析し、再発防止と予防対策に活かしていくようなシステムをつくっているか。</p> | ・実習中に発生する事故への対応を示した文書 |

### 4 授業・学習・評価の領域

| 校長 | 学科 | 事務局 | 委員会 | 自己点検・自己評価項目                        | 観点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 確認資料（データ）                                                                                                               |
|----|----|-----|-----|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | ○  |     |     | 2 授業における教育内容は妥当性があり、科目目標との整合がとれている | <p>1)授業における教育内容は、担当教師の専門性や得意分野を強調するのではなく、構成する科目や単元、授業の意図にそった内容となっているか。</p> <p>2)授業内容に目標とする資格試験・検定試験等がある場合は、教育内容はその試験領域と整合がとれたものになっているか。</p>                                                                                                                                                                                 | ・学生便覧、履修要覧、シラバス                                                                                                         |
|    | ○  |     |     | 4 授業の展開<br>3)教師は、指導技術を工夫した授業を行っている | <p>1)教師は、教育内容の説明を効果的に、学生の理解や学習意欲、課題の追究を支援するために、「説明」「発問」「指示」「演示」など、学生が自ら学習意欲を高められるように指導技術を駆使し、授業展開を工夫しているか。</p> <p>2)レポート課題等は、学生の負担のみにならないよう支援できているか。</p> <p>3)科目や単元を複数の教師で担当する場合は、授業内容についての考え方、教育方法について一貫性や統一性を保ち、効果的な教育指導を行うのに、教師間での十分な検討と協力体制をとっているか。</p> <p>4)授業内容に目標とする資格試験・検定試験等がある科目は、授業の展開に合格に向けた指導技術上の工夫をしているか。</p> | <p>・具体的な授業の展開過程を示した資料、授業計画・実施資料</p> <p>・学生に課している課題や支援の内容を示した資料</p> <p>・教員会議記録、領域別会議記録</p> <p>・資格試験・検定試験等の受験率・合格率の推移</p> |

#### 4 授業・学習・評価の領域

| 校長 | 学科 | 事務局 | 委員会 | 自己点検・自己評価項目                                                           | 観点                                                                                                                                                                                          | 確認資料（データ）                                                                                                                            |
|----|----|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | ○  |     |     | 5 目標達成の評価とフィードバック<br>2) 学習の評価結果は公正、明確で、学生はそれを活用して主体的に学習を深め、授業も改善されている | 2) 評価結果は公正、明確なもので、学生は学習課題を理解し、学習意欲につながっているか。特に単位認定のための評価方法（基準）は、学生に公表し、公平性があるか。<br>3) 提出されたレポートや試験成績、実習記録などは、適切な時期に返却され学生が自己の学習活動に活用できるようにしているか。                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の評価結果を整理した資料</li> <li>・ 評価のフィードバック状況がわかる資料</li> <li>・ 提出物・試験結果の返却状況、レポート・実習記録等</li> </ul> |
|    | ○  |     |     | 6 学習への動機付けと支援<br>1) シラバスは、授業のねらい、進め方等、授業内容を具体的に記述している                 | 1) シラバスは、学生が授業を受けるにあたって、授業のねらい、進め方、参考文献などを予め知り、授業へ主体的に参加し、興味、関心を持ち、理解を深められるように、授業内容を具体的に記述しているか。<br>2) シラバスは、授業目標や授業展開が明確にされ、教師が授業内容を設定するにあたって、それを共有できるように整え、学生の学習支援に全体としての一貫性を持つものになっているか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業のねらい、内容、テキスト、文献等が明示されている授業の計画を示す文書</li> <li>・ シラバス等</li> </ul>                            |

# チェックリスト

※ 平成15年4月8日付「幼児児童生徒の安全確保及び学校の安全管理についての点検項目」を参考に作成  
 点検：新入生入学時及び必要に応じて随時実施及び伝達 点検評価日 平成 年 月 日

(No1)

評価 A (行っている) B (おおむね行っている) C (行っていない)

| 点 検 項 目                                                                                 | 評価 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1. 学校の実態に応じた危機管理マニュアルを作成し、学生の日常及び緊急時の安全確保対策等について共通理解を図っているか。                            |    |
| 2. 不審者侵入事件に係わる情報を収集し、職員会議等で取り上げ、教職員間で情報交換、意見交換を行うなどにより、教職員の危機管理についての意識高揚を図っているか。        |    |
| 3. 全ての教職員が、緊急時に一体となって迅速・的確に対応できる実践力の向上を図るために、次のような措置を講じているか。                            |    |
| (1) 不審者による緊急事態発生時に備えた避難訓練を実施し、その反省を対応に生かしているか。                                          |    |
| (2) 防犯に関する知識・技能、応急手当や心のケアの具体的に方法等について研修を行っているか。                                         |    |
| (3) 教職員間の情報伝達訓練や警察、消防等への通報訓練などを行っているか。                                                  |    |
| 4. 警察等の関係機関、保護者、地域住民、近隣の学校・幼稚園等と連携して、学校周辺における不審者の情報が把握できる体制を整えているか。                     |    |
| 5. 教職員や保護者・地域住民等のボランティアによる校内巡回等により、不審者を早期に発見する体制を整えているか。                                |    |
| 6. 学校への来訪者が確認できるよう、次のような措置を講じているか。                                                      |    |
| (1) 立て札や看板等による案内・指示を行ったり、順路、入口、受付等を明示しているか。                                             |    |
| (2) 来訪者にリボンや名札等を着用させて、不審者との識別が可能ないようにしているか。                                             |    |
| (3) 来訪者に最初に出会った教職員が、氏名・用件を聞いたり、持ち物や言動等により不審者かどうかの判断ができるようにしているか。                        |    |
| (4) 登下校時以外は校門を閉めるなど、敷地や校舎への入口等を管理可能なものに限定しているか。                                         |    |
| 7. 登下校時において、学生の安全が確保されるよう、次のような措置を講じているか。                                               |    |
| (1) 通学時において人通りが少ないなど、注意を払うべき箇所を把握し、学生、保護者に周知するなどして注意喚起しているか。                            |    |
| (2) 登下校時等に万一の場合、交番や「学生 110 番の家」等の緊急避難できる場所を、学生一人一人に周知しているか。                             |    |
| (3) 登下校時等に万一の事態が発生した場合の対処法（大声を出す、逃げるなど）を指導しているか。                                        |    |
| 8. 校内における注意を払うべき箇所を点検し、学生に注意喚起するとともに、教職員の具体的な役割分担（校内巡回等）を定め、授業中、休憩時間等における学生の安全を確保しているか。 |    |
| 9. 校外学習や遠足等の学校行事において、学生の安全が確保されるよう、次のような措置を講じているか。                                      |    |
| (1) 事前に現地の安全を十分に確認し、それに基づいた綿密な計画を作成しているか。                                               |    |
| (2) 学生に対する事前の安全指導を十分に行っているか。                                                            |    |
| (3) 万一の事態が発生した場合の避難の仕方、連絡方法等について、あらかじめ定めているか。                                           |    |

評価 A (行っている) B (おおむね行っている) C (行っていない)

| 点 検 項 目                                                                                                                          |  | 評価 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----|
| 1 0. 学校開放（授業日）に当たって、学生の安全が確保されるよう、次のような措置を講じているか。                                                                                |  |    |
| (1) 開放部分と非開放部分との区別を明確にし、非開放部分への不審者の侵入防止のための方策（施錠等）を講じているか。                                                                       |  |    |
| (2) 学校開放時に、安全確保について保護者や地域住民等によるボランティアの積極的な協力を得る働きかけを行っているか。                                                                      |  |    |
| 1 1. 学校周辺等における不審者の情報が入った場合に、次のような体制が整備されているか。                                                                                    |  |    |
| (1) 学生の安全確保のため、速やかに警察に通報し、警察官による学校周辺や通学路等のパトロールの協力を得る体制を整えているか。                                                                  |  |    |
| (2) 学校、関係機関、保護者、地域住民等が連携して、不審者の行動を把握する体制を整えているか。                                                                                 |  |    |
| 1 2. 不審者による緊急事態発生に備え、次のような組織、体制等が整備されているか。                                                                                       |  |    |
| (1) 直ちに校長、学科長、教職員、学生に情報が伝達され、避難誘導、防御（不審者対応）、応急手当、通報、記録、保護者への連絡等が、迅速・的確に行われる組織（役割分担）を整えているか。また、必要に応じて、保護者、隣接学校等の協力が得られる体制を整えているか。 |  |    |
| (2) 警察、消防等の関係機関に対して、隣接する学校・幼稚園や学校周辺の店等とも連携を図りながら、直ちに通報できる体制を整えているか。                                                              |  |    |
| (3) 直ちに教育委員会に通報し、指導・助言を得るとともに、人的支援などが得られる体制を整えているか。                                                                              |  |    |
| (4) 保護者、教職員に連絡体制整備の重要性を認識させるとともに、必要に応じて直ちに保護者に連絡がとれる体制等を整えているか。                                                                  |  |    |
| (5) 学校近くの地域住民や店等とも連携を図りながら、直ちに負傷者などの全体の状況を把握し、速やかに応急手当、病院等への搬送ができる体制を整えているか。                                                     |  |    |
| (6) 登下校時や校外学習時などにおいて、不審者による緊急事態が発生した場合に、「学生 110 番の家」や地域の住民等が、学生の避難誘導、通報等を行う体制を整えているか。                                            |  |    |
| (7) 緊急対応後、情報の整理と提供、保護者への説明などの事後対応や、再発防止対策の検討、教育再開準備、心のケア体制の整備等を行うための事件・事故対策本部を速やかに発動できるようにしているか。                                 |  |    |
| 1 3. 学校の施設設備等の面で、次のような対策を講じているか。                                                                                                 |  |    |
| (1) 校門、囲障、外灯（防犯ライト等）、校舎の窓、校舎の出入口、錠の状況等の点検・補修を行っているか。                                                                             |  |    |
| (2) 警報装置（警報ベル、ブザー等）、防犯監視システム、通報機器（校内緊急通話システム、警察や警備会社との連絡システム等）などを設置している場合、作動状況の点検を行っているか。                                        |  |    |
| (3) 死角の原因となる立木等の障害物の有無、自転車置場、駐車場や隣接建物等からの侵入の可能性について確認を行っているか。                                                                    |  |    |
| (4) 危害を加える恐れのある者が進入した場合、一時的に隔離しておく場所（応接室、相談室等）を決めているか。                                                                           |  |    |
| 1 4. 安全教育（防犯）が学校の実態に応じて教育課程に位置付けられ、学生の実態に応じて計画的に実施されているか。                                                                        |  |    |
| 1 5. 不審者の侵入を想定した避難訓練等を行い、緊急事態発生時に学生が安全に避難できるようにしているか。                                                                            |  |    |

\*評価（C）の項目については、早めには正する。

評価確認：平成 年 月 日 学校長 印

## 第5章

### 自己点検・評価研修会 講演録



校長  
木村 強一

## 専門学校として教育の質を高めるために

### 教員と学生の両方の向上をめざす

仙台から車で約1時間のところに小牛田という町があります。ここは交通の重要基点となっており、かなり発展する町ではないかといわれていたのですが、町村合併に失敗し市になり損ねてしまいました。

宮城理容美容専門学校は、宮城県の仙北では唯一の専門学校です。かなり古い学校で、昔は職業訓練校だったのですが、現在は2年制の理容美容専門学校です。

さて、宮城県と東京では、学校評価の取り組みについての考え方がかなり違うように思います。宮城県の場合は、さきほど中村先生がお話されたような内容にまで達している学校はほとんどないのではないかと思います。ですから、とりかかりやすい別の方法でやるのも1つの考え方ではないだろうかという気もしています。

今回、当校が事例発表をすることで、教職員たちが刺激を受け、さらにながら取り組むようになるのではという考えもあり、お引き受けしました。

なぜかと言うと、当校の教員は、理美容を追求する技術は非常に優れていると思うのですが、「教育とはなんであるか」という部分になると、あまり得意ではないように見えるからです。高校を卒業後3年くらいで理容師や美容師の資格を取り、教員となるので、たとえば教育心理やカウンセリングの知識がない。ときどきカウンセラー研修などもあって参加させるのですが、研修内容についていくのが大変なようです。当校の教員については、もう基礎的なところからやらないと、なかなかついていけないのが現状だろうという考えをもっています。

しかし、専門学校として教育の質を高めるためには、勉強していかないと取り残されてしまいます。その不安を教員たちももっています。ではなにか勉強をしようと、私が義務教育学校にいたときの授業の進め方などを校内研修の中でとりあげたのですが、難しく感じられるようでした。

そういうわけで、教員たちの教育の質と学生の質の両方の向上を図ることは、なかなか大変です。それでも教

員たちは皆一生懸命やっています。

今は国家試験の最中でして、理容科の実技テストは終わりました。来週は美容科の実技テストがあります。3月初めに筆記試験があります。これはけっこう難しく、法律なども含めて出題されます。当校の学生は高卒ですが、正直、どのレベルまでを高卒というのだろうかという疑問に思うことがあります。学生の中には、講師の若い先生が授業を行うと、「難しくわからない」と言います。また、中卒や高校中退者も受け入れていますが、現段階で中卒者は全員中退しました。授業についていけないのです。それをどうするのかという部分のところが、本当は自己評価よりももっと大切な課題をもっているわけで、このようにいろいろと問題を抱えています。

ただ、当校の教員の長所の1つは、校長が言ったことに対して拒否しないことです。じゃあやってみましょうとなる。陋習が残っているのかもしれませんが、あまり反対されません。

そこで、学校評価というのは、自分たちが教育をどれくらい、どのようにして行ったかということ、学生や保護者、他の先生に評価してもらって、おかしい部分があればそれを正してさらによくしていく、優れているという点はそれをもっと伸ばしていくように考えていくことが、我々の務めではないか。そのようなことをいろいろと話しました。

初めのうちは、「理容美容専門学校というのは、職人として育成して世に出してやるのが学校の責務であり、それでいいのではないか」という声もありました。いまは「やっぱり勉強しないとダメだ」という認識が広まりました。なぜかと言うと、毎年新しい技術が入ってくるからです。髪の毛1つとっても、よくこんなにあるものだと思うくらい、どんどん入ってきます。

### 国家試験実績は県内トップクラス

当校は県内のトップクラスだと校長としては思っています。学生の国家試験合格率は80~90%台。教員たち



は、非常に努力しています。その努力を盛り上げていくのは、やはり校長や第三者の委員会が、教員たちの能力を拾い上げて伸ばしていくしかないとは考えているわけです。管理職や中間管理職の責任がかなり大きいのではないかと考えています。

資料に当校の概要と特色を記載しています。学生の気質という項目に書いたのですが、まだまだ「床屋」「パーマ屋」といった劣等意識が残っておりまして、それを取り払わなければもっと伸びるはずの力を押さえ込んでしまうと思っています。参考までに、私どもの国家試験合格率を紹介しますと、平成14年度は、理容師94.1%、美容師94.3%。15年度は理容師94.1%、美容師88.9%ということで、かなり高いです。宮城県は国家試験合格率が高いんです。なぜかといえば教員が一生懸命やるのと同時に、教員の研修組織が県内にあり、そこでいろいろな方々を講師に呼んで勉強しているのが、大きな影響力となっています。

次に、当校には当初は学校評価といったものはなく、ただのんびりと教えて卒業させていました。なかには「学生を無事卒業させてやればそれでいいんじゃないのか」というようなことを、平然と言う人がいますが、「そうではない。立派な社会人を出さなければダメだ」と言うのですが、まだまだ前近代的な意識が残っている気がします。

ちょうど、学制改革ともいえる法改正が平成10年4月にあり、それを契機に当校も教員たちが「これだけではダメなんだ。もっと勉強して立派な社会人を出さなければならぬ」といった考えをもったようですが、長続きせず、またもとのんびりとした学校に戻っていったようです。

法改正のポイントは5つでした。簡単にいうと、入学資格が中卒から高卒へ学歴変更され、学習期間が2年になった。さらにインターン制度の廃止。サロンには国家資格取得後就職すること。そして授業時間は2年間で2000時間以上であることです。

そういった改正があって、当校の取り組みとしては、平成10年に「カリキュラム」の検討を行いました。以前から、もちろんカリキュラム的なものはあったのですが、「カリキュラム」ということばが出てきて、いまもって「カリキュラムとはなんであるか」をはっきりいえる教員はいません。指導計画といえばわかるのですが、カタカナでいうとわからないんです。そして「シラバス」。シラバスは大学や短大で教授が「自分の担当科目ではこういうことを、ここからここまでやります」ということを示したものは

ずですが、「カリキュラム」と「シラバス」がどう関連するのかよくわからない。それなのに用語としては使っているというようなことがあったので、それをみんなで研修をし、関連性の理解を図った経緯がありました。

次に掲げた問題に、「学校とは国家試験合格のための教育オンリーなのか」ということがあります。私は「まずは、国家試験だ」といいます。「国家試験に合格しないでどうするんだ。」その上で、立派な社会人として育てることと両方を行うのだというのですが、その部分について教員たちは、分けて考えたいようなのです。

教師の資質の向上ということではいろいろやっていますが、一番の当校の問題は、講師と専科教員の違いです。専科教員は毎日学校にいますが、講師は自分の担当時間が終わると帰っていきます。すると1人ひとり別の考えをもっていたりして、指導の方向性がバラバラになりがちです。いまもってこの問題は解決していませんが、当校では年に1回、3月に講師全員を集めて反省会を行っています。専科教員は高卒ばかりですので、その埋もれた部分を講師に補ってもらおうという点を考慮すると、講師にもっと手厚い待遇を考えてもいいのではないかと考えています。

私は当校着任3年目なのですが、前任校長が素晴らしい方だったので、その方からの継続で学校経営を行っていますが、私が着手したのは、経営方針の確立ということです。

次にあげたのは、校内・外研修で、教師の指導力の向上、生徒指導の向上、国家試験合格比率の向上、各種コンクール等への参加です。いろいろな業界のコンクールがありまして、今年はたくさんの賞をいただきました。

学校は、1法人2学校の1校目です。しかし仙北にあることから分校だと思われるところがあります。その分校意識が教員たちのなかにもあり、それを払拭しなければいけないと思い、経営方針として、学校の独自性の確立を掲げています。また分校意識の払拭によって、単独校としてやるべきことを考えていく。そして、厳しい言葉ですが、「起死回生の意識」と書いています。「この学校であなたたちは終わるんだ」「ここから立ち上がるんだ」という切羽詰まった気持ちでやらないとダメだということです。それらをまとめると「志向性」、つまり下を向くのではなく上を向いて「やる気」を出していくことで「学校の特徴」を出していく。それを教育理念にしようということにしました。

その後研修が非常に盛んになり、東京で実施される

研修にはほとんど参加しています。また現職教育の重視と書きましたが、校内研修としては、指導法の研修、教え方の研究をやらなければならないということで、TT（チームティーチング）方式を2年前にやってみたのですが、これは見事に失敗しました。理美容の先生方は、自分がオンリーワンなんです。ですから他の人が間に入ることをあまり好みません。しかし現在はそういう機会を迎えているのではないかと考えています。というのも、学生数が減少してきたのでクラスが減るからです。今後はTT方式の活用も検討しても良いのではないかと考えています。

そして「守・破・離」の教育。“守”は基礎、“破”は基礎を少し広げて勉強することで、“離”は新しいなにかに挑戦することなんだと、教員たちには説明しました。これには教員たちも乗ってきました。守・破・離の教育は成功したのかなと思います。ただざっぱではあります。もっと、内容の濃いものに仕上げていく必要があります。

そういったことを行ってきて、最近は成績もよくなったし、保護者の役員会などでも、「学校は変わった」といわれます。そこで、そのことばが本当かどうか、学校評価を行うことで、学校の変化がどの方向を向いているのか、その正しい方向に対峙するように積極的に働きかけて学校としての基盤を築いていく必要性を確かめることにしました。

### 保護者・学生による学校教育診断

さて、宮城理容美容専門学校では『診断票による学校評価』はまるっきり初めての試みですので、参考資料を探し、見つけたのが大阪教育委員会が作った学校教育診断書でした。いろいろ調べてみたところ、これが一番着ししやすいものを感じられたからです。

お手元の資料にある表がそれです。保護者用は22項目あります。当校に合うように直した部分もありますが、本旨は直さないようにしました。A（よくあてはまる）B（ややあてはまる）C（あまりあてはまらない）D（まったくあてはまらない）と4つの評価レベルを設け、項目ごとにどのレベルだと評価するかについて、マルをつけてもらうという形式です。

いくつかその結果について説明すると、1番目の「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」に関しては、A・Bが91%、C・Dが9%でした。それはなぜなのかを考えてみました。たとえば教育方針を「学校便り」という学校新聞で毎回簡単に解説して載せています。また

コンテストなどの成績が上向いているので、学校でちゃんとやっているんだという評価として91%なのかなとみんな話合っただけです。すると残りの9%が問題で、今後は、第三者評価委員会などいろいろな方々の意見を聞いて、分析し、生かしていこうと考えています。

16番目の「学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている」多くの学校でも学校行事をやっているわけですが、当校の学生の一部には「学校行事はいらない」という者もいます。聞いてみると「学校行事をやるより勉強しているほうが良い」などといいますので、説得してみんなと一緒にやらせています。この部分はA・Bが90%、C・Dが10%です。当校では学校行事にボランティア活動も入れており、地域の75歳以上の独居老人を芋煮会などに招いて一緒に芋煮などをやっています。老人も喜び、学生たちも案外そばに寄っていくんです。前回の活動ではゲームをやったのですが、老人たちが勝ちました。大変喜んだ老人が、学生たちに「本気でやったのか？」と聞きました。学生たちは「本気でやった」とのことで、その辺りも評価されたのかなと思っています。ただ各項目、10%くらいのマイナス評価がありました。それが本当に10%なのか、あるいは30%にも40%にもなり得る要素を含んでいるのか、その辺りは今後の課題だと考えています。

また、保護者に意見を文章でも回答してもらいました。23項目について書いてくださったのですが、こちらはA～Cを選択するよりも厳しさがあるし、評価されているのかなという部分もあります。「なるほど」というものもあるし、「これはちょっとおかしいのでは」というものもあります。無理なところもあります。ただ、保護者からすればそのような実感はもっているのだなとは思っています。

さらに、保護者全員のアンケート調査も行い、さきほどまで説明したものと違う場面で評価してもらったものです。たくさん書いていただきましたので、「比較的よくできている事項」「よくがんばっているとみられる事項」「だいたい良いと思う事項」の3段階に分けてまとめました。ですから85～90%台というのは、かなり多くの保護者が支持していると考えていただけてけっこうです。60%台といってもほとんどの方が60%ですから合格ラインですが、ここに出ないマイナス点もあるわけです。それをどう分析するかが今後の課題であり、職員たちと話し合いは行ったのですが、これからPTAや教育委員会、元教師といった方々に参加していただいて、厳しい分析をしていただきたいと考えています。それも第三者評

価になるのかもしれませんが。

### 黙っている学生からの貴重な意見

さらに、学生からのアピールです。これは教員たちにとって一番痛いところだったんです。学生からのアピールも「比較的良好にできている事項」「よくがんばっているとみられる事項」「だいたい良いと思う事項」の3段階に分けたのですが、いろいろありました。平均年齢20歳ですから、教師をうまく褒めている学生もいるんですね。授業が楽しくわかりやすいとか、その反面わかりにくい教員もあった、なんてことも書いてありまして、褒め方上手というか、大人になってきたという感想をもちました。

では保護者や学生の意見にどう応えるのか。次に教員の反応をまとめています。1番目の「一般的なもの」として、たとえば「学生への対応で、これでいいのかがどうか深く反省することもあったがまだまだ自己本位なところがあつたと考えさせられた」。まだまだ反省が足りなかったということですね。それから「学生個々に対する接し方をかえて接したい」。いつも同じではダメなんだという声が出てきました。

2番目の「学生からの意見」について、「ずいぶん多くの意見をもっている」。学生は黙っているからにも意見がないのではなくて、たくさんの意見をもっているのだということを我々は常に考えておかないと、よい教育はできないのではないかと考えています。

3番目の「その他」。「国家試験の合格か、成績などの県内トップクラスの確保か、教員の共通理解や意識統一が薄い」。いまの段階でもまだこのような意識をもっている教員がいるわけですね。それについてどのように説明して、全部同じ方向に向いてもらうか。同じ方向に向くことがいいか悪いかの意見もあるでしょうが、学校としては同じ方向で教育してもらったほうがいいということです。

4番目「学生は教師よりも“母校愛”ありか」。これは「学生の人数を増やせば、活気にあふれてよい学校になる」のではないだろうかということですね。毎年学生数が減少しています。今年も昨年より減っており、4月には1、2年生合わせて110～120人にしかならないのではないかと、学生自身も心配しているわけですね。我々も一生懸命当校はいい学校だと入学を勧めているわけですが、子どもたちの大半はやはり仙台方面に行くことを望んでいます。勉強よりも遊びがさきに来てしまうのかなあと感じます。かつて当校は大卒の学生が4分の1くらいいました。彼らがいた頃はよかったんです。みんな真剣で一生懸命で。

現在は大卒は3、4人しかいません。それでは迫力がないですね。もっと育てていかなければなりません。そういう意味で学校評価を実施したことは、大変有効でした。学生も「母校のさらなる発展」を願っていると思います。

最後に「中間的まとめ」。実施した以上、当校の教員たちに結果を知らせなければならないということで、まとめてみました。「教師の理・美容教育への意識の統一(共通理解)ができた」。なぜ理・美容教育を行うのかについての理解ができてきました。「指導の努力のあとが見えてきているが、指導方法に進歩のあとが足りない」。どういうふうに指導したらいいのか。かつては先生が教えたとおりにやればそれでOKなんだという時代がありました。とにかく危なげない方法でやったほうがいいという考え方で。それがまだ残っているのではないだろうか。さきほど話した守・破・離の“離”ですね。なにか新しいものを見つけてやってやるということまでいかない。学校には毎日のように業界の専門雑誌が届きます。それにも新しい髪形などが載っているのでやってみたらどうかというのですが、なかなかやらない。とくにいまの時期、国家試験が近づいてくると、そのような冒険をする教員がいなくなってくるということもあります。

それから「国家試験・各種コンクール等の成績上昇中」。今年はどうでしょうか。いままで各種コンクールは4連覇したり、東京の民間会社のコンテストに作品を出していい成績をとったり、今年の2年生はがんばったようです。そして「少子高齢化時代の、小規模校の長所であるマンツーマン指導」。保護者は「マンツーマン指導は大変結構だ、その成果として成績がよい」と評価しています。ところが学生たちはそれで納得しない。学生が少ないのは寂しいという。両方一緒にいかないのかなということを感じています。5番目は「現職教育等を通して、教師の指導力がついてきた」。当校の教員がよく研修に参加するので、その報告をしても、「本当に勉強をしているのか」という意見が、内部からありました。保存してある資料を見せ、きちんと説明したら、わかってもらえましたが、いろいろな方々に納得してもらえるようなやり方を考えていかなければならないのではないかと考えています。

最後に『学校教育診断について』。3つあげましたが、最後にいいたいのは、まだ初期の段階ではありますが、3番目の「意識改革への道標」となるものであったと確かにいえたと思っています。

以上、これで発表を終わります。どうもありがとうございました。

平成16年度学校教育事業の推進計画の評価

| 宮城中央学園                                           | 宮城理容美容専門学校          | 評 価<br>・教材名 ・学生の動き ・その他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 評 定 |   |   |
|--------------------------------------------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|---|
|                                                  |                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | A   | B | C |
| 教育事業内容                                           | 推 進 計 画             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |     |   |   |
| 1、学生の学習指導・生活指導を通して他を思いやり、社会の発展に尽くそうとする心や態度を育成する。 | ①職業人としての自覚<br>授業・講話 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○職業人として必要な「返事」・挨拶。の徹底にかなりの重点をおき、より社会に順応出来る学生に育て上げられるか、求められる人材になるには何をすべきか課題として残る。</li> <li>○講師による、現場の話しや心構えなどの講話がよかった。</li> <li>○実技に関しては熱心であるが必修の授業の必要性をあまり感じる事ができていないように感じた。</li> <li>○専門教育の外部講師の先生方の接遇の話がよかった。</li> <li>○理容組合の日野先生からの講話：卒業、進級の時期に業界の先生から素晴らしい内容の講話をいただき、生徒のやる気につながった。</li> <li>○授業の状態に合わせて、自分なりに勉強した事を、色々な分野について分かりやすく講話した。</li> </ul> | ○   |   |   |
|                                                  | 職場訪問                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○修学旅行の自主研修の時間を有意義に利用し将来行きたいお店を見学した。</li> <li>○生徒の中には店に行きシャンプーを体験したり接遇を勉強した。</li> <li>○修学旅行で就職先の先生への訪問を行い、さらに卒業生から就職先の状況も聞いた。</li> <li>○生徒の人間尊重のため職場との癒着をさけたので積極的には行ってはいない。</li> <li>○修学旅行で就職先への訪問、見学、卒業生の近況報告。</li> </ul>                                                                                                                               | ○   | ○ |   |
|                                                  | ②オリエンテーション          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ヘアショーを兼ねて理美容学校で学んでほしい事、過ごし方、店に入店してからの精神的向上心と接客、接遇について生徒と一緒に学んだ</li> <li>○美容を職業とすることの、辛さや楽しさを知ることができ、改めて授業に向かう心構えを作ることが出来た。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                  | ○   |   |   |
|                                                  | ③交通安全指導等への参加        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○鉄は熱いうちに打て、行えると良かった。</li> <li>○町の交通安全指導には参加は出来なかったが車通学者には春に指導冬に注意した。</li> <li>○ことあるごとにHRで注意した。</li> <li>○休日実施のため参加出来なかった</li> <li>○校内での交通安全指導は行ったが、交通安全運動等に積極的に参加することができなかった。</li> <li>○休日だったので参加出来なかった</li> </ul>                                                                                                                                      | ○   | ○ | ○ |
|                                                  | ④環境整備（清掃、他）         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○分担区域の清掃は出来ていた、区域以外は気付いた時に積極的に行っていた。</li> <li>○清掃終了後、清掃場所の点検は行ってきたがすみずみまで清掃がいきわたっていなかった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                      | ○   | ○ |   |

《資料1-2》

| 宮城中央学園 | 宮城理容美容専門学校 | 評 価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 評 定 |   |   |
|--------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|---|
| 教育事業内容 | 推 進 計 画    | ・教材名 ・学生の動き ・その他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | A   | B | C |
|        | ⑤ボランティア    | <p>○分担区域の清掃は出来ていた、駐車場、外清掃もあると思う。</p> <p>○始めは自主的に清掃することを指導、しきれてはいなかったが、後半には自ら清掃する場所を探し出していくことを指導できるようになった。</p> <p>○分担でなくともゴミは拾う、清掃時間でなくとも汚れていたら清掃すべきかも。</p> <p>○清掃分担以外の清掃、駐車場などの清掃ができなかった。</p> <p>○プランターなどを玄関付近に置き、心のやすらぎも必要。</p> <p>清掃当番区域はしっかりと出来ているが、エリアを広げなければやらない所がある。</p> <p>校外清掃作業を学生会を中心にやって貰うなど考えて行った方がよい。</p> <p>○障害者施設のパーティーがあり、メイクを担当してほしい依頼がありましたが、時間と日程が合わず参加出来なかった。</p> <p>○割り箸集めなどに協力的で良かった。</p> <p>○割り箸の回収（南郷社協へ）</p> <p>歳末たすけ合い募金への協力これからも、ちょっとしたボランティア。に協力したいと思います。</p> <p>○・介護福祉の授業の中で参加</p> <p>・献血への参加</p> <p>・歳末たすけ合い運動への募金としての参加</p> <p>学校行事として行なうものにおいてはすべて学校側での準備が必要であり、自らすすんでのボランティアとはいえなかった。</p> <p>しかし小さなことではあるが、雪かきなど学生からすすんで行動することがあり、小さな一歩を感じた。</p> <p>○もっと積極的に参加すべきだと思う。</p> <p>○南郷町「いなほの里」に訪問</p> <p>老人ホームでの接し方がよかった。</p> <p>献血に参加</p> <p>○学警連での重要な内容について生徒に報告し注意を促し現状を認識させた。</p> <p>○喫煙アンケートを取り、話題提供として発表することができたが、まだ喫煙マナーの悪い生徒もみうけられるので、今後もきちんと指導していかなければならない。</p> <p>○無断駐車指導、雪道での運転指導も必要と思った。</p> | ○   | ○ |   |
|        | ⑥学警連       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○   | ○ |   |
|        | ⑦生活指導      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○   |   | ○ |

| 宮城中央学園                                                       | 宮城理容美容専門学校                                                                                       | 評 価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 評 定 |   |   |
|--------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|---|
| 教育事業内容                                                       | 推 進 計 画                                                                                          | ・教材名 ・学生の動き ・その他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | A   | B | C |
| 2、学生にシラバスを提示し、学ぶ側に立つ授業の創造に努め、主体的に学ぶ能力を伸ばすことができるような学習指導を推進する。 | <p>①指導計画の作成</p> <p>②指導法の研究</p> <p>・教材、教具の活用</p> <p>・情報機器</p> <p>③カリキュラムの開発</p> <p>④カリキュラムの作成</p> | <p>○指導計画どおりにはなかなか進まないで、指導計画を立て直し、生徒のレベルに合わせた学生指導を行なっていかなければならない</p> <p>○自分なりの指導計画はあるが、その年の生徒の状況、能力、把握力により変えているので計画通りに行かない時があるが、生徒の能力を伸ばす上では、良い事だと思うが見直しの必要がある。</p> <p>○誰が受け持ってもいいように、1、2年の進度・内容を決めると良いと思う。</p> <p>○今まで通りというような、その時の進み方によって指導内容が変更され、計画的とはいえない。</p> <p>○能力を伸ばす＝やる気をどうしたらおこせるか、いろいろ手を変えやってみたが、これからも最大の課題。</p> <p>○年間計画の作成をもう少し詳しく作成が必要</p> <p>○技術的に遅れている生徒には個人的に指導し出来るまで頑張る様にする。</p> <p>○教材、教具の活用は、校内研修で研修、研究し活用できた。</p> <p>○ある教材教具をふるに活用して指導していた</p> <p>○シャンプー台に関してはきちんと活用されているといえるが、それ以外の器具、機械はほとんど使用されていない。</p> <p>○放課後、実習室にてシャンプーの実習を行なう。</p> <p>○理容実習室の設備が悪いため、能率よく授業が進められない場合がある。</p> <p>○プロジェクター（ビデオ）を利用し、映像（視覚に訴える）による授業を取り入れている。</p> <p>○情報機器に関しては活用していない、使いこなせないでこれから勉強するつもりです。大きな課題であり、現状の欠点です。</p> <p>○理美容は新しい技術が次々と開発されているので、教科書以外にも最先端技術を取り入れていきたい。</p> <p>○各先生方の指導法を観察し謙虚になり学び、自分の枠に捕われる事無く実践し、学ぶ側に立って分かりやすくくり返し、くり返し授業を進め、学習指導を推進している。</p> <p>主な実技課題については一定になるように指導法を作成し、学校に保管してあるので参考にしている。</p> <p>○全ての授業において、カリキュラムは作成されていない、どのように指導するかは担任の主観によって全て異なり統一されていない。</p> |     | ○ | ○ |

《資料1-4》

| 宮城中央学園 | 宮城理容美容専門学校                                                                                         | 評 価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 評 定 |   |                                                                               |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|-------------------------------------------------------------------------------|
| 教育事業内容 | 推 進 計 画                                                                                            | ・教材名 ・学生の動き ・その他                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | A   | B | C                                                                             |
|        | <p data-bbox="467 712 611 745">⑤教員の研究</p> <p data-bbox="467 936 738 1003">⑥時代のニーズにあったカリキュラムの開発</p> | <p data-bbox="802 600 1289 936">そのため学生は常に混乱し、迷っている教員は経験を武器としているが、理論的に指導することが出来ていない、これらをどのように解決していくかが今後の最大の課題といえる</p> <p data-bbox="778 712 1289 936">○専門的な分野（ネイル、エステ、介護）等への研究は積極的に行なわれているといえるが美容師の基本といえるシャンプー、カット、ワインディング等は教員すべてが同じレベルにいるとは思えない、最先端を意識するあまり最も必要なところが見落とされている、お互いにきっとできると判断しているそれぞれの遠慮が原因と思われる。</p> <p data-bbox="778 936 1289 969">○②の情報機器を使った指導と資料作りが必要</p> |     |   | <p data-bbox="1409 600 1433 633">○</p> <p data-bbox="1409 936 1433 969">○</p> |

教育目標に到達する具体的方向性

① 学校環境の整備

美的環境の整備

- ・整理整頓と衛生の保持
- ・清潔な校舎環境と教室環境
- ・花などの植栽

教材の充実・整備

- ・教材準備室の整備
- ・備品の充実
- ・教材デザイン
- ・美的配列

学園との関連 ①、③、⑥

② カリキュラムの検討と教材配列の

適性化・具体化を図る

- ・段階的で発展性を促す教材配列  
(自校化の試行)
- ・概念くさきでの試行錯誤をしてみる  
(視点をかえてみる)

学園との関連 ③、④、

③ 基礎・基本を修得させる工夫と

発展を考えた指導法の展開

- ・言語的助言～発問のあり方など
- ・半具体物の提示工夫  
写真・絵・映画などの工夫
- ・板書の工夫

学園との関連 ②、④、

④ 授業研究と指導法の工夫

- ・少人数学級の特徴を生かした指導  
(個人差に応じた指導・自主性を伸ばす指導)
- ・協力教授方式の実践  
(T T方式や学年差をなくした指導、教師の乗り人)

学園との関連 ②、⑤、

⑤ 各種研究会、研修会への参加と現職教育

- ・課題をもって積極的に参加する
- ・伝習学習などで自己研修・全体研修をする
- ・先進校・研究者の指導の在り方に学ぶ
- ・新しい在り方に学び、実践化する

学園との関連 ④、

⑥ 学生会活動の活発化と学校行事や地域活動への協力

- ・社会人としての基礎づくりをする。  
(日常生活態度・法律に準じた生活対応など)
- ・「ボランティア活動」の推進  
(福祉的活動への参加など)
- ・社会的行事への積極的参加  
(交通安全運動、助け合い運動など)

学園との関連 ③、

宮城中央学園の学校教育事業の推進との関連

- ① 学生の学習指導、生活指導を通して、他を思いやり社会の発展に尽くそうとする心や態度を育成する。
- ② 学生にシラバスを提示し、学ぶ側に立つ授業の創造に努め、主体的に学ぶことができるような学習指導を推進する。
- ③ 学校行事等を通して教職員と学生が感動と共感を共有できる教育活動を展開する。
- ④ 教職員の資質向上をめざし、授業研究をはじめとする校内研修、さらに資格取得を含む各種研修、講習への参加を積極的に推進する。
- ⑤ 教育活動その他学校運営の状況について、自己点検・評価を行いその結果を公表するようにする。
- ⑥ 学校防衛計画に基づき、防災訓練を実施し教職員・学生の防災意識の高揚と同時に交通災害をはじめ各種災害に対する安全教育の徹底を図る。
- ⑦ インターネット・ホームページの更新を行い、広報活動、学生募集の効率化、各学校や関係諸団体との連携強化を図り小児化に伴う学生数確保の対策を推進する。

⑦ 地域・父母教師会等の啓発活動

- ・学校だよりなどでの広報活動
- ・理・美容行事への参加による活動
- ・校内行事への地域・父母の参加を求める啓発

学園との関連 ③、⑥、

⑧ 講師との交流を密にして、学校の教育力を高める

- ・カリキュラムや教材の理解
- ・話し合いの活性化(反省会・協議会などで)
- ・交流会を深めて教育の力を高めていく
- ・地域の啓発に協力を求める

学園との関連 ②、④、⑤、

⑨ 教育組織の改編と学校評価

- ・異なるものへの挑戦(教材の工夫)
- ・学校評価の生かし方(介護・検討)

学園との関連 ②、④、⑤、

⑩ 教育目標達成に積極的に取り組む

- ・他校との交歓会・コンクールへの参加等
- ・図書・文献により教育の潮流を読む

学園との関連 ②、④、⑤、



I. 教育活動に関するもの

《 資料3-1 》

次の診断内容について、A～Dの該当する欄に○印をつけてください。

( 保護者用 )

- A よくあてはまる
- B ややあてはまる
- C あまりあてはまらない
- D まったくあてはまらない

|    | 診 断 内 容                                  | A | B | C | D |
|----|------------------------------------------|---|---|---|---|
| 1  | 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。                    |   |   |   |   |
| 2  | 学校は、他校にない独自の教育活動を行っている。                  |   |   |   |   |
| 3  | 学校は、保護者・地域の願いに応えている。                     |   |   |   |   |
| 4  | 学校は、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている。         |   |   |   |   |
| 5  | 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。                 |   |   |   |   |
| 6  | 学習の内容や進度等を、学校便りなどによってよく知ることができる。         |   |   |   |   |
| 7  | 先生は、子どもの能力や努力を適切・公平に評価している。              |   |   |   |   |
| 8  | 子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。                    |   |   |   |   |
| 9  | 子どもは、自分の学級は楽しいと言っている。                    |   |   |   |   |
| 10 | 先生は、子どものことについての相談に適切に応じてくれる。             |   |   |   |   |
| 11 | 子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。               |   |   |   |   |
| 12 | 子どもの間違った行動には、厳しく指導してくれる。                 |   |   |   |   |
| 13 | 先生は、子どもをよく理解してくれている。                     |   |   |   |   |
| 14 | 学校は、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。                 |   |   |   |   |
| 15 | 学校は、自分の生き方を考え、豊かな心を持った人間を育てようとしている。      |   |   |   |   |
| 16 | 学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている。                |   |   |   |   |
| 17 | 学校は、子どもに生命を大切にする心や、社会ルールを守る態度を育てようとしている。 |   |   |   |   |
| 18 | 学校は、事故防止に配慮した施設・設備の点検を行っている。             |   |   |   |   |
| 19 | 学校は、施設・設備を有効に利用している。                     |   |   |   |   |
| 20 | 学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている。               |   |   |   |   |
| 21 | 学校が、保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。                |   |   |   |   |
| 22 | 学校では、子どもに関するプライバシーが守られている。               |   |   |   |   |

## 《資料3-2》

次の診断内容について、A～Dの該当する欄に○印をつけてください。

( 学生用 )

- A 強く思う  
B そう思う  
C あまり思わない  
D まったく思わない

|    | 診 断 内 容                           | A | B | C | D |
|----|-----------------------------------|---|---|---|---|
| 1  | 学校へ行くのが楽しい。                       |   |   |   |   |
| 2  | 先生は、私達の意見をよく聞いてくれる。               |   |   |   |   |
| 3  | 授業はわかりやすく楽しい。                     |   |   |   |   |
| 4  | 授業で実験・観察をしたりすることが多い。              |   |   |   |   |
| 5  | 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。         |   |   |   |   |
| 6  | 先生は、教え方にいろいろな工夫をしている。             |   |   |   |   |
| 7  | 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。         |   |   |   |   |
| 8  | 授業でパソコンなどを使っている。                  |   |   |   |   |
| 9  | 先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。          |   |   |   |   |
| 10 | 先生にはなんでも相談できる。                    |   |   |   |   |
| 11 | 学級の先生のほかにも、気軽に相談する事ができる先生がいる。     |   |   |   |   |
| 12 | 先生は、他の人に知られたくない秘密を守ってくれる。         |   |   |   |   |
| 13 | 先生は、いじめなど私達が困っていることについてよく対応してくれる。 |   |   |   |   |
| 14 | 授業などで、豊かな心や人の生き方について考えることがある。     |   |   |   |   |
| 15 | 球技大会などの学校行事は楽しい。                  |   |   |   |   |
| 16 | 命の大切さや社会のルールについて学ぶことが多い。          |   |   |   |   |
| 17 | 自分を大切にし、他人への思いやりを学ぶことが多い。         |   |   |   |   |
| 18 | 先生は、決まりや約束ごとをよく守ってくれる。            |   |   |   |   |
| 19 | 他の先生が授業を見学に来ることがよくある。             |   |   |   |   |

### 中間的まとめ

1. 教師の理・美容教育への意識の統一（共通理解）ができた。
2. 指導の努力のあとが見えてきているが、指導方法に進歩のあとが足りない。
3. 教師の努力の積み重ねで、国家試験・各種コンクール等の成績上昇中であるが、確実性が足りない。
4. 少子高齢化時代の、小規模校の長所であるマンツーマン指導が定着しつつあるが不十分（保護者・学生の評価は高い）
5. 現職教育等を通して、教師の指導力ついてきた。
6. 全体反省会を、来年度への発展へと位置づけていく。  
（当面、国家試験の高得点合格を目指して）

### 『学校教育診断について』

1. 実施したことにより、学校経営上の色々な長所・短所がわかり、それを学校経営に具体的に位置づけたので、教師個々の意欲の向上に影響した。
2. 学校教育目標の理解が不十分で、やることに迷走部分があったので、それらを是正していくのにやや時間がかかったが、更に確かな道筋をつけて進む必要があると考えている。
3. しかしながら、初めて行なった教育診断は、「意識改革への道標」となるものではあった。

委員長

掛川 康晴 (中央情報経理専門学校・副校長)

## 事例発表

### 平成13年にISO9001の認証を取得

群馬県の前橋市と高崎市にある中央情報経理専門学校の2校の副校長を務めている掛川と申します。宜しくお願ひ致します。

今回自己点検・評価の事例発表を仰せつかり、諸先輩方を前にして何を話せばいいかと考えました。当校は平成13年にISO9001の認証を取得しています。おそらく専門学校では全国で一番早かったのではないかと思います。現在は13校ほど認証取得した学校があるかと思いますが、当校については平成13年11月にISO9001の認証を取得しました。そこで今回は、このISOについて、出来るだけ分かりやすく、具体的に説明していきたいと考えています。

まずは私が勤務している中央情報経理専門学校について簡単にご紹介します。中央情報経理専門学校は、中央カレッジグループに属しています。中央カレッジグループは、学校法人有坂中央学園と学校法人中央総合学園という2つの学校法人からなっています。有坂中央学園には、前橋市にある中央情報経理専門学校、ものづくりとCG系デザイン为学校である中央工科デザイン専門学校、法律と公務員の学校である群馬法科ビジネス専門学校、歯科衛生士の学校である中央医療歯科専門学校の4校があります。なお、中央工科デザイン専門学校は、現在は中央工学院専門学校という校名ですが、

平成18年4月1日より校名変更する予定です。また中央総合学園は高崎市にあり、中央情報経理専門学校高崎校、美容系の学校である高崎ビューティモード専門学校、高崎ペットワールド専門学校の3校を設置しています。

中央カレッジグループは、専門学校7校からなるグループです。また専門学校の他、単位制の高校1校と、パソコン関連、コンサルティング関連などの関連企業があります。学生数はグループ全体で約2,000名、中央情報経理専門学校単独では約700名が在籍しています。中央情報経理専門学校の開校は昭和17年です。群馬県は服飾の学校教育が大変盛んでした。当校も服飾の学校としてスタートしています。その後簿記を中心とした商業専門学校になり、何度か校名を変更し、昭和63年から現在の校名を用いています。略称としてC(中央)I(情報)A(経理)と呼んでいます。所在地は群馬県前橋市です。県の人口は約200万人ですが、そのうちの約32万人が前橋市の人口になります。平成16年12月に市町村合併があり、合併後に32万人になっています。すぐ隣にある高崎市も合併によって32万人になりました。群馬県は同じ規模の都市、前橋と高崎が隣接していますが、交通の便などを考えると、高崎のほうが伸びるかな、と見ています。中央情報経理専門学校は、この前橋と高崎にキャンパスがあります。



職員数は常勤教師がグループ全体で約150人、非常勤講師が約150人、合わせて約300人という構成となっています。

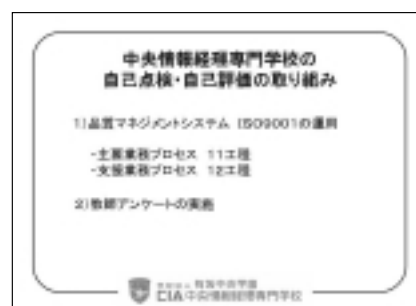
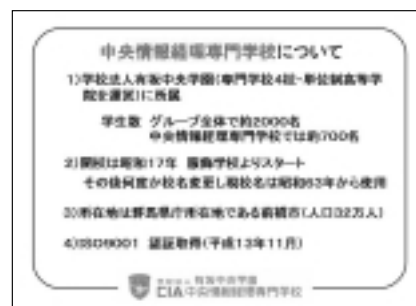
中央情報経理専門学校の学科・コースですが、5学科・23コース。15年前は単独校で約300人でしたので、この15年で300人から2000人規模になったこととなります。学生数が増加していく過程の中で、ISOの認証取得が平成13年11月になります。そのちょうど1年前、平成12年12月頃に、どうやって自己点検・自己評価をしなければいいのかを検討していた中で、どうせやるならISOを認証取得しようということになりました。先に述べたように当グループには、コンサルティング会社があり、外部の企業に対してISOの認証取得を推奨していました。ただどうしてもISOの認証を得ようとするのは製造業が主体になっています。それをどうやって学校に持ち込むかということで、平成12年12月から1年間、試行錯誤を繰り返し、平成13年11月にISOの認証取得に至っています。

私どもの名刺にはISO取得のマークがついているわけですが、ISOとはどういうものなのかとよく聞かれます。ただひと言ではなかなか答えにくく、非常に細かいところまで説明しないと分かりにくいので、うまく説明できないんですね。そこで今回はできるだけ具体的に、当校ではどうやって運用しているのかをお話したいと思います。

## 主要業務プロセスと支援業務プロセス

中央情報経理専門学校の自己点検・自己評価の取り組みとして、品質マネジメントシステムISO9001の運用があり、そのなかに主要業務工程と支援業務工程という2つプロセスがあるのですが、こちらについては後ほど説明します。そして教師アンケート。これも当校で実施しているものです。その他に設備や学校の自己点検、いろいろあるかと思いますが、今回はISOと教師アンケートに絞って話をしたいと思います。

まず品質マネジメントシステムISO9001。おそらくご参加のなかには取得されている学校もあるかと思いますが、あらためて確認しておきたいと思います。ISOはInternational Organization for Standardizationの頭文字をとったもので、日本語にすると国際標準化機構の略称です。14001などISOの番号がありますが、当校では9001を取得しています。ISOの規定として定められているのが、「あらゆる形態および規模の組織が効果的な品質マネジメントシステムを実施し、運用するのを支援するために



開発された複数の規格の総称」です。

この品質マネジメントシステムとは何かというと、「お客様に満足してもらうサービスを提供するための経営の仕組み」。品質に対してではなく、あくまでも仕組みに対して、国際標準化機構で認定することになっています。そう聞いても分かりにくいですね。実は教職員に説明するときにも「なんだかよくわからない」という声が非常に多くありました。そこで当校では、『学生等の満足度、学生等へのサービス満足度を上げるために、日常業務や目標管理がしっかり行われているかどうかを、内部だけではなく外部、第三者からも評価してもらう機会』としてとらえてくださいと説明しました。多少わかりやすくなったかな、と思っています。あくまでも学生へのサービスという形で、ISO上ではとらえています。それが製造業であればお客様へのサービスになる、あるいはよいモノを作るという所になるわけですが、当校において

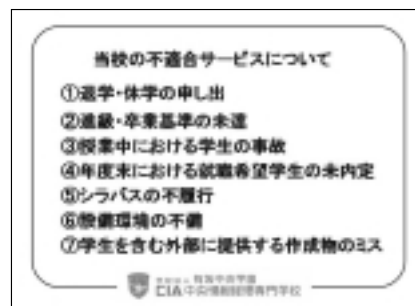
は学生へのサービス、その満足度を上げるというところを焦点にしています。

「主要業務」というのがISO上あります。では学校として主要業務とは何だろうというところから、10人程度のプロジェクトを作り、洗い出していきました。基本的には最初に、どういう学科・コースがいま求められているのかという「!市場調査」をし、いろんな学科・コースを作っていく。そして2番目に新しい学科・コースが決まったら「"パンフレット作成」をする。これとあわせてカリキュラムも同時並行で進んでいきます。パンフレットができたら「#募集活動」、広報活動になっていきます。そこから2つに分かれているのですが、募集活動とあわせて本格的な「\$カリキュラム作成」、そして募集活動から「%願書受付」になっていきます。これは10月1日からです。その後4月の「&入学」。入学後は「'授業」になります。そして「)進級判定」が1年生の終わりにあります。その結果、進級ができた人に対しては「'授業」に戻り、2年生の授業を実施。それが終わった段階で「\*卒業判定」。そして「+卒業」となります。入学後は「(就職指導)も一緒に行っていくということで、2年間の主要業務の流れをフローチャートにしました。これがISOへの取り組みのなかで始めにやったものです。

資料3ページの上段左側、!市場調査から+卒業までが主要業務プロセス11工程です。右側の支援業務プロセスですが、こちらは12工程あります。!文書、"品質記録、#品質目標、\$マネジメントレビュー（経営会議）、%教育・訓練（研修含む）&設備の保存・点検、'購買、(内部監査、)不適合サービス、\*データ分析、+是正処置、,予防処置。これが支援業務プロセスになっています。どういうことかということ、考え方として、主要業務プロセス11工程全てに支援業務があるということです。市場調査について、文書がある、記録がある、目標がある、経営会議があるという形で、1つ1つの主要業務について、これをやってくださいというのが支援業務プロセスとなっています。

### 中間期と内部監査と半期ごとの外部監査

少し具体的に話していきたいと思います。このなかで本校にとって一番大事なのは「不適合サービス」なんです。要は「ダメ出し」です。つまり、これではダメだ、学校がやっているサービスがISO上適合しない、というのが不適合サービスになるわけです。本校においてはこの不適合サービスは7つあり、1つは「退学・休学の申し



出」で、退学・休学の申し出があった場合には、不適合サービスであるとなっています。2つ目が「進級・卒業基準の未達」。進級や卒業の基準に達していない学生いると、これも不適合サービスということになっています。次が「授業中における学生の事故」があってはいいけない。その次は「年度末における就職希望学生の未内定」。2年生の終わりの段階で未内定者がいたら不適合ということになります。5つ目が「シラバスの不履行」。シラバスをやりませんでしたというのも不適合サービス、ダメ出しです。6番目が「設備環境の不備」。7番目が「学生を含む外部に提供する作成物のミス」。これは文書の誤字脱字も含めての作成物のミス。こういったことがあげられます。

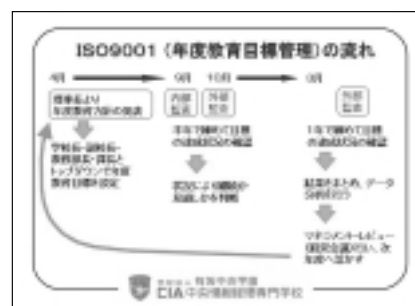
実際に行っていて、では何が多いのかということですが、1番、2番が圧倒的に多いです。「退学・休学の申し出」と「進級・卒業基準の未達」、この2つで不適合サービ

スの9割を超えています。3番から7番については今の所ほとんどない状況です。以上が当校の不適合サービスです。こういった不適合サービスを出さないことが目標になるわけです。

あと1つ支援業務プロセスとして「品質目標」について説明したいと思います。これも主要業務プロセスのすべての工程において、品質目標が定められています。それとあわせて年度目標があります。「ISO9001（年度教育目標管理）の流れ」で説明していきたいと思います。4月の段階で翌3月までの1年間の年度教育方針を、理事長が発表します。これは学園の教育方針とは別のものです。学園の教育方針は変わるものではありません。ここでは、あくまで年度ごとの教育方針の発表となります。それにあわせて、ISOはあくまでもトップダウンですから、理事長からの方針が出たら学校長、副校長、教務部長、教務課長という形で、トップダウンで年度目標をより具体化していき、担任の所までいくわけです。そうやって個々の目標を決めていきます。

それぞれの職員が、その目標を達成するために授業を行ったり、検定・資格指導を行ったりします。そして半年後の9月、前期が終わる頃に、内部監査を行います。学校職員の内部の監査員が、内部監査をします。この場合、非常にやりにくい面があります。例えば私が内部監査員になったとします。そして理事長の所において監査をするわけですが、中々突っ込めない所があるわけです。理事長に限らず内部同士ですと馴れ合いの部分も出てきてしまいます。ただこれでは成果が上がらないわけです。今年はその指摘を受け、「内部であっても、あなたは監査員なのだからしっかり聞くところは聞き、ダメなところはダメを出してください」ということになりました。ですから今年度については、非常にそういった部分を厳しくやっています。内部監査が終わったところで、10月に外部監査があります。今度は認証機関の第三者に来て頂き監査を行います。この時点で1回締めまして、目標達成の状況を確認します。状況によって、そのままいか、見直しをするかを判断します。当然結果がよければそのまま、悪ければ見直しをして次につなげるわけです。

1年が終わった所で3月にまた外部監査を行い、今度は1年で締めて、目標が達成できているかどうかを確認します。このときに結果をまとめてデータ分析を行います。その結果からマネジメントレビュー（経営会議）を行い、なぜうまくいったのか、なぜうまくいったのかを検討し、次年度につなげていきます。基本的にはこのマネジメントレビューには理事長を筆頭に課長以上が集ま



ることになっています。こういった年度目標を毎年やっていって、向上を目指そうということになっています。

### 教育方針のトップダウン化

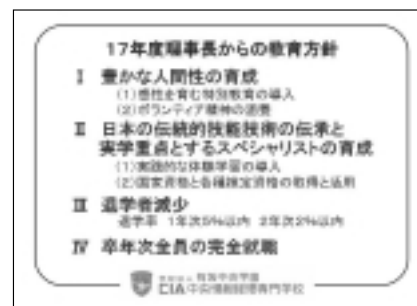
更に具体的に見ていきます。こちらは平成17年度の理事長からの教育方針です。まず1つは「豊かな人間性の育成」というもので、(1) 感性を育む特別教育の導入、(2) ボランティア精神の涵養、をあげています。2つ目は「日本の伝統的技能技術の伝承と実学重点とするスペシャリストの育成」。実学重点という部分が、今回重要な部分と考えています。(1) 実践的な体験学習の導入、(2) 国家資格と各種検定資格の取得と活用。取得だけではダメで活用しなければならないということで、実学を重視しています。当校では職員が一定期間、企業や会計事務所で研修し、仕事を覚え、それを学生に伝えます。検定・資格と実務はこういう部分が違うところを学生に伝えなさいというのが、理事長の方針となっています。日本の伝統的技能技術の伝承では、華道、茶道に加え、今年から和裁を選択授業科目に取り入れています。2年生が4月から週1コマ、浴衣制作に取り組んで、夏休みには自分で縫った浴衣を着られることを目指す形で行いました。3番目は「退学者減少」。理事長からの指示では、1年次5%以内、2年次2%以内に押さえるようにという内容となっています。4番目は「卒

年次全員の完全就職」です。これも大変なことなのですが、在籍者全員の100%就職内定を目指す、という指示がでています。当校の場合はいくまでも学生数全部の完全就職をめざしています。ですから就職希望者ということではなく、学生全員の完全就職を目指せということです。もちろん就職を希望しない学生もいますが、就職を希望する方向にもっていくことも大切なんです。職に就かないのは社会を悪くする1つの原因なのだと、職に就きたくないということではなく、どんな職がいいのか、キャリアデザイン、キャリア教育も含めて、指導をするようにというのが理事長の方針です。

これを受けて、学校長と副校長の連名で教育方針を出します。その中から3番目の「退学者減少」を例として説明します。理事長の方針では、退学率が1年次5%以内、2年次2%以内となっていますが、これについて私が、具体的にどうやっていくのかをあげていきます。1つ目として「欠席者数の把握と問題点の早期発見に努める」。目標として1年生の退学者は5%以内、2年生は1%以内としています。なぜかという、昨年度2年生の退学者は2%以内をクリアしているため、今年度は1%としています。実は昨年度1年生の退学率は7%になったため、5%という目標は今年度も継続しています。2つ目として「担任を中心に組織的指導により問題の共有化を図り退学防止に努める」。これはいろいろな取り組みがあるかと思えます。LAN、ネットワークの構築や情報会議などをやっていこうと考えています。3つ目は「分かりやすく達成感が味わえる授業、楽しい学園生活を演出する」ということで、これが私の退学者減少に対する方針になっています。

さて、学校長・副校長の教育方針が出ました。それを受けて課長が教育方針をあげていきます。退学防止については、1年生は5%以内・17名以内に押さえる、2年生は1%以内・3名以内に押さえる。そのためにどうやるか。早期発見と対話（個別面談・家庭訪問等）の推進、クラスごとの体験学習の有効化。当校ではクラスごとに体験学習日を取っており、担任が得意とするものをたとえばホームルームのなかで授業としてやるようになっています。たとえばスキー教室、雪国体験などをやっています。そして学校行事の充実、選択授業の実施（魅力ある授業展開）、行事（イベント）の実施、各担任業務確認（教務日誌）と報・連・相の徹底。これが課長の教育方針となっています。これを受け、次は各担任がクラスに応じた方針、目標を出していきます。

こういったことを1年間続けるわけです。そして年度



の終わりに、最初に立てた目標と実際の結果の差をデータにまとめ、なぜ悪かったのか、なぜ良かったのかを原因分析します。そして、その結果についてのマネジメントレビューをして、目標達成できていればより高い目標を次年度に掲げ、達成できてなければ問題点を改善し次に生かす形で、次年度の目標を決めていきます。これが3月頃になります。

以上が品質目標、年度目標の、ISO上の手順となっています。このように1つ1つをこの手順に則って行っていくことになります。大変な部分もあるのですが、逆に目標や方針がすべての教職員に伝わるという大きなメリットがあります。

ここまで支援業務について、品質目標のなかの年度内目標と不適合サービスの2つを説明しました。次に、ここまで説明していない主要業務のうち、授業についての話をしていきたいと思います。基本的に他のプロセスの流れも同じですから、授業の流れが分かれば他のプロセスの流れも分かると思います。

ISO9001（主要業務プロセス - 授業）の流れですが、実はISOにはすべて手順書があります。資料1「授業管理手順書」をご覧ください。これは当校の実際のISOの認定書類をそのままコピーしてきたもので、当校のマニュアルになります。手順としてまず、7.1「教務課長は教科担当者に指示し、シラバス、教科書、問題集、学

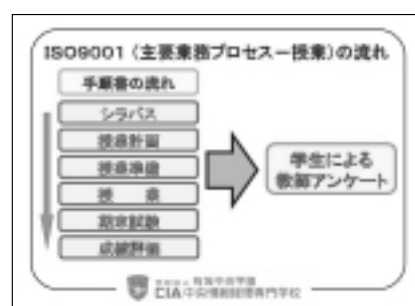
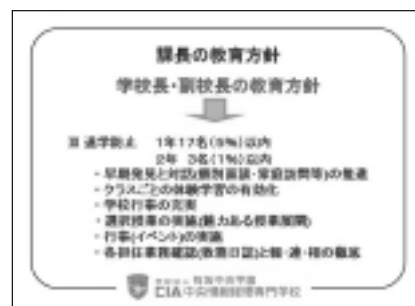


生生活の手引き、クラス別時間割、コース別名簿を参照して授業計画書!、出席簿!を作成させ、報告を受ける。また、適宜指導する。以下授業を行う手順が7.11まで書いてあります。次のページをご覧ください。さきほどの手順をフローチャートにしたものがあります。「授業業務の開始」ここから授業をスタートするという事です。その横に<インプット> 1.シラバス、2.学生生活の手引き、3.クラス別時間割、4.コース別名簿。これが基になって授業準備がスタートすることになります。つまりこれをもとに授業準備をして下さい、ということです。その下に7.1「授業計画を作成する」、左側に、シラバス、クラス別時間割、学生生活の手引き、コース別名簿、教科書、問題集とありますが、こういったものが入ってきて授業計画を作成する。授業計画を作成したら右側の授業計画書!と出席簿!が出来る、という流れになっています。

実際に授業計画を作成し、授業準備をして、授業をして、と進んでき、一番最後、年度末あるいは期末の段階で成績をつけて、成績証明書を送る。ここまで全部できあがった段階で授業の業務が完了するという形になります。

一番下の「授業業務の完了」の右側に<アウトプット> 1.成績証明書、2.期末試験問題、3.出席簿(出席がついたもの)、4.期末試験結果表"とあります。この段階で授業の業務がすべて完了したという形になっています。ちょうど真ん中の矢印のところですが、「授業業務の開始」から矢印が下りて7.1「授業計画を作成する」とあります。その右側に「J、K」となります。これは資料の左下に書いてあるように、「J」が教務課長、「K」が教科担当者を表します。ですから教務課長が教科担当者に「授業計画を作成して下さい」という指示を出すという形になっています。基本的にはこのような管理手順書、フローチャートを使って、年度の頭に新入職員研修を行っています。ひと通りの流れを新入職員に理解してもらうためです。初めて教職員になった者にとっては、何をやっていいのか分からない所があるので、このフローチャートで説明してから年度を始めることにしています。

簡単に今の流れを図にすると、このようになります。手順書の流れとして、まずシラバスがあり、次に授業計画をする。そして半期あるいは1年間授業をして期末試験を行う。そして最後に成績評価をするという流れになっています。これが大まかな授業の流れになります。



## 学生への教師アンケートを次年度の糧に

さて、今日の2つ目のテーマになるのですが、学生による教師アンケートを実施についてです。まず基本的には担任としてどうかと、教科の指導はどうかの2つをみています。1月25、26日の両日に2年生に教師アンケートを行いました。大勢が集まれる場所に、2班に分かれて2年生を集め、担任、教科担当者は一切場内にはいない状態で実施します。そのときは私ともう1人の職員の2人で実施しました。基本的には、教えている人間がいる場でアンケートは書かせないようにしています。今週の水曜日には高崎校の1年生を対象にアンケートを行いました。来週は本校の1年生のアンケート実施になります。

全て実施すると10日間位はかかってしまうのですが、学生に対する説明はすべて私が行っています。説明する人間が変わるとニュアンスも変わってしまうからです。またこのアンケートは先生を評価する道具としては一切使っていません。学生にもそれは話します。この調査は、あくまでも先生が来年度、どういう授業をやっていけばいいかについて、学生みんなの率直な意見を聞かせてほしいという意味で取っているのであって、これを使って先生の評価は一切やらないと学生に話しているわけです。

私自身もそうなのですが、自分ではなかなか気付かない面があります。例えば早口ではないか、言葉遣いが悪いのではないかなど、自分では分からない所があるので、みんなの率直な意見、感想を書いてほしいと話し、無記名でアンケートを取っています。

では、その教師アンケートの、まず担任について。資料3は学生に配る教師アンケート(担任用)をそのままコピーしたものです。「1. 私たちのクラス」。クラスに関してどうかを聞いています。「私たちのクラスはよくまとまっている」「私たちのクラスは活気がある」「私たちのクラスは挨拶がよくできている」「私たちのクラスはけじめがある」。これを4段階で評価してもらいます。次に「2. 就職の世話」。先生の就職の世話はどうか、「学生の就職の世話に対する満足度」も4段階で聞いています。またそれについてなぜかという理由を書く記述欄を設けています。ここにはかなり色々なことを書いてきます。そして「3. 学生指導」。『学生の悩み・相談に対するアドバイスについての満足度』。その先生に悩みを話したり、相談したりしやすいかどうか、あるいははしてくれるかどうかを、4段階で聞いています。基本的には担任に対するアンケートはこの3つの項目になっています。

学生による教師アンケート①  
担任に関して

1. 担任の指導

| 項目 | 内容               | 満足度 | 理由 | 改善 | その他 |
|----|------------------|-----|----|----|-----|
| 1  | 担任の指導は、おもしろいと思う。 | 5   | 4  | 3  | 2   |
| 2  | 担任の指導は、普通だと思う。   | 4   | 3  | 2  | 1   |
| 3  | 担任の指導は、面白くないと思う。 | 3   | 2  | 1  | 0   |
| 4  | 担任の指導は、ひどいと思う。   | 2   | 1  | 0  | 0   |

2. 授業内容  
3. 学生指導

高崎市立高崎高等学校  
CIA 公民館連携推進委員会

学生による教師アンケート②  
教科担当に関して

1. 先生の授業内容  
1-1. 先生は授業の内容が面白く感じますか?  
1-2. 先生は授業がわかりやすいですか?  
1-3. 先生は授業の内容が役に立っていますか?

2. 先生の授業  
2-1. 先生の授業は、面白く感じますか?  
2-2. 先生の授業は、役に立っていますか?  
2-3. 先生の授業は、役に立っていませんか?

高崎市立高崎高等学校  
CIA 公民館連携推進委員会

学生による教師アンケート③  
アンケート設計と結果について

1. 担任のアンケート実施  
1-1. アンケート実施の理由は何ですか?  
1-2. アンケート実施の時期はいつですか?

2. アンケートの項目  
3. アンケート結果の活用  
4. アンケート結果の活用・教科担当との連携、フォローアップ  
5. 改善のために実施したいこと

高崎市立高崎高等学校  
CIA 公民館連携推進委員会

次は資料4の教科担当に關しての教師アンケートです。これはそのクラスで教えている先生について取っています。ですから学生1人当たりほぼ7~8枚のアンケートに答えてもらうので、学生数約700人ですから約5600枚のアンケート用紙が戻ってくることになります。そして3月中にアンケートの集計結果を出す予定になっています。

教科担当のアンケートのまず1番として「1. 先生の総合評価」。1-1「先生に100点満点で点数をつけるとすると何点ですか?」という質問で、100点から0点までを5段階に分けています。具体的に点数を付ける方法もありますが、現在は5段階のうちどこに当たるか、マルをつけてもらっています。1-3「先生はあなたをどのくらい知っていると思いますか?」これは4段階でつけてもらいます。

「2. あなたの自己評価」。これはその先生の授業に

に対する学生の受講態度をつけてもらう項目です。学生の自己評価です。

次に「3.先生の授業」。ここがメインになるかと思いますが、回答番号4「先生の授業はわかりやすい授業である」、回答番号5「先生の授業は先生の熱意を感じる」等々、回答番号17までの14項目について、先生の授業についてのアンケート結果が出てくることになっています。

そして「4.検定指導」。「資格や検定取得の指導に対する満足度」を4段階で聞いています。これについては検定資格を取らない授業もあるので、その場合は回答しなくてよいことになっています。また回答番号10「黒板の字は読みやすい」というところで、コンピュータの授業などの場合、黒板の字を見たことがないというケースもあり、そういう場合も評価はしなくてよいと説明しています。このような形で教科担当の教師アンケートを実施しています。

教師アンケートを実施するうえで、当校が一番気を遣っているのが、まず同じ人間がアンケートを取ることです。アンケートを取る人間がそれぞれ違う言い方にならないように、1人の職員が話をし、回収まで行います。現在、私は科目を担当していないので、基本的には科目を教えていない人間がアンケートを取るという意味もあり、今年度は全て私が話しを行っています。

アンケートを取ったらその集計を行い、アンケート結果の確認をして、その結果を必ず担任と教科担当者に渡します。そして面接をして「来年度こういう部分を良くしていくともっと良くなるよ」という話をします。「ここがダメだ」という言い方ではなく、「こうしたら良くなる」という方向で面接を行い、先生にフィードバックしていきます。そして次年度に向けて改善していくことになるわけです。

なお、学生が書いたアンケート用紙は担任、教科担当者には一切見せません。あくまでも集計したもののだけです。筆跡が分かると誰が書いたか分かるということもあるので、アンケート用紙そのものは見せません。学生に対して先生が「なぜあんなことを書いたんだ」といったようなことがあると良くないので、集計が終わり、面接がすべて終わった時点で、消却します。

資料5として、実際に教科担当者に渡すアンケート結果のフィードバック用紙をコピーしてきました。これは簿記会計上級Bという選択科目で、受講している学生は5人。日商簿記1級、あるいは全経上級を取りたい経理系以外の学科の学生を対象とした科目です。これは、実は私の4年前のものです。支障がないように、自

分の、敢えて一番いいものを持ってきました。このような形で教員全員分の集計用紙を作成します。そしてこれを見ながら、校長先生や私と面接をして、次年度の改善点などを話していきます。それが3月～4月になります。これは非常勤の先生も含めて全員に実施します。ですから中央情報経理専門学校としては、70人くらいの先生と、1人当たり30分を目安に面接を行っていきます。年度末の忙しい時期であり、30分という時間をかけられない場合もありますが、できるだけ、面接をするようにしています。

これがもとになって、来年はこうする、という担任の先生の年度目標に繋がっていくという流れになっています。以上が当校で8年ほど前から継続して実施している教師アンケートの説明です。

### 「授業の流れ」がISOのすべて

そして今後の課題です。先程から説明してきたISO、教師アンケートを行っているわけですが、たとえば教師アンケートに対して、「嫌いだ。教師アンケートを取られてその結果が返ってくる。全体的にはすごくいい結果なのだが、1人だけすごいことを書いてきている。それでモチベーションが下がってしまう」というようなこと聞いたこともあります。私も担任をした経験がありますので、その気持ちも分かります。ただあえてそれを率直な意見と受け止めて、次に生かしていこうという話をしています。これはISOについてもそうですが、教職員の意識統一の推進が1つの課題になっています。

「1.全教職員の意識統一」ということで、「個のレベルを上げることが組織のレベルを上げることにつながる」としています。組織を良くしようという話はよくされるのですが、あくまでも個だということです。個人のレベルが一定以上に上がることによって、組織は必ずよくなる。個々の先生の資質の向上が一番だと考えており、そのために研修を行ったり、自己啓発の推進を行うなどしています。

またISOについては、「管理するための自己評価だけではなく、上に上がるための自己評価に」していきたいと考えています。もちろん管理は必要なのですが、そこを次につなげていくことが、マネジメントレビューとして位置付けられています。

次に「2.より高度な専門教育ができるプロの教師集団に」なりたいたいというのが、いまの学園の目標であり、1人ひとり信頼関係ができ、「あの先生なら大丈夫だ」という形にしていきたいと思っています。これは個のレベ

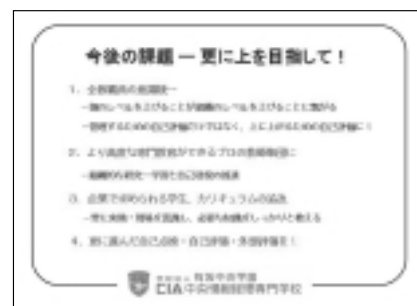
ルを上げていくこととつながっています。そのために「組織的な研究・学習と自己啓発の推進」が重要だと考えています。授業作り研究なども各科でグループを作って行って行く予定です。

「3. 企業で求められる学生、カリキュラムの追及」とは、あくまでも学生に対するサービスです。学生が学校に来て満足するだけではなく、就職をしてから「あの学校に行ってもよかった。あの学校で教えてもらったことが実務につながっている」といわれるように、先生が実務を語れるようになってもらいたいと思っています。元々、私は経理、会計、税理士関係だったので、毎年勉強していかないと、会計制度の変更や税法改正等についていけない所があり、極力継続してやるようにしています。私ができないのに他の先生にそうしろというわけにはいきません。まだまだ不十分な点もありますが、企業で求められる学生、カリキュラムを追及していこうとしています。「常に実務・現場を意識し、必要な知識をしっかりと教える」これがとくにビジネス系の学校は弱いんですね。私は、3年前は高崎ビューティモード専門学校の教務部長もやっていたので、先程お話されていた理美容系の苦勞も分かるのですが、理美容系の学科は逆に非常に職業の現場に近いと感じていました。ビジネス系の学校ではそれが弱いように感じています。ですから意識して取り入れていきたいと考えています。

最後に「4. 更に進んだ自己点検・自己評価・外部評価を」。特に今後もっとやっていかななくてはならないのが外部評価です。現在はISOで外部評価、外部監査をやってもらっていますが、評議員や保護者に関してはまだ弱い部分があります。そういった所を取り入れて、もっとオープンな自己点検・自己評価・外部評価を行っていきたいと考えています。

以上説明してきましたが、先程話をした授業の流れを理解して頂ければISOの他の流れも理解出来るのではないか、と思います。これがすべての工程において出来上がると、あとは実践するだけです。多くの方に対して、当校の業務はこのようになっている、ということ是非常に教えやすくなるので、ISOの認証を取る、取らないということではなく、そういったマニュアルを作っておくというのも1つの効果的な手段ではないかと考えています。

まとまりのない話しになってしまいましたが、私の話を何かの参考にして頂ければ幸いに思います。以上で終わります。ご静聴ありがとうございました。

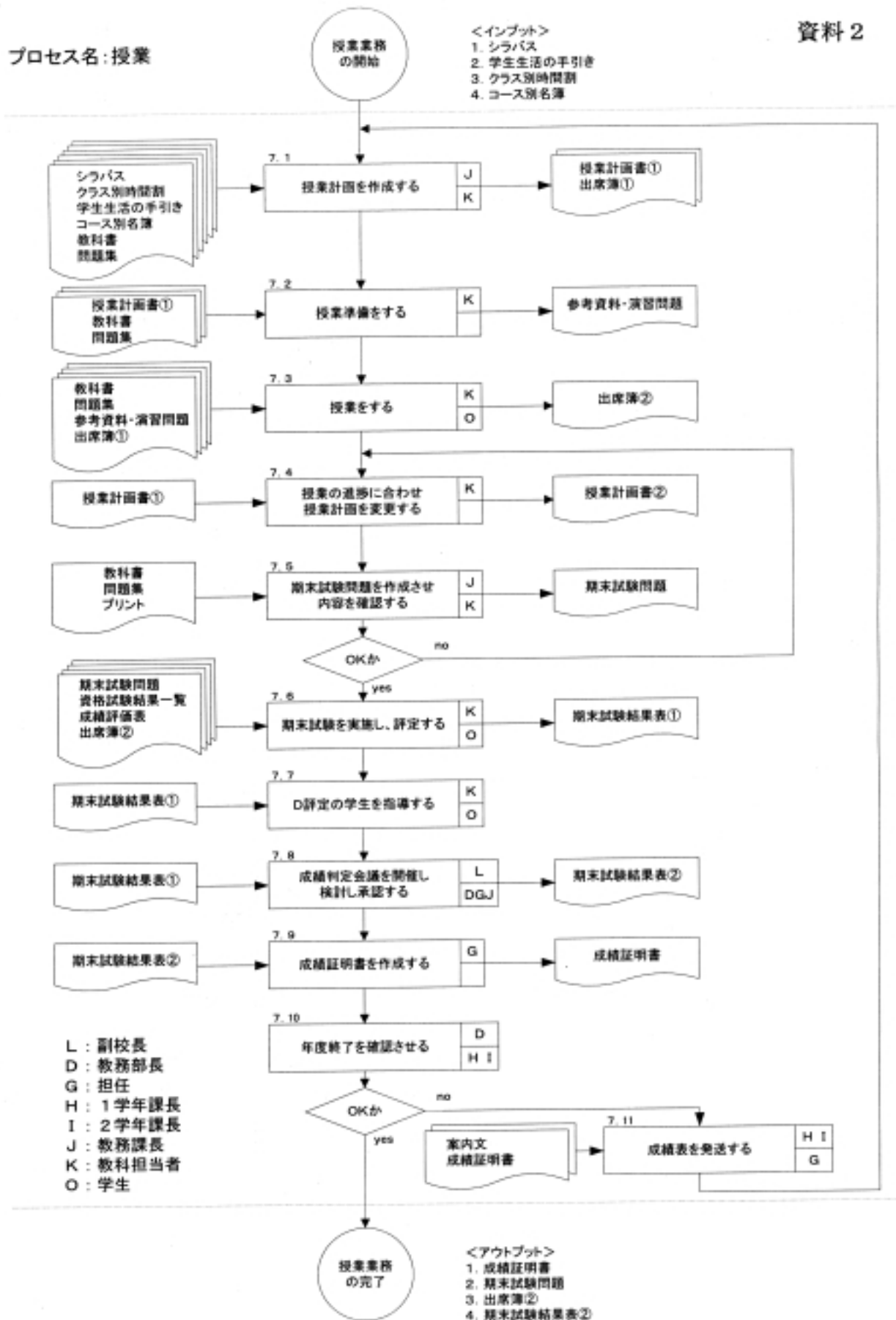


## 資料 1

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                         |                                             |    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|---------------------------------------------|----|
| 学校法人 有坂中央学園                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 授業 管理手順書<br>CH-PR-BP-07 | 頁 数：3/4<br>改版日：2001/09/07<br>改訂日：2005/03/30 | 改訂 |
| <p><b>7. 手 順</b></p> <p>7. 1 教務課長は教科担当者に指示し、シラバス、教科書、問題集、学生生活の手引き、クラス別時間割、コース別名簿を参照して授業計画書①、出席簿①を作成させ、報告を受ける。また、適宜指導する。</p> <p>7. 2 教科担当者は、授業計画書①、教科書、問題集を使い授業準備をする。また、参考資料や演習問題を作成する場合もある。</p> <p>7. 3 教科担当者は、学生に対して、教科書、問題集、参考資料、演習問題を使い講義（授業）をする。また、必ず学生の出席・遅刻・早退・欠席を確認し、その状況出席簿に記入する。</p> <p>7. 4 教科担当者は、授業終了時に、どこまで授業を進めたか必ず確認し、授業の進捗状況と授業計画書①の進捗を比較し、変更がある場合には、授業計画書①を変更する。</p> <p>7. 5 教務課長は教科担当者に指示し、期末試験問題を作成させ、チェックする。教科によっては、試験ではなく課題の場合もある。</p> <p>7. 6 教科担当者は、学生に対して期末試験を実施・採点し、その結果とともに資格試験結果一覧、出席簿②、成績評価表を参照して科目別の期末試験結果表①を作成し、担任に渡す。</p> <p>7. 7 教科担当者は、期末試験結果表①にD評定のある学生に対し、追試もしくは課題の指導を行う。</p> <p>7. 8 副校長は、教務部長、学年課長、教務課長、担任を招集して成績判定会議を開催し、期末試験結果表①を検討し、承認する。</p> <p>7. 9 担任は、確定した期末試験結果表②をもとに成績証明書を作成する。</p> <p>7. 10 教務部長は、1学年課長並びに2学年課長に対し、年度終了か確認させる。</p> <p>7. 11 年度終了ではない場合、1学年課長並びに2学年課長は担任に、案内文と成績証明書を発送させる。<br/>年度終了の場合は、進級判定管理手順書（CH-PR-BP-09）又は卒業判定管理手順書（CH-PR-BP-10）を参照する。</p> |                         |                                             |    |

プロセス名: 授業

資料 2



資料 3

記入日 平成 年 月 日

中央情報経理専門学校

**教師アンケート (担任)**

|       |  |     |      |     |  |
|-------|--|-----|------|-----|--|
| 教師コード |  | 学 科 |      | 学 年 |  |
| A001  |  |     | コー ス |     |  |

まず、先生の指示にしたがって上の欄に必要事項を記入してください。  
次に、以下の質問に、適切と思う答えを、カタカナを○で囲んで答えてください。また、質問によっては、記述欄に文章で答えてください。

1. 私たちのクラス

| 回答番号 | 質問項目                  | 十分満足している | やや満足している | あまり満足していない | 全く満足していない |
|------|-----------------------|----------|----------|------------|-----------|
| 1    | 私たちのクラスは、よくまとまっている。   | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 2    | 私たちのクラスは、活気がある。       | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 3    | 私たちのクラスは、教師が優しくできている。 | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 4    | 私たちのクラスは、けじめがある。      | ア        | イ        | ウ          | エ         |

2. 教職の世話

2-1. 学生の教職の世話に対する満足度

| 回答番号 | 十分満足している | やや満足している | あまり満足していない | 全く満足していない |
|------|----------|----------|------------|-----------|
| 5    | ア        | イ        | ウ          | エ         |

2-2. それはなぜですか?

記述欄

3. 学生指導

3-1. 学生の悩み・相談に対するアドバイザーについての満足度

| 回答番号 | 十分満足している | やや満足している | あまり満足していない | 全く満足していない |
|------|----------|----------|------------|-----------|
| 6    | ア        | イ        | ウ          | エ         |

3-2. それはなぜですか?

記述欄

おつかれさまでした。

その他、意見があればこの記述欄に書いてください。

先生に対しての意見

あなたのクラスに対しての意見

記入日 平成 年 月 日

## 教師アンケート(教科担当)

中央情報経理専門学校

|          |      |
|----------|------|
| 科目名      | 新設科目 |
| 基本情報処理対策 | AC09 |

|     |      |     |
|-----|------|-----|
| 学 科 | コー ス | 学 年 |
|-----|------|-----|

まず、先生の指示にしたがって上の欄に必要な事項を記入してください。

次に、以下の質問に、適切と思う答えを、カタカナを○で囲んで答えてください。また、質問によっては、記述欄に文章で答えてください。

## 1. 先生の総合評価

1-1. 先生に100点満点で点数をつけるとすると何点ですか?

|      |          |         |         |         |        |
|------|----------|---------|---------|---------|--------|
| 回答番号 | 90点~100点 | 70点~89点 | 50点~69点 | 30点~49点 | 0点~29点 |
| 1    | ア        | イ       | ウ       | エ       | オ      |

1-2. それはなぜですか?

記述欄

1-3. 先生はあなたをどのくらい知っていてくれていると思いますか?

|      |                      |                       |          |          |
|------|----------------------|-----------------------|----------|----------|
| 回答番号 | どのようか学生であるか<br>知っている | どのくらいとどの程度は<br>一致している | ほとんど知らない | 何も覚えていない |
| 2    | ア                    | イ                     | ウ        | エ        |

## 2. あなたの自己評価

2-1. あなたのこの授業の受講態度はどのくらいだと思いますか?

|      |          |         |         |         |        |
|------|----------|---------|---------|---------|--------|
| 回答番号 | 90点~100点 | 70点~89点 | 50点~69点 | 30点~49点 | 0点~29点 |
| 3    | ア        | イ       | ウ       | エ       | オ      |

2-2. それはなぜですか?

記述欄

## 3. 先生の授業

| 回答番号 | 質問項目                                | 十分満足している | やや満足している | あまり満足していない | 全く満足していない |
|------|-------------------------------------|----------|----------|------------|-----------|
| 4    | 先生の授業は、わかりやすい授業である。                 | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 5    | 先生の授業は、先生の熱意を感じる。                   | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 6    | 先生の指導は厳しいが、信頼できる。                   | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 7    | 授業の開始と終わりは明確であり、けじめがある。             | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 8    | 授業中のほめ方・罰りの正し方は適切である。               | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 9    | 先生は、はっきり聞き取れる。                      | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 10   | 先生の声は、聴きやすい。                        | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 11   | 先生の知識や授業準備は、十分である。                  | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 12   | 学生が興味を持つように工夫し、また授業のしかたもじょうずである。    | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 13   | テキストやレポートの採点結果は、添削や解説が十分されている。      | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 14   | 各学生に関心を持ち、適切なアドバイスをかけてくれる。          | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 15   | 授業中の遅延りや出席に対して注意をしている。              | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 16   | 授業中の携帯電話のデマナーや、机上の取っ手について注意喚起をしている。 | ア        | イ        | ウ          | エ         |
| 17   | 先生の学生への対応が公平である。                    | ア        | イ        | ウ          | エ         |

## 4. 検定指導

4-1. 資格や検定取得の指導に対する満足度

|      |          |          |            |           |
|------|----------|----------|------------|-----------|
| 回答番号 | 十分満足している | やや満足している | あまり満足していない | 全く満足していない |
| 18   | ア        | イ        | ウ          | エ         |

4-2. それはなぜですか?

記述欄

その他、意見があればこの記述欄に書いてください。

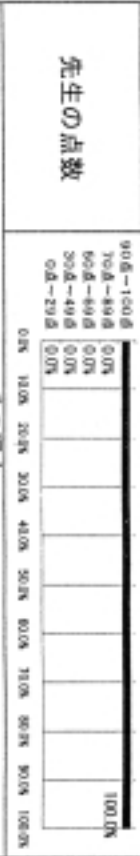
先生に対しての意見



**教科担当の評価** 科目名:簿記会計上級B 教師コード: ■

学年:2年 学科:情報ビジネス、情報システム  
 生徒数:5人 コース:MOA、システムエンジニア、コンピュータ会計

**先生の総合評価**

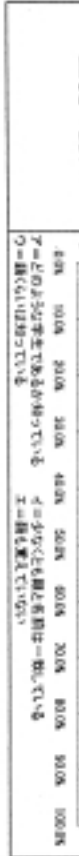


その理由

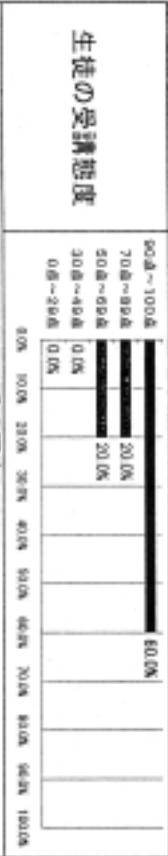
<90点~100点>  
5 (100.0%)

・説明することは詳しく、わかりやすい。  
 ・出題が多くて練習できた。教える方は学校も働かれています。  
 ・本気を持って教えてくれたからです。  
 ・通う学校だったので授業に力をつけて上にも校務員や休日まで練習をして頂きました。

**生徒の認知**



**生徒の自己評価**



その理由

<90点~100点>  
3 (60.0%)  
 ・理解することはありました。  
 ・休んだことが一回心がいからず。  
 ・すべての練習を覚えのめしたのがあったので真剣に聞いていました。  
 記憶なし

<70点~89点>  
1 (20.0%)

<50点~69点>  
1 (20.0%)  
 ・疲れてしまったことがありました。

**先生の授業**

|             | 十分満足している   | やや満足している  | あまり満足していない | 全く満足していない |
|-------------|------------|-----------|------------|-----------|
| わかりやすさ      | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| 音量          | 4 (80.0%)  | 1 (20.0%) | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| リズム         | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| リズム         | 3 (60.0%)  | 2 (40.0%) | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| リズム         | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| 声の調子        | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| 黒板の字        | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| 授業準備        | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| 説明の仕方       | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| テスト・レポートの解説 | 3 (60.0%)  | 2 (40.0%) | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| テスト         | 3 (60.0%)  | 2 (40.0%) | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| 授業          | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| 指導          | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |
| 公平な対応       | 5 (100.0%) | 0 (0.0%)  | 0 (0.0%)   | 0 (0.0%)  |

**検定指導**

|                           | 指導に対する満足度 | その理由                                                                                               |
|---------------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <十分満足している><br>3 (75.0%)   |           | ・練習しました。<br>・問題プリントを聞いて、しっかりと練習して頂きました。<br>・本気におかして、練習をとおして皆さんの練習をして頂き、おかげで目標としていた資格に合格することができました。 |
| <だいたい満足している><br>1 (25.0%) |           | 記憶なし                                                                                               |
| <あまり満足していない><br>0 (0.0%)  |           |                                                                                                    |
| <まったく満足していない><br>0 (0.0%) |           |                                                                                                    |

**学生からの意見**

・忙しい中、練習までして頂き、ありがとうございます。とてもよい授業でした。  
 ・質問について答えてくれたのが嬉しかったが、丁寧に説明して頂きさらに練習していきたいと思っております。ありがとうございます。

**学校長所見欄**

総務部長  
内本 康雄

# 教員の資質向上をめざして

## 日ごろの自己研鑽によるスキルアップを

皆さん、こんにちは。広島工業大学専門学校の内本と申します。本日はよろしくお願いたします。

本日はこのような発表の場を与えていただきまして、本当にありがとうございます。私は学校では建築グラフィック学科での教員として、また校務分掌では総務部部長として教育活動を行っていますが、本日は総務部部長の立場で、本校の自己点検評価について発表させていただきます。

やはりいま18歳人口の激減というなか、大学全入を迎え、大学も短大も専門学校もそれぞれが学生確保という面ではいろいろな取り組みをされながら、個性豊かな学校づくりに苦慮されていると思いますが、その決め手になるのは学生の満足度ではないかと本校は考えています。その学生満足度のなかで何が勝負と考えるかですが、やはり授業ではないでしょうか。「教員の資質向上をめざして」を本日のテーマにしていますが、よい授業を展開していくには、教員が日ごろからそういう意識を持って自己研鑽してスキルアップすることが重要ではないかと考えています。

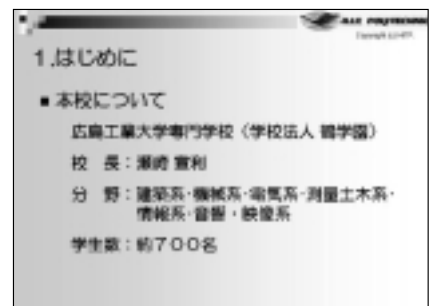
そして、教員に求められる資質を考えると、1つは知識です。これは変化する専門知識、技術の習得ということになるかと思いますが、それだけでは駄目だと思います。

2つ目は伝達力、学び手である学生にいかにつけていくかという技術です。それから心の理解。これは学生、また教員同士の信頼関係を構築すると考えています。

教員の資質向上という観点から、本校ではさまざまな取り組みをしていますが、本日は自己申告による目標管理、授業改善アンケート、それから管理職による授業観察という3点について発表いたします。私も1人の教員でもありますので、実際にいまの取り組みのなかで感じていることや、成果が上がっていると思われる部分をお話しさせていただきます。

## 自己申告による目標管理

はじめに、本校について少し紹介させていただきます。本校は広島



にある専門学校で、学校法人鶴学園には、なぎさ公園小学校から付属の中学校、それから高等学校が3校、そして広島工業大学・同大学院が設置されており、小学校から大学院までの学園ネットワークのなかの専門学校ということになります。法人は今年、節目の50周年を迎える歴史のある学園です。分野としては建築系、機械系、電気系、測量土木系、情報系、そして音響・映像系の学科があり、いわゆる総合専門学校として学生数が700名規模の学校になります。

本校は授業を大切に考え、そのために我々教員の資質の向上をめざして、さまざまな取り組みをしていますが、まず、自己申告による目標管理から具体的にご説明させていただきます。

まず「目的」。これが非常に重要なわけですが、「教員自らが学校経営目標に基づいて自己の1年間の目標を設定し」とあるように、各教員の目標が学校全体の目標と異なっていれば学校全体の目標が達成されませんから、1年の初めに学校全体の学校経営目標を立て、それを各教員がきちんと把握したうえで、個々に目標、それぞれの職責の目標を設定します。また、それを教員自らが評価することによって、自主的、意欲的な職務への取り組みを促し、学校教育目標の着実な達成を図るとともに、教員1人ひとりが意欲の向上、使命感の高揚、能力開発を図る、ということを目的にしています。ではどのように実施するかですが、資料1の実施方法をご覧ください。

最初に、各教員は職責に応じた項目について、4月から3月までの1年間の目標を設定し自己評価を行い、それに対して面接で、校長等が指導、助言、および評価を行います。私も建築の教員であり、また総務部長として、さらにクラス担任も持っていますので、それぞれ学校の目標に応じた個々の目標を設定します。

自己目標は学校経営目標をふまえて自己申告書に記入し、校長等との面談を通じて追加修正を行います。とくに数値目標を極力設定するよう求められますから、場

合によっては、たとえば資格取得について何人受験させるのかなど、校長からの追加修正があります。

その後、管理職による授業観察があります。それにより管理職は教員の職務遂行状況を適切に把握することに努め、必要な指導・助言を行います。

また、教員は中間期に中間自己評価を、年度末に最終の自己評価を行い、それぞれ校長および管理職が指導・助言と評価をします。各教員から提出された自己申告書に対し、校長等は指導・助言欄に記入し評価を行うのですが、「資料2」が実際に使っている自己申告書の様式です。教員個人の情報、所属・分掌、クラス担任は持っているか、クラスの学生数など、一般事項の情報も記入し、一番大きな欄に学校経営目標と個人の担っているところとの整合性を表して、取り組み課題を記載しています。

それから、「昨年度の成果と課題」という欄がありますが、申告書は単年度ごとで終わるのではなく、1年が終わればそこに継続課題が生まれます。そこに授業アンケートの結果や授業観察での校長等の評価も盛り込まれ、それが年度をまたいだサイクルになります。この部分が自己管理の基準となって、自己評価をするシステムになっています。ここには5項目それぞれの目標を立てるようになっていますが、学校全体の目標に対して個人の目標を照らし合わせます。たとえば教科指導であれば、学生には専門的職業能力をしっかりと付けさせ、卒業時には即戦力として、また20年後にはその分野のスペシャリストとして活躍してもらおう、というのが学校の目標の1つであるとする、そのために各教科の期末試験では全員に60点の合格点を取らせる、というのが成果目標です。それに対して努力目標はその手だてであり、全員に最終的に期末試験で60点を取らせるために毎時間ごとにポストテストを行う、というようなことを記載していきます。さらに資格取得についても、当然専門学校ですから資格取得の機会の拡大と受験指導の強化を学校全体の目標として掲げています。私の所属している建築グ

ラフィック学科では、専攻科という2級建築士の取得をめざす科がありますが、たとえばそちらでの2級建築士の合格率を90%以上にするという数値目標を掲げます。そのための手だてとしては、放課後の補充指導、または個別指導に継続的に取り組むなどの目標を掲げていきます。

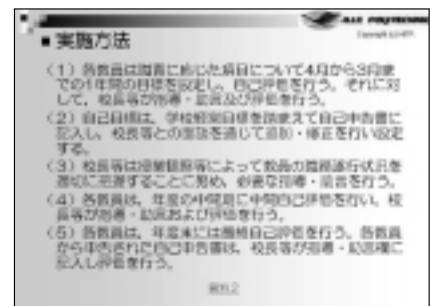
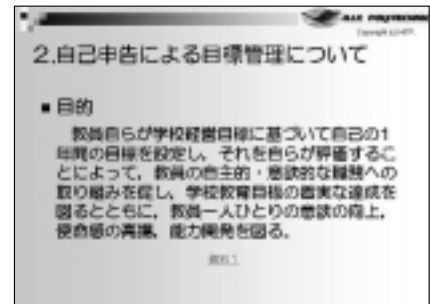
また、退学率も問題になりますが、たとえばクラス運営のところでは学校全体の1年次の退学率を8%以下、全体でも5%以下に抑えていこうという目標を掲げたとすると、私のクラスでは退学者をゼロにするという形で極力目標を数値化して、それが達成されているかどうかということを確認する、という申告書になります。

校務分掌では、総務部はいま学校評価の点についても業務が割り振られているのですが、それとは別に体育祭やクラスレクリエーションなどの学校行事について企画・運営を担当しています。学生が参加しやすい行事を考えて、学生の行事の出席率を90%以上にする、というように具体的に掲げるわけです。

さらに、いま広島県建築士会ではC P D・専攻建築士制度という新しい建築士の資格制度に取り組んでいます。私も建築の専門分野の教員ですが、私自身がその登録のために建築士会や建築学会などが主催する研修会や勉強会に年間最低10回以上は参加するという数値化した目標を手だてとしています。

5月1日を基準日として年間計画を立てます。「資料1」の3の「申告基準日及び面談実施期間」、面談実施期間というのは、校長による面談が各教員の目標設定の後にあるということです。なお、そのときに本人が自分のどの職責が一番重要なのかと、その重要度を記入することになっています。

それから面談を受けるわけですが、そのなかで目標がより数値化されていない抽象的な部分については、校長から追加訂正がされたり、目標設定の変更なども行われ、その目標をまた管理しながら教育活動を行っていきます。本校は、前期が9月末で終わり10月から後期となる2期制をとっていますが、後期がスタートして1カ月後、11月1日時点でどのくらい達成できているのかということも自己評価によって判断しやすくなります。「資料1」の4はあくまで自己評価の5から1という形で達成度を記入していきます。この後にも11月中に管理職による面談がありまして、自己評価に対して、「目標では退学者ゼロとしたのに対し退学者が出ているのだから、こんなに高い評価ではないだ



ろう」という形で指導が入ります。

1年が終わって、基準日が3月1日になりますが最終自己評価が行われます。数値が達成されたのか。たとえば建築士の合格率が90%を超えたのか、行事の出席率が90%とうたっているけれどどうなのかというように、それぞれの成果目標、努力目標に対して自己評価をまた5から1までの基準でつける。そして最終面接ということになりまして、下のほうに「継続課題」とあります。これが1年をふりかえて次年度への積み残しになり、それがまた次の年の申告書の上の「昨年度の成果と課題」の箇所に入って、最終的な継続課題として次年度も継続的に取り組んでいくことになります。

なお授業観察では、校長や管理職の面談のときに、学生からの授業アンケートの結果がここに入ります。さらに平均点とか、平均点×出席率、改善項目（これは学生が自由コメントに書いてあるような点がそれになったり、極端に平均点が下がっている事例が改善点になったりするわけですが）など、こういった項目によって教員が自己点検、自己評価をはかれるようなシステムになります。自己申告については帳票も含めてできるだけ具体的に、これは実際私も書いていますので、自分の持っている課題というのをしっかり確認しながら、これを基に1年間にわたり教育活動をしていきます。この自己申告による目標管理は平成15年度から取り組んでおり、ちょうど3年たっています。ただ、帳票についてはマイナーチェンジが繰り返されています。後ほど紹介する「授業改善アンケート」そのものはかなり前から採ってありましたが、当初は教員が自分で共通のアンケート用紙を持って学生からアンケートを受けて、自己管理のもとに授業アンケートを行っておりました。授業アンケートの結果を申告書に盛り込むようになったのは、平成17年度からです。現在の授業アンケートの形式になったのは、昨年1月が最初になりますので、これから反映されていくようになるということです。

## 授業改善アンケート

次に授業改善アンケートに入ります。いまご説明したとおり、授業改善アンケートがこれからご紹介する形で行われるようになったのは、昨年の1月からです。それまでは期間は設定されていましたが教員が自主的に行い、自分なりにまとめて管理職に提出し、確認してもらうという授業アンケートでした。その目的は、担当教員が学生からの評価を受けて授業の改善を図り、よりよい授業を実現することです。現在の実施方法は、教員が学生からじかにアンケートをとるのではなくて、校長、副校長、教頭、事務長という管理職がアンケートをとります。調査対象は専任と特任の授業で、非常勤講師以外のすべての教員の授業となります。非常勤講師の授業は、このアンケートを実施していません。実施方法は年に2回、昨年の1月からですから、いまちょうど3回目が終わるところになりますが、7月と1月に管理職が各科目の授業観察をします。管理職が実際に授業に入っていきます。本校は90分授業ですが、基本的に実習科目でなくて座学の授業を見ます。そして終了する10分前に授業を打ち切って、アンケートを実施します。私の授業にも昨日観察が入り、実際に授業を見てもらいました。まだ集計結果は出ていませんが、学生からアンケートを採りました。また、アンケートの集計・分析は、管理職が行います。アンケート結果は集計して、各教科の質問項目の平均点、それから全体の総合点の平均点等の集計を行い、その結果を校長から授業担当者に伝えます。各質問項目の平均点、また学校全体で一番高い教員の点はこうだったという各項目、それから低いほうのもの、平均のもの、そして自分のものとなります。自分のものには表だけではなくて、学生からのコメントも「こういう自由コメントがあったよ」と校長から渡されます。このように行っています。

アンケートの項目は4分野にしています。第1分野が授業環境の8項目、第2分野が授業指導の12項目と授業全体の評価の2項目。これが別紙の資料3で、クラ

スと名前を記入して学生に答えてもらいます。ただし、アンケートは管理職だけが見る、また結果を集計したものを各教員は確認すると伝えて行っています。回答は基本的に5段階評価で1から5、つまり1がよくなって、5が非常によいという5段階評価です。たとえば授業環境についてであれば、出欠席の処理が公平かどうか、授業開始時間にはちゃんと教員は来ているか、さらには机の整頓やごみ等、勉強する環境をきちんとつくっているか、というところで1つひとつ学生に答えてもらったものを、それぞれ教科ごとに1項目ずつの平均点を出示します。それから授業環境・授業指導・授業全般が3分野です。ここまでは5段階評価です。4分野の自由コメント以外は5段階で評価が行われて、質問項目ごとの平均点、それから総合計の平均点ということで集計が行われます。自分のどの項目が学生から評価されていないとか、ここは評価されているというのが、数値で反映されてわかりやすいということになります。

最終的にはアンケートの集計結果を学校のなかで公表しています。全体の集計結果は全教職員に周知するとともに、掲示して学生に公表します。また授業評価については、平均点×出席率を評価ととらえて、高い順にベスト20まで一覧表にして、学生掲示板に張り出します。集計結果は、それぞれの項目で5点満点の平均点を取って、それぞれの数値を各教員に通知します。教員はそれぞれの平均値と自分の数値を比較して、分析結果を活用しながら授業改善に努めています。

昨年の1月からですので、まだまだこれからなのですが、7月に実施された調査では、全項目の平均点が少しずつでも上がっており、まずまず評価されているところです。

ということで、本校では授業アンケートを基に管理職が各教員に面談を行い、各教員の指導や改善点などに活用し、さらには学生のほうにもそれを明らかにして授業改善に努めているという報告をさせていただきました。ここで何かご質問はあるでしょうか？

### 質問1

御校の取り組みを大変興味深く聞かせていただいたのですが、とくにまず1点目。教員の授業アンケートといえば、大学その他を含めても、教員の自主的な意志に基づいて実施されるのがふつうだと思うのですが、それをおやめになって管理職が実施するということになれば、

3.授業改善アンケートについて

- 目的  
授業担当教員が、学生からの評価を受けて、授業の改善を図り、より良い授業を実現する。
- 実施者  
管理職（校長、副校長、教頭、事務長）
- 対象者  
全教員（専任及び特任）

■ 実施方法

- （1）年に2回（7月・1月）、管理職が各科目の授業観察を行うと共に、授業終了後10分程度経過の時間をとり授業アンケートを実施する。
- （2）アンケート調査の集計・分析は、管理職が行う。
- （3）アンケート結果は、集計して各教科ごとに質問項目の平均点、総合計の平均点等の集計を行い、その結果を校長より授業担当者に伝える。その改善点があれば校長より指導を行う。

■ アンケート項目

- （1）第1分野（授業環境）8項目
- （2）第2分野（授業指導）12項目
- （3）第3分野（授業全体の評価）2項目
- （4）第4分野（自由コメント）

■ アンケートの集計・分析

アンケート項目（自由コメント以外）は5段階評価で行い、質問項目の平均点、総合計の平均点等の集計を行う。

■ 集計結果の公表

全体の集計結果は全教職員に周知すると共に、掲示して学生に公表する。  
また、授業評価（平均点×出席率）の高い順に「教員評価ベスト20」を一覧表にして公開する。

授業評価アンケートグラフ

これは最初の導入時からスムーズにできたのか、いろいろあったのではないかと拝察します。

2点目は、私どももそういうことを実施してみたいという気持ちは持っているのですが、半面怖いという気持ちもあります。大学などでも教職員関係の組合等もいろいろあるかと思うのですが、これについての問題点は起きていないのでしょうか。

#### 回答1

いまお話のあったような問題は起こっておりません。本校では、当初から教員が自主的に学生からアンケートをとることに抵抗感なく実施しておりました。それが管理職が行うアンケートに変わったということですが、学生からの評価を得るといことが本校ですでに定着していたというのがあると思います。抵抗感がないということですね。

当然、なかにはいろいろな意見がありました。ただし、いま本校は現在の校長の下に、とくに教員の資質向上をめざした意識改革がこういう取り組みのなかで進んでいるということで、徐々にですが成果が上がっているのではないかと考えています。ですから、いまちょうどアンケートも3回目ですが、とくにおっしゃられているような問題は起こっておりません。

#### 質問2

アンケート自体について質問したいのですが、あくまでも座学が対象ということですが、教員のなかにはほとんど実習中心という方もいらっしゃるかと思います。そのような場合に不都合等はなかったのでしょうか。

#### 回答2

基本的には、専任の教員は何か1つは座学を持っています。アンケートをとる時期によっては、どうしても実習系の科目しかないようなことはありましたが、そのときは実習の科目を観察することも一部にはありますが、基本的にはほとんど座学での授業観察とアンケートを基本として実施しています。

#### 質問3

非常勤の教員を除外している理由をお聞かせいただきたいのと、前に戻りますが、学校としての目標を最初に設定して、あと個人に目標をまた設定させるというやり方ですが、学校の目標というのはだいたい概略でどの程度のところまでお出しになるのか、かなり細かなところまで出すのか、その2点をお願いします。

#### 回答3

非常勤の教員を外しているというのは、段階をふまえるという目的があるかと思えます。ちなみに、以前行っていた教員が自主的にとる授業アンケートは、非常勤の教員にも実施してもらっていました。それぞれ教員の参考にしてもらい、授業をよくしていこうということはやっていましたが、今回管理職がしかも授業観察を行いながらという形のは、まずは専任の教員からということでスタートしています。

それから目標管理ですが、学校法人鶴学園の1校として、当然学園の基本方針にしたがった年度ごとの学校経営目標というものを運営計画にして、目標を定めてやっています。専門学校ですから資格取得とか、さきほどの学生確保などのことも含めてですが、退学率など具体的な数値目標を設定のうえ掲げられています。ですから、それに添った個々の目標を定めて管理していくというのが、自己申告による目標管理になるということです。

#### 管理職による授業観察と評価について

さて、学生による授業アンケートの際、その授業時間中に管理職はその授業を観察し、授業内容や展開、学生の学習態度等について授業評価を行います。これは、授業は教員だけのものではなくて、学生を含めた全体のもので、学生が居眠りをしていただけでは意味がありません。そういう場合は適切に指導したり、授業をする教室のなかの環境を整えながらやっています。したがって、学生が集中しているかどうかということも含め

て見ます。基本的には、授業の最初から教室に入り、アンケートをとる10分前まで学生と同じように席に着いて観察を行います。場合によっては、校長等観察した管理職から、授業改善指導が行われることもあり、さきほどの授業アンケートと授業観察はセットで行われます。1月と7月の2回。昨年の1月からですからちょうど3回目で、今日は1月末日ですから、今日で全教科の専任教員の観察が終わるということになります。

以上、全部で3つのテーマについてお話しさせていただいたのですが、ご質問があればお答えしたいと思います、何かございますか。

#### 質問4

貴重なご講演ありがとうございます。実施されている授業アンケートに関しては、私どもの学校にあてはめると、なかなか厳しいなイメージしています。とくに授業評価で、教員評価ベスト20をもう学生にも公表するというのは、ちょっと強烈かと感じます。この20に選ばれなかった教員も当然いらっしゃると思うのですが、それを学生の前に公表してしまうと、その教員は非常に肩身の狭い、いわゆる評価、レッテルを張られてしまうことになるのではないかと思います。そうすると、教員に対するあとのケアはどうされているのでしょうか。これが授業評価と結びついて、それで切り捨て御免という、いわゆる能力評価につなげていらっしゃるのか、また、その教員に対しての指導だけでなく、学生の前に張り出されてしまうのは、ちょっと抵抗があるのではないかと思います。その辺りの実体をお知らせいただきたいと思います。

#### 回答4

私自身もそこに入っているわけですので、最初に実施されたときは、私もインパクトが強く、確かに順位付けというのは強硬なやり方だと思いました。教員にも、いろいろな意見はあるのですが、さきほどお話ししたように出席率等の係数がかけられていますから、実は条件が一緒ではないんです。つまり、1限目の授業でアンケートを採られる教員、2限目で採られる教員では、1限目のほうが学生の遅刻や欠席が多いというのわかりますね。ですから、それぞれの教員がそれも含めて自分の評価に対して、自分でどう改善していくかという目安にしていますので、逆に戦略的に出席率のいいクラスを狙う

4.管理職による授業観察と評価について

- 学生による授業アンケートの際、その授業発問中、管理職はその授業を観察し、授業内容や展開、学生の学習態度等について授業評価を行う。
- 場合によっては、校長から教員に対して授業改善指導が行われる。

5.その他の教員資質向上への取り組み

- (1) 研究授業（評価の高い授業を観察）
- (2) 教員研修
- (3) 一人一研究の取り組み
- (4) 教員の企業研修
- (5) 教員企業訪問研修
- (6) 教職員の総礼時におけるOJT

6.おわりに

- 本校の自己点検・評価
  - (1) 教育活動の充実・向上  
教職員が職務について改善意識を常に持ち、資質の向上を図る。  
(自己申告による目標管理)
  - (2) 社会に対する説明責任を果たす  
客観的な点検・評価の結果を踏まえ、社会的評価を上げる。  
(授業改善アンケート)



というような発想は教員の間ではまったく出てきません。実際にすでに2回発表されていますが、1回目に1番だった教員が、次も必ず1番ではないですし、出席状況なども加味した形になっていますので、それをトータルに教員が噛み砕いて努力していくという形で取り組んでいます。ですから、ケアという意味では、当然校長の面談等もありますので、そういうなかでいろいろ分析して話をしていくことになります。ベスト20に入らなかったからとか、そういう状況は学校内では起こっていません。

さて、本校の自己点検評価における3つの取り組みについて、私自身も一教員の立場から、具体的にお話しさせていただきました。そのほかにもいろいろな取り組みをしまして、研究授業というものをしています。

これは、評価の高い教員の授業をほかの教員が観察をして勉強する、という取り組みです。それから、それぞれの教員が外の研修会とかで勉強した内容を共有する教員研修会というものを年2回行っています。また、夏には1泊2日で、教職員のチームワークも含めて研修をしたり、それぞれの専門分野または教育活動でのスキルを上げる目的から、1人1研究への取り組みがあります。4番目として教員の企業研修があり、これは夏季休業中の期間を使って、教員が実際に企業へ行って、たとえば私のような建築系であれば構造の設計事務所に2週間行って勉強してくるといった研修です。また次の教員企業訪問研修は、企業が現在求めている人材であるとか、学校に求めている授業内容を実際にヒアリングして教員が把握するということが大事だという目的で、毎年少なくとも2社以上、およそ5、6社回るのですが、企業訪問をしてヒアリングをさせていただきます。また、その過程のなかでは、たとえばインターンシップへの受け入れや、求人につながる企業の開拓というようなことも行っています。

さらに、本校では毎朝朝礼を行っているのですが、そのときのOJTとして、朝礼は8時30分からスタートして、授業が始まる9時までの間、時間は少ないのですが、10分から15分ぐらいで教員1人ひとりが順番で、自分の専門分野のことや、教育活動のなかでこういう成果があったということを発表して、それを共有するという取り組みも行っています。こういうさまざまな取り組みは、まだ現在はそれぞれ個々に行っている感じですが、さきほどの自己申告による目標管理から、授業アンケート、授業観察のようにシステム化できるように、いろいろ考えながら進めているところです。

最後に、本校の自己点検評価の目的を考えたときに、まずは教育活動の充実・向上ということがあります。教職員が職務について改善意識を常にもって資質の向上を図る。これは、いま自己申告による目標管理において取り組んでいるところです。もう1つは、社会に対する説明責任を果たすというもので、客観的な点検、評価の結果をふまえて社会的評価を上げる。すなわち、できるだけ数値でわかるような点検をしようということです。たとえば授業改善アンケートは5段階で点数化して、その動きを見ることによって教育活動の改善が図られているかどうか点検できるのではないかと。本校においても、将来の第三者評価に向けてという意味では、まだまだそれぞれの取り組みが別々なものになっているような状況で、システムの構築されるということには至っていない状況です。

新たな取り組みとしては、シラバス授業シートへの取り組みが今年度から各教員に課せられて実施している次第です。まだまだ第三者評価に向かっては準備不足ですが、本校が取り組んでいる点検評価の1つの取り組み例を本日は紹介させていただきました。長時間にわたりお聞きいただき、ありがとうございました。

## 自己申告による目標管理について

広島工業大学専門学校

## 1. 目 的

自己申告による目標管理は、教員自らが学校経営目標に基づいて自己の 1 年間の目標を設定し、それを自らが評価することによって、教員の自主的・意欲的な職務への取り組みを促し、学校教育目標の着実な達成を図るとともに、教員一人一人の意欲の向上、使命感の高揚、能力開発を図るものである。

## 2. 実施方法

- (1) 各教員は職責に応じた項目について 4 月から 3 月までの 1 年間の目標を設定し、自己評価を行う。それに対して、校長等が指導・助言及び評価を行う。
- (2) 自己目標は、学校経営目標を踏まえて自己申告書に記入し、校長等との面談を通じて追加・修正を行い設定する。
- (3) 校長等は授業観察等によって教員の職務遂行状況を適切に把握することに努め、必要な指導・助言を行う。
- (4) 各教員は、年度の間中期に中間自己評価を行い、校長等が指導・助言および評価を行う。
- (5) 各教員は、年度末には最終自己評価を行う。各教員から申告された自己申告書は、校長等が指導・助言欄に記入し評価を行う。

## 3. 申告基準日及び面談実施期間

| 区 分          | 申告基準日    | 面談実施期間 |
|--------------|----------|--------|
| 年度当初申告（目標設定） | 5 月 1 日  | 5 月    |
| 中間自己評価（進捗度）  | 11 月 1 日 | 11 月   |
| 最終自己評価（達成度）  | 3 月 1 日  |        |

## 4. 申告基準

## (1) 中間申告

| 評 価 | 基 準          |
|-----|--------------|
| 5   | 100%         |
| 4   | 80%以上 100%未満 |
| 3   | 60%以上 80%未満  |
| 2   | 40%以上 60%未満  |
| 1   | 40%未満        |

## (2) 最終申告

| 評 価 | 基 準                      |
|-----|--------------------------|
| 5   | 目標を超えた顕著な実績があった。         |
| 4   | 目標を上回って達成した。             |
| 3   | ほぼ目標どおり達成した。             |
| 2   | 目標を下回った。                 |
| 1   | 目標を大幅に下回り、ほとんどが達成できなかった。 |



### 資料 3

### 授業改善アンケート（講義用）

広島工業大学専門学校

このアンケートは授業担当教員が、授業改善を図り、より良い授業を実現することを目的に実施するものです。

あなたの成績には全く関係ありませんし、個人の不利益になることは絶対にありませんので、授業を改善するために真面目で率直な回答をお願いいたします。

以下のそれぞれの質問に対する授業担当教員の評価について、回答の中から該当する番号を選び  内に記入してください。

授業科目名 \_\_\_\_\_ 授業担当教員名 \_\_\_\_\_

学生番号 \_\_\_\_\_ クラス \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

- |     |                       |                  |
|-----|-----------------------|------------------|
| 回 答 | 1. 全くそう思わない（良くない）     | 4. ややそう思う（良い）    |
|     | 2. あまりそう思わない（あまり良くない） | 5. 強くそう思う（非常に良い） |
|     | 3. どちらともいえない（普通）      |                  |

#### ● 第1分野 授業環境についての質問

- 1) 出欠処理（出席、欠席、遅刻などの判定）に関する判断基準が明確で公平に処理されていると思いますか。
- 2) 教員は、授業開始時間前に教室にきていますか。
- 3) 授業の終業時間がまばらで、授業が早く終ったり、遅くなりすぎることが無いように教員は気をつけていますか。
- 4) 授業開始直後、教材準備や資料配布で時間がとられ、授業がなかなか始まらないことが無いように教員は気をつけていますか。
- 5) 教員は授業環境（机の整頓、ごみの散乱、机上の飲料水等）を良くするように指導していますか。
- 6) この授業は時間割どおりに行われていますか（時間割変更がない）。
- 7) 教員は、学生一人一人のために授業を行ってくれていると思いますか（例えば、学生を君・さん付けの名前で呼んでくれる、授業において一人ひとりに眼を配ってくれる）。
- 8) 教員は、私語や居眠りがあるときは注意をしていますか。

## ●第2分野 授業指導についての質問

- 1)教員は一生懸命に、熱意を持って（学生の理解を助けるための工夫など）授業をしていますか。
- 2)教員は授業の最初に、今日の授業の目標やテーマなどをわかりやすく説明してくれますか。
- 3)教員の説明のしかたは、聞き取りやすく（声が大きく、話す言葉が明瞭）、よく理解することができますか。
- 4)教員は授業中、随時学生に質問を投げかけ、理解度を確認しながら授業を進めていますか。
- 5)教員は、授業の要点をわかりやすく、見やすい字で黒板に書いてくれますか。
- 6)教員は、配布資料・スライド・ビデオ・その他の機器を有効に使って、理解度を高める工夫をした授業をしていますか。
- 7)教員は、授業中に随時、学生の質問に適切に答えてくれますか。
- 8)教員は、演習や小テスト、レポート、宿題を適度に出して、学生の理解度を高める工夫をした授業をしてくれますか。
- 9)教員が授業の中で実物を見せたり、自分の経験や最近の話題などを話して、リアリティーのある授業になっていますか。
- 10)教員は、学生一人一人に対して公平・平等に接してくれますか。
- 11)あなたにとって、この授業の進み具合は適切であると思いますか。
- 12)あなたは、この授業を通して関連分野を含めて、関心や勉学意欲が高まりましたか。

## ●第3分野 授業全体の評価についての質問

- 1)あなたは総合的に見て、この授業に満足していますか。
- 2)この授業の内容（知識・技術）は専門学校レベルとして、あなたの期待に充分応えていますか。

## ●第4分野 この授業と担当教員について意見や要望等があれば書いてください。

〈ご協力ありがとうございました〉

校長  
瀬下 享

## 3テーマを掲げた 学校改革推進プロジェクト

### 平成10年度から取り組みをスタート

熊本電子ビジネス専門学校は、熊本市の中央部に位置しており、情報系とビジネス系の学科からなる、創設20年目を迎えた学校です。近くに姉妹校の熊本デザイン専門学校があり、両校を統括経営する本部と連携を取りながら、学校運営に当たっています。

本校の職員構成は常勤が21名、非常勤はだいたい110名前後です。私が勤務するようになった平成9年頃から、18歳人口の減少に対する危機感が少しずつ出始めていました。また経済不況により就職率も低下しつつありました。

そういう状況の中で、平成10年度、学校組織としての機能を高めて活性化を図り、しっかりした目的意識をもって学校運営や教育指導に当たるために、お手元の資料1のような努力目標を定めました。そして職員の問題意識を高め、それぞれの意向を反映させるために、資料2「本校の現状と課題及びその改善策」という形で、職員に学科をはじめ、カリキュラム、教務規程、学習指導、生活指導、各種試験対策、就職対策等々について、いろいろと意見を書いてもらい、それを努力目標の中に生かすことにしました。

当初この努力目標の中に、5番目の「職員研修の推進」は入れていなかったのですが、新しい学科やカリキュラム、学生の変化、あるいはニーズに応えるためには、教職員の研修は不可欠であるということで、それに対応するために、後から「職員研修の推進」を追加しました。

実は私自身は不勉強で、ごく最近「学校評価システム」を知りました。これを読みますと、「各学校がビジョンに基づき、目標を設定する（PLAN）その目標達成に向けて具体的方策を策定し、実践を行い（DO）そして目標達成状況を自己評価する（CHECK）」となっています。さらに「その評価の客観性を高めるために、必要に応じて外部からの評価を求める。目標や評価結果を公表するとともに、評価結果に基づいて学校経営計画

の改善を図る（ACTION）」と定義されています。

本校の場合は、先進校がやっておられるような学問的、あるいは科学的見地に立った点検評価はやっておりません。学校組織を運営していく上で、あるいは教育指導を行う上で、これだけのことはやらなければならないという、当然のこととして出てきた取り組みです。言うなれば我流の取り組み、点検評価だと思っています。今後きちんとした体系的な点検評価に取り組みたいということから、今日は自分自身を俎上に載せるつもりで、あえてこの場に立ったような次第です。

本校が以前から取り組んできたことを少しばかり発表したいと思います。本校は今言いましたように、他校が実施しているような学校評価委員会を設置するとか、あるいは細かい規程を作って点検評価を行うといったようなことはやっていません。

毎日開いている職員朝会や定例、臨時の各種会議で、お互いに意見を出し合いながら、努力点に関するあらゆる情報を出し合って、共通理解を得ながら、目的達成に努めているという状態です。たとえば入学式や卒業式、文化的行事、体育的行事などの後は、必ず、できるだけその日の内に反省会をもつ。そして反省すべきことがあれば見直していくということをやっています。

それから資料3-1にあるように、毎月本部に月例報告を出します。その際に生徒募集関係や総務関係、教務関係、就職関係等をまとめて報告しています。それらをまとめる中で、これらの目標到達度を見ることが、結果的には自己点検、自己評価をすることになります。外部評価は実施していません。本部による点検・評価はありますが、第三者による評価はまったく実施していません。

外部に対しては、高校に配布する『KCC（熊本コンピュータ&ビジネスカレッジ）ニュース』や高校教師対象の学校説明会で、本校の教育の取り組みや成果について報告しています。高校への挨拶状にも努力目標を明記しています。“今年はこの目標を立てて指導に当たりま

す。よろしくお願いします。”というふうにです。一昨年は県下の高校の進路指導担当の先生方を対象にした専修学校各種学校進路説明会で、専門学校を理解してもらうために、本校の例を挙げながら専門学校の現状について話をしました。後日事務局から感想文のまとめを送ってきましたが、ある程度は理解していただけたものと思っています。

さて、本校は内部組織において、資料4にあるように学校改革推進プロジェクトとして、「学生確保」「就職向上」「教育力向上」という3つの推進委員会を設置しています。全職員がいずれかのチームに所属して定期的にミーティングや活動を行い、活動内容や経過をチェックしながら目標の実現に努めています。そして年度末には総括し、次年度の活動計画を立てます。先ほど言いましたように、月末に広報、総務、教務、就職の部署でデータをまとめながら、状況の把握・分析を行い反省をする。そして必要に応じて即対応策を講じています。実は、来年度はこの機構を改革して、現在2本立てになっている推進委員会と校務分掌を一本化し、教務、広報、就職指導、事務の4部にまとめることにしています。

### もっとも大切なのはPRに値する教育内容

それではただ今からレジュメに従いまして、目標達成のための具体的な取り組みについて説明します。資料1をご覧ください。「1.学生の確保」ですが、実は通常これは外部には公表していません。厳密に言えば他の目標と同じように並列する目標ではないと思っています。ですから外部に対してはこの部分は公表から外しています。

いよいよ大学全入時代に入りますが、文部科学省の統計によると、2006年度は18歳人口が134万人、2007年度が129万人。その時の大学と短大の入学定員が合わせて64万人だそうです。そして18歳人口が高等教育機関に進学する進学率を50%と推計してありますが、それで行くとほとんど全員が大学・短大の定員内に入ってしまう。そういうことで全入とみているようです。

いずれにしても、そうなると学生の確保は大変困難になってきます。高校や保護者の専門学校に対する認識は、大学等に比べるとまだまだずっと低いんですね。そ

う状況の中で学生を確保するには、徹底したPR活動をするに尽きると思います。PRの方法としては、どこの学校でも実施していることですが、本校の例をあげると、まずaの学校説明会を年間20回程度実施しています。bの入試対策説明会は、作文の書き方や面接の受け方を指導する説明会です。それからcの各種進学ガイダンスへの参加。またdの学校訪問については、最近では単なる学校紹介ではなくて、授業形式の講座を依頼されることが多くなってきました。特にビジネスマナーの指導などを依頼されます。それから先に述べましたeの『KCCニュース』の発行。回数は決めていませんが、検定試験やコンテストの結果、あるいは行事等の様子を掲載して高校に配布しています。そしてfのホームページの充実。最近ではインターネットでのアクセスや資料請求が急増していますので、ホームページの充実を図ることにしています。こういった取り組みを行っていますが、特に資料請求と学校説明会参加状況の細かいデータを取り、分析して、出願者数の数値目標を掲げて、その達成に努めています。

学生を確保するにはPRが必要なのですが、もっとも大切なのはPRに値するだけの教育内容であるか、あるいは教育効果をあげているかです。そこが問われると思います。そのために「2.退学防止」「3.資格取得の推進」「4.就職率の向上」、すなわち入学から卒業までを中心に、6つの項目を努力点として掲げ、自己点検・自己評価をしながら、その実現に取り組んでいます。

### カウンセリングの充実と学力低下のフォロー

「2.退学防止」ですが、夢を持って高い授業料を払って入学した学生に、企業の即戦力となるためのいろいろな付加価値をつけて社会に送り出すというのが、専門学校の大きな役割だと思います。まず受け入れた学生の実態を把握してその後の指導に資するために、入学後のオリエンテーションの際に、資料5にある入学動機調査を毎年実施しています。

本校に入学する学生の7割強が、第一希望で本校に入学してきます。しかしながら、入学学科とのミスマッチや家庭の経済状態の悪化、あるいは在学中の就職決定に

よる進路変更、病気等でやむを得ず退学する学生もいます。一方、目的意識が薄く、とりあえず専門学校に進学し、途中で意欲が薄れ挫折して、出席時数不足により進級、卒業ができない学生も出ています。もし退学が学校や教師に起因するものであれば、これは当然教える側の責任ですから、常に退学の理由と指導経過をチェックしています。

専門学校の出席規程というのは、高校に比べると厳しいと言えます。高校ではだいたい欠課率が3分の1を超えると原則として単位を認めないことになっていると思います。他校のことは分かりませんが、本校では現在、5分の1を超えると不合格。つまり20%を超えると単位が認定されないという状況です。これは少し厳しいのではないかと思うのですが、社会に出て企業の即戦力となって働くためには、しっかりした生活習慣をつけることが必要だということから、出席規程はそのままにして、とにかく退学者をできるだけ出さないために、次のようなことに重点を置いて指導を行っています。

まず基本的な生活習慣の確立。高校を卒業して入学して来る学生ですから、学生の自主性に任せて責任は学生に取らせたらどうかという意見もあります。しかしながら放任するわけにはいきません。かつて新聞に「大学1年生は高校4年生である」「大学でも校門指導をしているところがある」という記事が載っていました。本校でも基本的な生活習慣が身につけていないと、生活指導が必要な学生が増えているのも事実です。とくにアルバイトの過剰が遅刻や欠課、欠席につながる。そして進級や卒業に影響する学生がいます。アルバイトというのは、学費や生活費を得るために、あるいは社会性を身につけるためにという目的で、届出制を取って認めていますが、とくに深夜に及ぶアルバイトは自粛するように、保護者にも協力を依頼しています。学生ができるだけ規則正しい生活をするように指導していますが、厳しい経済状況の中で、なかなか思うようにいかない面もあります。

学習面・生活面で問題のある学生には、高校と同じように教務部長指導、保護者を呼んで校長による指導を行っています。また長期休業期間中を利用して、本人・保護者・担任の三者面談を実施する場合もあります。とに

かく1人ひとりの学生をみながら、規律ある生活習慣を身につけさせる指導を心掛けています。

また1年生に対しては、資料6「自己実現のためのアンケート」を書かせています。学生1人ひとりが目的意識をもって充実した学生生活を送り、意欲を向上させるのが狙いです。将来の目標は何か、目標達成のためにいま何をやらなければならないか、現在どんな努力をしているか、生活や学習状態はどうか等について見つめさせています。夏休みが終わった時点で第1回目を実施し、冬休みが終わったところで第2回目を記入させ、提出させます。このアンケートはすべて校長が目を通し、項目ごとにアドバイスや激励のコメントをつけて返却していません。普段学生に接することが少ない校長にとっては、学生の実態を直接知ることこのアンケートの目的の1つとなっています。現在2回目の回答にコメントやアドバイスを記入しているところです。

退学防止の2番目に、カウンセリングの充実をあげていますが、多様な学生が入学して来ますので、1人ひとりの学生を把握、理解する必要があります。中には高校時代に不登校だった学生もいます。昨年度はコーチングの指導者を招いて、職員研修を実施しました。コーチングは学生の意欲を喚起するための一指導法だと思います。在学2年間という短期間の中でコーチングを活用することはなかなか困難な点もありますが、指導法の1つとして生かすように努めています。あとはできるだけ教師が学生の中に入って、学生と意思の疎通を図ることが一番だと思っています。

退学防止の3番目として、基礎学力の充実をあげていますが、本校の学生はほとんど全入の状態です。中には、教科書がよく読めない、簡単な算数・数学の問題が解けないといった基礎学力の低下が目立って、授業についていけない学生もいます。授業がよく理解できずに学習意欲も低下して、退学する恐れもあります。また基礎学力の低下は就職にも影響します。大学でも今は補習授業等をやって基礎学力の充実を図っていると聞いています。

本校でもそのような問題を少しでも解消するために、授業理解と就職対策を兼ねて、基礎学力養成のための問



題集を作成しています。内容は国語と算数・数学です。国語は小学校4年生から高校2年生程度までの漢字の読み書き、四字熟語、ことわざ等。漢字検定でいうと7級から2級レベルだそうです。数学は小学校4年生から中学生のレベルです。この問題集を入学2ヶ月前に配布し、予習をさせ、入学後基礎学力検査を実施して、基礎学力の定着状態を見ています。小学校レベルだと少々易しすぎるのではないかと思われるかもしれませんが、現役の東大生に小学校の算数の問題を解かせたら、必ずしも満点を取らなかったという話もあります。小学校の時は当然できたのかもしれませんが、もう忘れてしまっている。そういう実態がありますので、基礎学力を確認・定着させるための課題です。

昨年度まで3年間やってみましたが、基礎学力検査の結果は、国語、数学ともに100点満点で、平均点が72点くらい。昨年は2科目の平均点の合計が145点でした。たまたま国立大学の法学部を卒業して入学した学生がいたのですが、その学生は予習の時間があまりなかったせいもあるかも知れませんが、161点でした。161点というのは全体の中で上位3分の1より少し下の方です。それを考えると全体として学生たちが意欲的によく努力して予習をしているという印象を持ちました。事前に課題を出さずに試験をすれば、おそらく平均点は4割を切るだろうと思っています。このような取り組みをして少しではありますが、基礎学力の充実を図っています。

今まで話したようなことが、退学防止にどれくらい効果があったか。これは他と比較はできませんが、本校では退学率の目標は5%以内としており、昨年度は何とか5%以内に収まりました。今年度は入学者がかなり増えたのですが、ミスマッチによる退学者も増えて、目標ギリギリになっています。退学状況は資料7のように月別にまとめて分析をして、それぞれの状況を表にして把握し防止に努めています。

### 指導力向上の工夫と授業改善アンケート

「3. 資格取得の推進」ですが、多くの専門学校では、資格取得や技術の習得が教育目標の1つだと思います。学生は将来の目標を達成するために、まず資格取得や検

定合格を身近な目標とし、その達成に努める。それが定期的に行われる。本校の場合は、学科による違いはありますが、2年間で情報系で6種類前後、ビジネス系で10種類前後の検定・資格を取得します。従って平均すると、2、3ヶ月に1回は検定試験を受けることとなります。不合格の場合は再度受験するため、さらに回数が増えます。現在の2年生でもっとも多い学生は、16種類の検定に合格しています。遊んでいては、簡単には合格できません。また資格取得は、学生の実力の証明でありませんが、それだけではなく、毎日の努力が学生生活を充実させることとなります。毎年成績は過去と比較分析しながら、合格率の向上に努めています。そして資格取得や検定試験の結果は、すべて全職員に回覧して知らせています。

資格試験等の少ないクリエイター系の学科は、コンテスト等への出品を勧めています。昨年はNTTドコモ九州主催の「学生iアプリコンテスト」、これは携帯電話で楽しむゲーム作品のコンテストですが、本校の1年生の作品が、九州内の専門学校・大学・大学院生を押さえて、見事にグランプリを獲得しました。その他、CGコンテストでもかなりよい成績を取っており、よくがんばっていると思っています。

いずれにしても資格取得、技術向上のためには学力が必要です。この学力は専門的知識や技術を意味しますが、それを向上させなければなりません。そういうことで1番目に学力の向上をあげていますが、本校の情報系の国家検定試験の合格状況をみると、10数年前に比べ数的にはかなり減少しています。指導者は以前と変わりませんので、減少の主な理由は、1つは入学してくる学生の学力低下であり、もう1つは試験のレベルがかなり上がってきたという話を聞いています。この2つの理由によるようです。学生間の学力差も大きく、学力の高い学生もいますが、大半の学生は授業だけでは目標の達成は難しい。基礎学力の充実に加えて、放課後や長期休業期間中を利用して、課外授業や補習授業を実施し備えています。その結果、情報処理の国家試験に関しては、県内データをみると、大学生にそう劣らない合格率を残していますが、人数的には満足できる結果ではありません。

ん。指導法を工夫改善し、さらに学力を向上させる必要があります。

なお、資料1「3.資格取得の推進」の指導力の向上は、指導法の工夫改善に含まれますので、両方を合わせて「指導法の工夫改善による指導力の向上」と考えてください。専門学校の場合、授業の成果は資格取得や検定合格の状況等にすぐに反映されます。この先生はなかなか授業が上手いとか、指導に優れているというのは、検定の結果を見れば分かります。学生に努力させることも大切ですが、教師の指導力が大きく影響します。授業効果をあげるための指導法の工夫・改善は、教師の責務だと思います。教師の指導力の向上、授業の工夫・改善のために、多くの学校で行われていると思いますが、本校でも学生による授業評価を2種類実施しています。

まず1つは資料8「カリキュラム・授業に関するアンケート」です。学生が各科目の授業にどのような感想を持っているか、何を望んでいるかを把握するために、このアンケートを毎年12月に実施しています。授業に関してどんなことでもいいから、忌憚のない意見・感想を無記名で書いてもらう。学生の率直な意見が聞けます。これは指導者全員に、そのまま回覧して読んでもらいます。だから他の教師に対する学生の評価もわかります。

もう1つは資料9「授業改善アンケート」です。これは科目別に記名し、まず学生自身が授業への取り組みを自己点検する。次に教師の指導を評価する。なかなかよいアンケートだと思っています。日頃ベストを尽くして授業をしている教師ほど、自己評価が難しい面もあります。そこで学生に聞いてみる。すると案外自分で気づかなかったことに対して、ポイントを突いた指摘もあるものです。実は、本校ではこのアンケートを昨年から導入したので、現在のところ結果は公表せず、授業担当者だけが見ることにしていますが、将来は少し取り扱いを変えたいと思っています。多様な学生による評価ですから、評価はさまざまです。ただ複数の学生の共通の指摘、特に低い評価には謙虚に目を向けて、改善する必要があると思っています。

## 開校当初からの企業実習の伝統を生かす

次に「4.就職率の向上」をあげていますが、その最初を職業意識の高揚としています。主として職業教育の場である専門学校では、学生の興味・関心、あるいは能力・適性に応じた職業に就かせるということが求められています。しかし、専門学校に入学しながら、明確な目標ももたず、職業意識が希薄な学生も増えています。すべての学生に夢を持たせて、職業意識の高揚を図ることが急務であり、本校ではまず1年次に2回ほど、全体就職講演会を実施しています。さらに今年度からは学科別、業種別就職講演会を実施することにしました。たとえばシステム開発会社、ゲーム会社、ネットワーク会社の社長、あるいは一般事務、経理事務担当者を講師に招き、仕事の面白さや厳しさなど、生の声を聞かせることにしました。これは学生に大変好評のようです。それから受験前の模擬面接のほか、1年次には全職員が分担して全学生を対象に模擬面接を実施し、意識を高めています。

2番目には就職活動の推進をあげていますが、今述べたような取り組みにもかかわらず、なかなか動こうとしない学生がいます。彼らをいかに積極的に動かすかが問題であり、苦労もしています。今年度も年度当初は学生の動きが鈍く、心配していましたが、就職部や就職委員会の積極的な取り組みにより、昨年の秋頃からかなり活発に活動するようになって、内定率も急に伸びてきました。

3番目に職場開拓の推進とあります。これは地方の問題にもなるのですが、本校の場合、学生の就職希望地は県内が圧倒的に多くなります。しかしながら県内の求人は、現在のところ全体の29%程度しかありません。大変厳しいです。関東地区からは41%あります。県外の求人の占める割合がかなり高い。ですから県内企業の開拓に努めると同時に、希望職種に就職させるために学生の意識を変えて、関東、関西方面にも積極的に出て行くように仕向けてはいますが、少子化の中でなかなか厳しい面もあります。

そして4番目に企業実習の取り組みをあげています。本校では開校当初から、ビジネス系の学生は1年生の2月に3週間ほど全員企業実習に行くことにしています。

企業実習先は学校が見つけてあげるのではなく、学生が自分で開拓する。自分が実習したい企業や病院等にコンタクトを取って、了解を得れば実習をする。中には何社もコンタクトを取って、苦労して実習先を決める学生もいます。最初は電話で交渉しますが、その電話で交渉すること自体が、学生にとっては大変よい勉強になります。そして実習に行き、実習が終わったら、報告会を持ちます。報告会では、だいたい1人3分くらいで自分の実習体験を原稿なしで発表します。日頃人前で発表することに慣れていない学生にとっては、きついことかもしれませんが、すべてが貴重な体験になっています。それぞれの発表は教員とそれを聴く学生全員で評価します。

情報系については、国家試験対策等のためにこれまでは企業実習は実施していませんでした。しかし昨年夏、2年生の夏休み期間中に、就職未決定者対象として、希望者に実施することにしました。就職の内定状況は個人、学科別、クラス別、全体に関して、すべて全職員がイントラネットでリアルタイムで知ることができるようにしています。そして過去の同期と比較できるようなデータも提供しています。数値目標は100%を掲げているのですが、現実にはそこまではいかず、だいたい90%以上を目指しています。ただ学科によって差があり、12月現在で9割を越えている学科もあれば、まだ7割程度の学科もあります。しかし以前とは異なり、最近は通年採用の企業が多くなってきたので、卒業後もできるだけフォローを行い、就職率の向上を図っています。

### 各教員が指導の成果を自己申告

次に「5. 職員研修の推進」。これは先ほど言いました、教育力向上委員会が中心となって企画し実施していますが、まず最初にあげたのが、新カリキュラムへの対応のための研修です。専門学校の特徴の1つは、大学や短大に比較して非常に弾力的なカリキュラムの編成ができることだと思っています。時代や社会のニーズに合わせて、学科やコースの新設、あるいは履修科目の変更が比較的容易です。しかしながら新しい科目を担当する教師にとっては大変なことで、勉強しなければなりません。今年はおラクルや販売士など、新しく担当する科目に備え

て、それぞれが研修を積んで、知識や技術を習得して資格を取っています。

2番目に、新高校教育課程への対応のための研修。来年度の入学生から、高校で必修科目「情報」を履修した生徒が入学してきます。これまではまったくパソコンに触れたことのない学生もいたのですが、来年度からはパソコン操作、パソコンの基礎・基本を身につけた学生が入学して来ますので、パソコンの基礎・基本については、従来ほど時間をかけずに復習的な学習にして、レベルアップを図ることにしました。そのためにまず県下の高校にアンケートを取り、どんな科目をどの程度学習しているかを調査しました。情報Aはもちろんですが、情報Bや情報Cの履修も見られます。また学校差もあって、中には十分な学習ができないままで、入学してくる学生もいるようですので、入学前に2日間ほど、希望者に対し補習授業の形で「新入生パソコン講座」を開設することにしています。そして基礎・基本を習得させることにしています。これは今年が初めてです。

それから3番目に指導力の向上をあげていますが、これは先ほども言いましたが、指導力を向上させるためには、学生による授業評価だけではなく、教師の自己点検によって問題点を把握し、改善に向けて自己研修をすることが一番大事なことだと思っています。研究授業等によって、指導力の向上が考えられますが、まだ本校の場合はそこまでいっていません。今後の研究・検討課題です。

4番目に自己申告書と書いていますが、これは資料10「自己申告書」をご覧ください。教師自身がどのような教育理念をもって教育指導に当たっているか、自分の教育指導がどのような成果をあげているか、努力目標に照らし合わせながら、立ち止まって見つめてみる。つまり自己点検・自己評価が大切であり、今年度からこの自己申告をやっています。自己申告書の中の2と4をご覧ください。2は「教育理念」として、「専門学校の教育はどうあるべきだと思うか。またどういう人材を育てたいと考えるか」ということで、いろいろ書いてもらいます。それを受けて4に「自分としてどのような指導方針で、どのような指導に心がけているか。その成果はどう

か。担任学科の過去2年間の就職内定率・状況、中途退学率・状況、担当科目の資格取得状況や最近のコンテスト入賞状況等を具体的に記入。つまり自分自身を努力目標に照らし合わせて、もう一度見つめてみるということで、自己申告書を出してもらっています。これは校長、経営者が職員をいろんな面から知る上での参考資料にしています。

それから5番目は、個人情報保護法対策です。ご承知のとおり今年から施行されましたので、昨年からのためのいろいろな研修会を持ちました。常に個人情報保護を念頭に入れて仕事をしなければなりません。学校の場合は、学生の個人情報を非常にたくさん所有していますから、その取り扱いには大変気を遣っています。これまでは学校のPRのために、就職先企業名や検定試験結果等を学生の意向も聞かずに氏名なども積極的に公表していましたが、今年からは必要に応じ、学生の承諾を得ながら、公表・非公表を判断しています。

その他、研修委員会では、全職員を対象としたホームページ作成の研修や、フォトショップ、ビジネス文書作成など、校内研修も企画実施しています。

### 教育活動は目標達成のための努力

最後に「6. 対外講座の推進」とあります。これは地域社会への貢献と本校のPRを兼ねて、学外での講座に講師を派遣していますが、これまで地元の公立大学、私立大学、あるいは企業等へも派遣してきました。文部科学省の提唱する、土曜日・夏休み専修学校体験学習も実施しました。また委託訓練事業も引き受けました。高校生対象の講座はずっと続けています。これは夏休みや春休み期間を中心に実施される、専門高校での、特に情報処理の国家試験対策講座の講師です。シスアドや基本情報技術者試験の講座の講師として、高校に出向いて指導しています。最近は就職試験対策として、先にも述べましたが、ビジネスマナー指導の依頼が増えています。今後高校への出前授業等ができればと思っています。

またここには出していませんが、中学校での企業体験を実施している学校も多くあり、そういった学校から要請を受け、中学校に出向いて、挨拶の仕方など、ビジネ

スというほどではありませんが、礼儀作法を事前に指導しています。

それから高校教師対象の講座は、最近希望者が少なくなっており、今年は予定はしたものの実施にはいたりませんでした。

社会人対象の講座も、かつては委託訓練事業や夜間訓練等々も実施しましたが、現在は実施していません。ただ企業からのビジネスマナーなどの要請があれば、積極的に出かけて行って指導しています。

また将来のことを考え、デュアルシステムの説明会にはかならず出席をし、将来、導入の機会も考慮して、説明会には必ず出席をしています。

以上、本校の努力目標達成に向けて、具体的な取り組みとその結果について説明しましたが、このような事項を年度末に総点検・評価をして、来年度につないでいます。最初に言いましたとおり、外部点検・評価のあり方など、まだいろいろな問題を残しており、整理しなければなりません。また本部からは、産学共同や大学との連携などについても検討するように、課題をもらっています。生涯学習の観点に立った学校経営も視野に入れる必要があると思っています。

最後になりましたが、少子化等により、学校と名のつくところはすべて学生の確保という深刻な課題を背負うこととなりますが、特に専門学校はもっとも厳しい現実に直面するような気がしています。この危機的な状況を乗り切るためには、専門学校がもつメリット・魅力を高校生や保護者、高校教師、一般の人々にどのようにして訴え、惹きつけるか。そして専門学校に対する認識をいかに深めさせるか。そのためには私たちがどのような教育指導をしなければならないか。「教育活動とは目標達成のための努力である」といった人がいますが、とにかく取り組まねばならない課題はたくさんあります。自己点検・自己評価を行って改善に努めるとともに、お互いに情報を交換しながら、よりよい方向を見つけることができれば、と思っています。いろいろとご指導をお願いしたいと思います。

以上で自己点検・自己評価についての発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(資料1)

## 平成17年度努力目標

熊本電子ビジネス専門学校

## 1 学生の確保

- ① PR活動の徹底
  - a 学校説明会
  - b 入試対策説明会
  - c 各種進学ガイダンス参加
  - d 学校訪問
  - e KCCニュースの発行
  - f HPの充実

## 2 退学防止

- ① 基本的生活習慣の確立
- ② カウンセリングの充実
- ③ 基礎学力の充実

## 3 資格取得の推進

- ① 学力の向上
- ② 指導法の工夫改善
- ③ 指導力の向上  
(学生による評価)

## 4 就職率の向上

- ① 職業意識の高揚
- ② 就職活動の推進
- ③ 職場開拓の推進
- ④ 企業実習の取組み

## 5 職員研修の推進

- ① 新カリキュラムへの対応
- ② 高校新教育課程への対応
- ③ 指導力の向上
- ④ 自己申告書
- ⑤ 個人情報保護法対策

## 6 対外講座の推進

- ① 高校生対象
- ② 高校教師対象
- ③ 社会人対象

(資料2)

## 本校の現状と課題及びその改善策

| 項目        | 現状と課題 | 改善策 |
|-----------|-------|-----|
| 学科        |       |     |
| カリキュラム    |       |     |
| 教務規程      |       |     |
| 学習指導      |       |     |
| 生活指導(担任制) |       |     |
| 各種試験対策    |       |     |
| 就職対策      |       |     |
| 卒業研究      |       |     |
| 施設設備      |       |     |
| 対外講座      |       |     |
| 事務局       |       |     |
| その他       |       |     |

(資料3-1)

## 月例報告(平成17年 月 度)

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 生徒募集関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 資料請求状況</li> <li>② 学校説明会等参加状況</li> <li>③ 出願状況</li> </ul> <p>(2) 総務関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学費納入状況</li> <li>② 施設設備</li> <li>③ 人事関係</li> </ul> <p>(3) 教務関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生異動状況</li> <li>② 資格検定取得状況</li> <li>③ 指導状況</li> </ul> | <p>(4) 就職関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 求人数</li> <li>② 内定者数・内定率</li> <li>③ 受験状況・受験結果</li> <li>④ 内定者・内定企業等一覧</li> <li>⑤ 求人・就職活動等報告</li> </ul> <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 月間行事予定</li> </ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

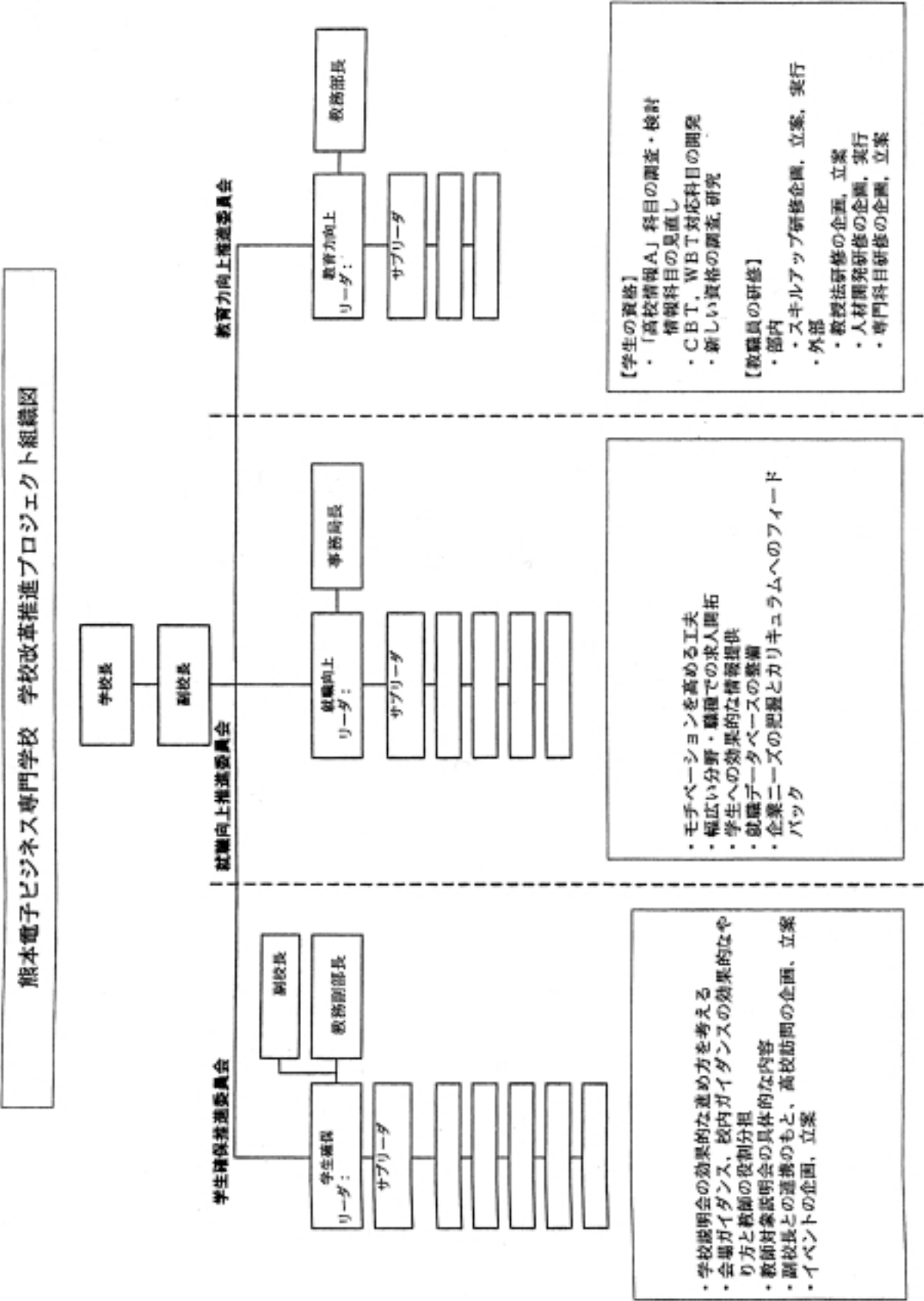
熊本県専修学校各種学校進路説明会より

(資料3-2)

◎ 講師による講演はいかがでしたか。感想をお書きください。

・職業意識の低下でなく、変化という説明はなるほどと思った。・大学、短大等と同様に1つの選択肢として専門学校について考える生徒は増えつつある。・専門学校を知る上でとても参考になった。・専門学校の教育全般について具体的に例を交えての説明でよくわかった。・現在の学生の学習態度、生活の様子、学校の指導等、工夫の様子もよく分かった。・教育に対する熱意が伝わってきた。・データ等を示しながら、経験を通してのお考えを話していただき分かり易く有意義であった。・個別の学校の情報について望むのは難しいと思うが、もう少し具体的な内容も多くあれば良かった。・職員、生徒に伝えたい情報が具体的に分かり易く盛り込まれており、参考になった。・要点が明確で良かった。・現状の変化を学ぶのに良い機会。・専門学校に対する認識が深まり大変有意義だった。・説明が分かり易かった。・専門学校の教育の話で、学力向上対策や授業改善については、良い話を聞かせて頂いた。・先輩教師としての経験と感想が聞けてよかった。・専門学校の現状について非常に参考になった。本校でも専門学校への進学者が増えているので、認識を深めて、進路指導をしっかり行う必要があると思った。貴重な話だった。・高校と専修学校両方の立場からのお話は分かり易かった。・職業意識の高い生徒を中心に専門学校進学を勧めたい。・今後の進路指導の参考になった。

(資料4)





入学動機調査 \_\_\_\_\_ 科 (男・女) (H17. 4. 18)

該当する項目の番号を○で囲んでください。(無回答のないようにしてください。重複回答可)

(1)貴方の第一志望分野は次のどれでしたか。

1. 本校第一志望 2. 本校以外の専門学校 (県内・県外) 3. 大学 (県内・県外)  
4. 短大 (県内・県外) 5. その他の進学 (県内・県外) 6. 就職 (県内・県外)

(2)上記1以外に○をつけた方で、本校に入学した理由は、

1. 親が反対した 2. 不合格となった 3. 経済的理由 4. その他 ( )

(3)貴方は専門学校を選択するにあたり、パンフレットを何枚分、取り寄せましたか。

県内 \_\_\_\_\_ 校 県外 \_\_\_\_\_ 校

何系統の専門学校でしたか。

1. コンピュータ 2. ゲーム 3. 経理 4. 秘書 5. デザイン 6. 医療  
7. 看護 8. 観光ホテル 9. 語学 10. 福祉 11. その他 ( )

(4)それらのパンフレットはどのような方法で入手しましたか。

1. 高校の連絡室にあった 2. ハガキで資料請求した  
3. 知人からもらった 4. 進学相談会でもらった  
5. 電話で直接請求した 6. その専門学校に行ってもらった  
7. インターネット (HP) 8. その他 ( )

(5)本校を何で知りましたか。

1. 新聞 2. 高校連絡室の資料 3. 進学情報誌 4. パンフレット 5. ポスター  
6. 本校からの郵便物 7. テレビ 8. 友人・知人の紹介 9. 担任・進路の先生  
10. 家族・親戚の紹介 11. インターネット (HP) 12. その他 ( )

(6)学校説明会を何で知りましたか。(学校説明会に参加した人)

1. 新聞 2. 高校連絡室の資料 3. 進学情報誌 4. パンフレット 5. ポスター  
6. 本校からの郵便物 7. テレビ 8. 友人・知人の紹介 9. 担任・進路の先生  
10. 家族・親戚の紹介 11. インターネット (HP) 12. その他 ( )

(7)本校受験を決めたのはいつ頃ですか。

1. 高校1年 2. 高校2年 3. 高校3年 (1. 学期・夏休み・9月・10月・11月・12月以降)

(8)貴方は何に重点をおいて本校を選択しましたか。A群B群別々に書えてください。

(決定要因)

《A群》 ア. 教育方針 イ. 施設・設備 ウ所在地・交通の便 エ. 講師陣オ. 学費  
カ. 学校の雰囲気 キ. 取得資格 ク. 学びたい学科(コース)がある

ケ. 授業内容 コ. 就職状況

《B群》 ア. このまま社会に出るのが不安だから イ. 他に適当なところがないかった

ウ. 学生生活を楽してみたい

エ. 県外出を反対された

オ. 知名度がある カ. 地元で学びたかったキ. より高い学習が欲しかった

ク. 教養や視野を広めたかった ケ. 親の勧めが強かった

(資料5)

決定要因別に A群 1. \_\_\_\_\_ 2. \_\_\_\_\_ 3. \_\_\_\_\_ 4. \_\_\_\_\_ 5. \_\_\_\_\_  
B群 1. \_\_\_\_\_ 2. \_\_\_\_\_ 3. \_\_\_\_\_ 4. \_\_\_\_\_ 5. \_\_\_\_\_

その他決定要因があれば ( )

(9)どのような理由で現在の学科を選びましたか。

1. 必要な資格が取得できる 2. 実社会で必要な技術が身に付く  
3. 自分の適性能力を考えて 4. 希望する職業につきたい(就職に有利と考えた)  
5. その他 ( )

(10)貴方が本校を選んだ理由は何か。

1. 自分の判断 2. 家族の勧め 3. 友人の勧め 4. 知人・親類の勧め  
5. 先輩の勧め 6. 高校のクラス担任の勧め 7. 進路指導の先生の勧め  
(11)貴方が見た本校の広告に○. その中で一番印象に残っているものに○をつけてください。

1. テレビコマmercial 2. 新聞 3. 雑誌 4. ポスター 5. パンフレット  
6. その他 ( )  
(12)本校のイメージを一言で書えば、

《以下、これからの学生生活について質問します。》

(13)主な通学手段は次のうちどれですか

1. 徒歩 2. バス・市電 3. JR 4. 自転車 5. 原付  
6. 親・知人の車に便乗 7. その他 ( )

(14)通学時間はどれくらいですか。

1. 30分以内 2. 1時間以内 3. 1時間30分以内  
4. 2時間以内 5. 2時間以上

(15)住まいはどうしていますか。

1. 自宅 2. 自宅以外のアパート 3. 下宿 4. 知人・親類の家  
5. 学生会館 6. その他 ( )

(16)家賃はいくらですか(※) [(15)で2か3からと答えた人のみ]

- 限取( ) 量) ア. キッチン・バス・トイレ付き イ. 共用

(17)普通自動車運転免許は取得していますか。

1. はい 2. いいえ 3. 現在自動車学校に通っている  
(18)アルバイトをしていますか。

1. している 2. する予定である 3. しない

《以下、パソコン所有状況について質問します。》

(19)あなたの家にパソコンはありますか？

1. ある (ノート型) 台) デスク型 ( ) 台) 2. ない  
(20)それは誰のパソコンで、何に使用するかも記入してください。[(17)で1と答えた人のみ]

1. 自分専用 2. 家族共用 3. その他 ( )  
使用目的 ( ) 以上

(資料6)

## 平成17年度自己実現のためのアンケート

学科( ) ( ) 号 氏名( )

本校入学後のことについて、下記の項目について書いてください。

|                                            | 第1回( 月 日) | 第2回( 月 日) | 第3回( 月 日) |
|--------------------------------------------|-----------|-----------|-----------|
| あなたの将来の目標は何ですか。                            |           |           |           |
| 将来の目標を実現するために何をすべきですか。                     |           |           |           |
| 将来の目標を達成するために今どんな努力をしていますか。                |           |           |           |
| 現在の生活態度はどうですか。改善すべきことがありますか。あれば具体的にどうしますか。 |           |           |           |
| 授業への取組みはどうですか。改善すべきことがありますか。あれば具体的にどうしますか。 |           |           |           |
| 授業の理解度はどうですか。難しい科目は何ですか。あれば科目名を書いてください。    |           |           |           |

(資料7)

退学者数一覧実数 平成 年度

| クラス別 | 担任 | 入学者数 | 退学者数 |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    | 計 | 休学者 | 退学者率% | 在籍者数 | 備考<br>(退学者籍名を理由とともに記載) |
|------|----|------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---|-----|-------|------|------------------------|
|      |    |      | 4月   | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
| 小計   |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |

| クラス別 | 担任 | 退学者数 | 退学者数 |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    | 計 | 休学者 | 退学者率% | 在籍者数 | 備考<br>(退学者籍名を理由とともに記載) |
|------|----|------|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---|-----|-------|------|------------------------|
|      |    |      | 4月   | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
|      |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
| 小計   |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |
| 総計   |    |      |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |     |       |      |                        |

(資料8)

カリキュラム・授業に関するアンケート (学科名)

次年度のカリキュラム作成の参考にしますので、今年学習した科目について、意見や感想を記入してください。

| 科目名             | 担当者 | 意見 ・ 感想 |
|-----------------|-----|---------|
| 文章表現            | A   |         |
| 一般教養            | B   |         |
| 医療事務            | C   |         |
| 工業簿記            | D   |         |
| 簿記演習            | E   |         |
| 給与計算            | F   |         |
| ビジネスケース<br>スタディ | G   |         |
|                 |     |         |
|                 |     |         |
|                 |     |         |

## (資料9)

( )科 No( ) 氏名( )  
**授業改善アンケート** 実施期日(平成 年 月 日)

科目名( ) 担当教員( )

このアンケートの目的は、「分かる授業」「役に立つ授業」を行うための資料にするものです。これによってあなたの成績評価に影響することはありません。まず、自分自身について「自己点検」し、授業についても率直な意見を述べてください。

**授業についての自己点検** 5-良い 4-少し良い 3-普通 2-少し悪い 1-悪い

1. あなたの出席状況を自己点検してください 5 4 3 2 1  
 (1) 授業を休んだり遅刻したりすることがある (1 よくある 2 たまにある 3 ない)  
 それはなぜですか ( )

2. あなたの授業態度を自己点検してください 5 4 3 2 1  
 (2) 授業に集中できない(寝たりする)ことがある (1 よくある 2 たまにある 3 ない)  
 それはなぜですか ( )

**授業についての自己点検**

(3) この科目の「ねらい」を理解している …… 5 4 3 2 1  
 (4) 毎時間、この授業のポイントが明確である …… 5 4 3 2 1  
 (5) この分野の最新情報を入れた授業を進めている …… 5 4 3 2 1  
 (6) 聞きたい、知りたい興味のもてる授業である …… 5 4 3 2 1  
 (7) この授業のレベルは ( 1 自分にあっている 2 易しすぎる 3 難しすぎる)

**授業の進め方について**

(8) 説明は丁寧で、内容を理解させる工夫が感じられる …… 5 4 3 2 1  
 (9) 先生は熱心で厳しいがこの専門分野の実力がつく …… 5 4 3 2 1  
 (10) 先生の声は大きく、言葉は聞き取りやすい …… 5 4 3 2 1  
 (11) この授業の進め方は適切である …… 5 4 3 2 1  
 (12) 黒板の字は見やすい …… 5 4 3 2 1  
 (13) テキストや配布資料は適切で役に立つ …… 5 4 3 2 1  
 (14) 一人一人を考えて授業を進めている …… 5 4 3 2 1  
 (15) 質問がしやすい雰囲気である …… 5 4 3 2 1  
 (16) 印象に残る授業で、この分野に興味が出てきた …… 5 4 3 2 1  
 (17) この授業は全体的に満足している …… 5 4 3 2 1  
 (18) 公平に全員の学生に対応している …… 5 4 3 2 1  
 (19) 課題の量は適切である …… 5 4 3 2 1  
 (20) 実務について役立つ情報がある …… 5 4 3 2 1  
 (21) 授業の内容は理解できていますか …… 5 4 3 2 1  
 (22) 授業は面白いですか …… 5 4 3 2 1  
 (23) 授業の進め方はどうですか …… 5 4 3 2 1

授業に関してのあなたの具体的な意見や提案を自由に書いてください。

(資料10)

## 自己申告書

⑧

| 職名 | 氏名               | 生年月日                                                                                                                                                                                    | 昭和 年 月 日<br>( 歳) |
|----|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 1  | 校務分掌             | 役職、担任学科、係り、プロジェクト、その他（学校行事や調査統計、教科書係、問題作成、会計事務等）で主務・副務として企画実行していること等について記入、係りが未定の場合は昨年度担当分を記入。（担当業務表参照）                                                                                 |                  |
| 2  | 教育理念             | 専門学校の教育はどうあるべきだと思うか。またどういう人材を育てたいと考えるか。                                                                                                                                                 |                  |
| 3  | 担当科目名            | 本年度担当する科目を全て記入。事務局の場合は担当する仕事を全て記入。                                                                                                                                                      |                  |
| 4  | 指導方針・事務遂行方針とその成果 | 上記の教育理念を受けて、自分としてどのような指導方針で、どのような指導を心がけているか。その成果はどうか。担任学科の過去2年間の就職内定率・状況、中途退学率・状況、担当科目の資格取得状況や最近のコンテスト入賞状況等を具体的に記入。<br>事務局：事務遂行上、特に心がけていることを記入。                                         |                  |
| 5  | 自己研修             | 専門性や指導力を高めるために、或いは学生の学力・実力の向上を図るために、また、新しい科目を教えるために、どのような研究修養に努めているか。その他取り組んでいるものがあれば記入。更に、研鑽のために加入している団体等があれば記入。<br>事務局にあっては、事務の効率化を図るためにどのような方策を講じているか。その他職務に直接関係のないことでも結構です。例えば英会話等。 |                  |
| 6  | 趣味・特技<br>入賞歴等    |                                                                                                                                                                                         |                  |

提出締め切り：5月16日（月）

## (資料11)

## 【資料 6】

文部科学省・山形県主催「平成13年度専修学校教育研究協議会資料」(抜粋)(高校・専修学校・各県教育行政担当者出席)

(高校における専門学校希望者の進路指導と生徒の実態)

- 高校には、専門学校の特徴を明確に把握し、適切な指導を行っている教員は比較的少ない。
- 専修学校の教育内容を比較検討し、目的に合った学校を選ぶために、教員側も学校見学等で情報を確保する必要がある。
- 大学進学と比べて専門学校への進路指導を積極的に勧めている高校は比較的少ない。
- 高校では、専門学校について正確に把握せず、単純に専門学校より4年制大学を勧めているのが現状のようだ。
- 高校では、進路指導部だけでなく学級担任も専門学校のことを正確に理解して進路指導を行なうことが大切である。
- いわゆる進学校での進路指導は、大学入試対策に労力を費やし、専門学校進学希望者への対応は生徒の自主性に任せるところがある。
- 各学校には専門学校担当の専任者を置き、長期的な考え方でデータを蓄積したらよい。就職、大学、短大の次に専門学校の選択という順番があり、専門学校は受け皿的である。
- 高校では専門学校希望者の進路指導が軽視されがちである。 ○専修学校について多方面における正しい認識が必要である。
- 保護者の専門学校についての認識はまだ希薄である。 ○高校では専門学校については積極的に生徒や保護者に情報を提供していない。
- 保護者の中には、生徒が専修学校進学を希望したときに、拒否的反応を示すことがある。
- 専門学校に進学する学生は、大学等を希望する生徒ほど進路に対して意識が高くない。
- 専門学校進学者の中には、就職出来なかった者やモトリアム志向で就職を先に延ばした者も多い。
- 向学心のないまま低学力での進学者が増えていることが危惧される。
- 専門学校に対する認識が甘く、進学しても中途退学や就職できない学生が増えている。
- 就職を希望しているが、希望する職種がなく、専門学校へ進む者が増えている。
- 明確な目的意識を持った学生の中には、大学に進学する力があっても、積極的に専門学校を目指す学生が増加しつつある。
- 職に就く意欲がなく、とりあえず専門学校を選択する。
- あやふやな気持ちで専修学校へ進学しようと考えている場合もよく見受けられ、途中で退学してしまっている。
- 将来の安定した就職先、経済的自立を考え、短大より専門学校を選ぶ学生が増えた。
- 生徒の多くは目標(資格取得などの目的)を持って専修学校へ進学して行く。
- 厳しい就職状況の中で、それを避けるために、とりあえず専修学校へ行く者もいる。
- 専門学校には、専門分野をしっかり学びたいと思っている目的意識の高い生徒がいる反面、入学の易しさから大学の振り止めあるいは勉学意欲の低い生徒達の進路になっている。
- 大学がだめだから専修学校へという選択が多い。これは専修学校在学中や将来において、就職活動にあまり良い影響を与えないのではないか。 ○高校側、生徒にはまだ学歴主義的な認識がまだ根強く残っている。
- 将来への目的意識が高い生徒が専門学校へ進学するようになった。
- 生徒は学歴意識が薄く、専門学校も進路の一つとして積極的に選択する者が増えている。

(入学試験)

- 学科試験のない専門学校は、入学後生徒が十分に勉強についていけるのかどうかの情報が希薄である。専門学校が主体的に学ぶ意欲に欠ける生徒を受け入れることがないよう願っている。
- 書類選考や面接だけで合格させる専修学校が多く、日常生活が怠惰で学習も怠っていないながら進学できる者がいる。
- 一般入試では受験科目を多くしてもらいたい。推薦入試では書類選考だけでなく面接や小論文等を課してもらいたい。
- 基礎学力の試験を必ず行い、面接のみの選考は避けてほしい。 ○試験の実施日や回数あらかじめ高校側に連絡してほしい。
- 入学者選抜の方法が面接や作文のみであったりする学校が多く、生徒の中には専門学校進学を努力しないで入学できる学校と考えている。高校での学習を同形式での選抜方法を工夫してほしい。

(その他)

- 基礎から丁寧な指導をして生徒の力を着実に伸ばしている専門学校がある。
- 専修学校に今一番求められていることは、丁寧な指導と粘り強い指導である。生徒に努力させることができるかどうかが課題だと思う。
- 専門学校でも資格・検定等の合格率及びその困難性、また資格取得と職業との関連性について徹底して教えてほしい。
- 専門学校を卒業すればすぐ関連企業の中で活躍できるという誤解がある。自ら学び続けることにより職業人として完成していくことを専門学校でもっと強調すべきではないか。

委員長

杉山 誠一 (学校法人東海医療学園・理事長)

# 自己点検・評価の取り組みについて

## 平成15年度に委員会を立ち上げ

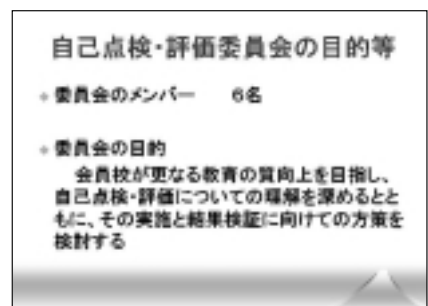
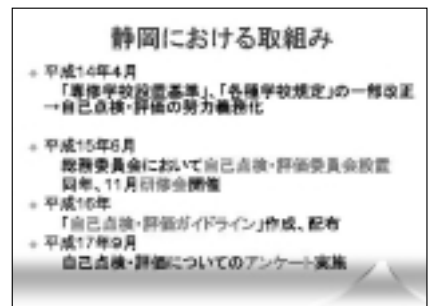
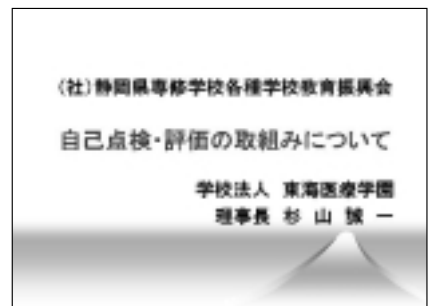
静岡では平成15年から自己点検・評価委員会を設け、自己点検・評価の推進に関する取り組みを行ってきました。今日はその取り組みについてご紹介します。静岡という1つの地域における組織としての取り組み例ですが、少しでも参考になれば幸いです。

まず静岡における取り組みの概要についてです。ご存知のように平成14年に専修学校各種学校において自己点検・評価が努力義務化されました。これを受け、私どもでは翌15年に自己点検・評価委員会を設置しました。そしてその年の11月に自己点検・評価の研修会を開催しました。翌16年に『自己点検・評価ガイドライン』の静岡版を作成し、それを会員校に配布しました。3年目の平成17年には会員校における自己点検・評価の状況把握を目的として、アンケートを実施しました。以上が静岡における取り組みですが、これらについてもう少し詳しくお話しします。

静岡の専各教育振興会は、現在105校の会員校で構成されています。専修学校が84校、各種学校が21校、計105校です。どの都道府県でもこのような組織ができているのではないかと思います。理事会の下に6つの委員会が構成されています。そのうちの1つに総務委員会があります。これは教育振興会の運営に関わる諸事全般を所管する委員会であり、ほとんどが理事の先生方で、約20人で構成されています。その委員会のなかに自己点検・評価委員会を、平成15年に設けました。

自己点検・評価委員会の目的等についてです。委員会のメンバーは6名で、こじんまりとやっています。ほとんどが学校長あるいは副校長、理事長という先生方で、忙しいなか大変積極的に協力していただいています。私としてはあまり大きくなく、このくらいの人数のほうが委員会としては機能的なのではないかと思っています。年間5回くらいの委員会を開催していますが、その委員会に私どもの会長と事務局長が加わり、いろいろと助言、提案をいただいています。会員校すべてが揃って発展していくことをめざし、自己点検・評価の実施率を高める。そのための方策をいろいろと検討することが、この委員会の目的です。

平成15年、最初の取り組みとして、自己点検・評価研修会を開催しました。とにかく自己点検・評価について理解を深めようというのが目的です。このときは2人の講師を招き、ご教示いただきました。



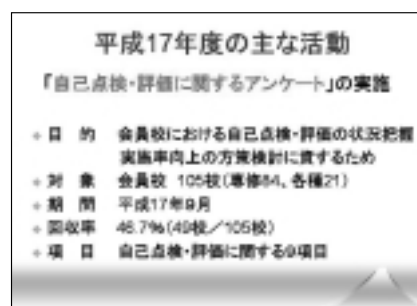
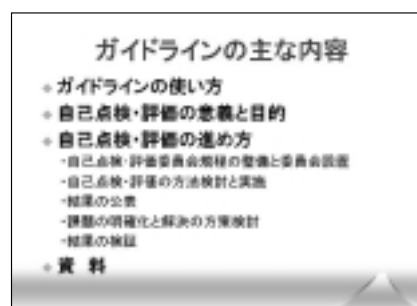
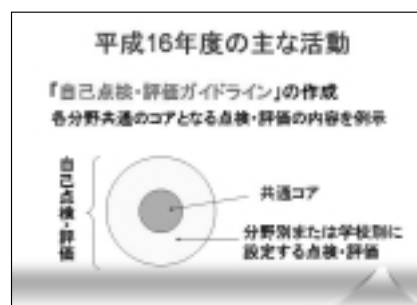
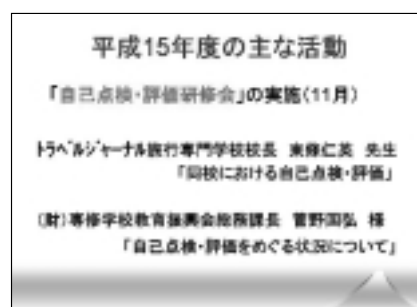


1人は東京のトラベルジャーナル旅行専門学校校長の東條先生で、同校の自己点検・評価についていろいろなお話、とくに授業評価や学生の満足度調査に関するお話をしていただきました。同校においてはそれらの点検・評価の結果をホームページに掲載し公表しているといった、大変有意義なお話でした。もう1人は財団法人専修学校教育振興会から、当時の総務課長の菅野さんにお越しいただきました。菅野さんには自己点検・評価をめぐる状況について、とくに自己点検・評価が努力義務化される経緯やその必要性、専教振で行っている自己点検・評価調査委員会の状況等について詳しくお話いただきました。

翌平成16年の主な活動は、『自己点検・評価ガイドライン』の作成です。これは今日お手元に資料として配布しています。詳しくはそちらをご覧くださいと思います。作成の動機ですが、会員校のなかから「自己点検・評価をやらなければいけないのはわかっているが、どこから手をつければいいのかかわからない」「なにか指針を示してもらえるとありがたい」といった意見があり、それらの要望に応える形でこのガイドラインを作成しました。

当初は、たとえば服飾、福祉、医療といった分野別のガイドラインを作ってはどうかという意見が委員会のなかにはありましたが、結果として、いかなる分野、どのような学校においても、最低限このくらいの自己点検・評価が必要ではないかという項目をいくつか出し合い、そういった項目を各分野共通の点検・評価の内容として絞り、それらを共通のコアとしてこのガイドラインに盛り込みました。したがってこの共通部分をベースとし、さらにそれぞれの分野、それぞれの学校に必要な点検項目を上乗せして、各学校で独自の点検・評価を実施していけばいいのではないかという基本的な考え方のもとに作成したのが、このガイドラインです。

ガイドラインの主な内容ですが、ガイドラインの使い方、ガイドラインの主旨が最初に記載されています。それから自己点検・評価の意義と目的、自己点検・評価というのは、あくまでもそれぞれの学校の課題をまずは自ら発見し、その課題を解決していく、それによって学校の発展につなげていくというのが自己点検・評価の目的であるということ。また自己点検・評価をどうやって進めていくのか。だれが、いつ、なにを、どのように進めていけばいいのかというような内容について、一つの指針として示しています。ガイドラインですから、あまりボリュームを多くすると手にとって見てもらえなくなるのではないかと、全体で資料も含めて34ページと、非常にコンパクトな形にしています。そのうち3分の2が資料です。自己点検・評価項目一覧表、学校内自己点検・評価委員会を設けるための委員会規定の例、授業アンケートや学生満足度調査アンケートの例など、資料を多めに入れてあります。それぞれの学校でその資料をそのまま、あるいは改変して使って授業アンケートや学生アンケートができるように、といった形で盛り込んであります。この部分は各校から比較的好評を得ているところであります。



## アンケートで実施の成果を確認

平成17年度、今年度の主な活動ですが、前年度の『自己点検・評価ガイドライン』の作成をふまえて、実際に静岡の会員校がどのくらい自己点検・評価をやっているのか状況を把握するため、また実施率を高めていくうえでの資料とすることを目的に、アンケートを実施しました。対象は会員校105校で、昨年9月に実施しました。回収率は105校中49校で46.7%。催促はしたものの少々回収率が低い。これは委員長として残念に思うところです。

調査項目は、自己点検・評価に関する9項目でアンケートを行いました。まず『Q1.自己点検・評価を実施しているか』。49校中28校、57.1%が「はい」という回答ですが、まだ回答していない学校がかなりありますので、実際の静岡での実施率をもっと低い割合になるのではないかと推測しています。「いいえ」が21校で42.9%です。「いいえ」と回答した理由について、自由記載で書いてもらったところ、一番多かったのがまだ「準備中、検討中」という回答でした。また「なにをどう点検したらよいか、方法がわからない」「小規模校なので作業が煩雑」「なんのために、だれに対しての点検・評価なのがよくわからない」、なかには「学校のことはよくわかっているから、こんなことはやる必要がない」という回答までありました。こういった回答を見ると、まだまだ自己点検・評価についての理解が不足しているという実態が浮き彫りになったと考えています。

次に自己点検・評価を実施している学校に質問しました。『Q2.だれを中心に実施しているのか』。もっとも多かったのが「学校長」です。理事長と学校長が兼務の学校もありますので、重複回答もあると思われます。やはり学校長、あるいは理事長・設置者がリーダーシップを発揮して、自己点検・評価をやっていくのだという気持ちで学校を引っ張っていかないと、なかなか教職員がついてこないのではないかと思います。静岡の振興会においても、中村会長のリーダーシップ、つまり静岡では自己点検・評価を推進していくのだという強い思いが、自己点検・評価委員会の設置につながったと私は思っています。

次も実施校への質問です。『Q3.主な点検・評価の項目』。いちばん多かったのは「シラバス・授業評価など、教育活動に関する項目」です。実施28校中25校ということで9割がこれを行っていることになります。次に多かったのは「教員の資質向上など、教職員組織に関する項目」。そして「教育理念・目標に関する項目」と続いています。やはりシラバスや授業評価というのはどの学校でも一番大事なことだと思いますし、もっとも着手しやすい部分でもあると思います。

さらに実施校に質問したのが、『Q4.自己点検・評価を実施して良かった点』。この問いに対し「学校の優位点、問題点が具体的、客観的に見えるようになり、結果として改善点や設定目標が明確になった」。また「学校運営を見直すきっかけとなった」「授業の改善、教員の資質向上につながる」「学生の意向が理解できた」「教員の意識改革ができた」「就職先など外部から複数の視点での評価が得られた」と続

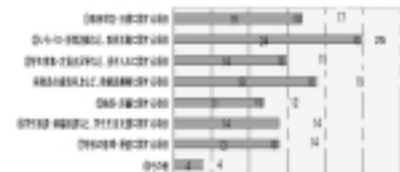
### Q1.自己点検・評価を実施しているか

- 「はい」 \*\*28校 (57.1%)
  - 「いいえ」 \*\*21校 (42.9%)
- 「いいえ」と回答した理由
- ・準備中、検討中
  - ・何をどう点検したらよいか、方法がわからない
  - ・小規模校なので作業が煩雑
  - ・何のための、誰に対しての点検・評価かわからない
  - ・必要がない

### Q2.誰を中心に実施しているか



### Q3.主な点検・評価の項目



### Q4.自己点検・評価を実施して良かった点

- 学校の優位点、問題点が具体的、客観的に見えるようになり、結果として改善点や設定目標が明確になった
- 学校運営を見直すきっかけとなった
- 授業の改善、教員の資質向上につながる
- 学生の意向が理解できたこと
- 教員の意識改革ができたこと
- 就職先など外部から複数の視点での評価が得られたこと

きました。実施している学校は、やはりそれなりの成果が出ているのではないかと考えます。

## 会員校の実施率100%をめざして

一方、自己点検・評価を行ううえで、『Q5. 問題になった点』について訊ねました。そして目立ったのが「学生の授業評価に対する教員の抵抗が強い」という回答。とくに外部講師に依存度が高い学校では、なかなか苦労しているようです。そういうところは、最初は専任教員に限定して自己点検・評価を始めて、徐々に実績を積み上げて非常勤の教員にも理解をしてもらうのがいいのではないかといったアドバイスも行っています。それから「教員への評価結果のフィードバック」、授業評価の結果をそれぞれの教員にフィードバックしていくのが難しいといったようなこと。「評価などの個人的な情報の管理」の問題。「作業に費やす時間、労力、経費等の問題」。また自己点検・評価なのでどうしても「客観的評価が難しい」などの回答がありました。

次に、『Q6. 結果について公表しているか』。28校中6校、つまり2割が「はい」と回答。結果の公表を行っている学校はまだまだ少ないという状況です。ただ、公表していない学校のなかにも「将来的には公表できるよう検討する、努力する」といった回答が4校ありました。

それから、『Q9. ガイドラインが参考になったか』。「はい」と回答してくれた学校が29校、「いいえ」が2校ありました。どのような点が参考になったかという問いに対しては、「点検・評価項目の例示」「評価方法の例示」「点検・評価の進め方」、また「授業アンケートや学生満足度調査などの資料が活用できてよかった」といった肯定的な意見が記載されていました。

今後の方針ですが、実はまだ静岡の会員校にはこのアンケートの結果について知らせていません。これをきちんとまとめて会員各校に送付し、さらなる自己点検についての啓蒙に努めていこうと考えています。

またアンケートの結果から、本県における自己点検・評価の実施率が低い分野、回答率が低い分野がわかりました。今後そういった分野を対象として、担当者を決めて、着ししやすい評価項目からやってみようといったことを重点的にアドバイスしながら、実施率100%をめざして努めていきたいと思っています。

アンケート結果を見ると、私たち委員会の活動成果が少しずつ表れているのではないかとこの手ごたえは感じています。振興会という団体として進めていく意義というのは、やはり会員校が足並みをそろえて自己点検・評価を実施し、それぞれがレベルアップしていく。そして全体として向上しながら社会の信頼を高めていくことに大きな意義があるのだと私は考えています。

実施率100%をめざし、今後も引き続き取り組みに努めていきたいと思っています。以上が静岡の状況です。ご清聴ありがとうございました。

### Q5. 問題になった点

- ・学生の授業評価に対する教員の抵抗
- ・教員への評価結果のフィードバック
- ・評価などの個人的な情報の管理
- ・作業に費やす時間、労力、経費等の問題
- ・客観的評価が困難 など

### Q6. 結果について公表しているか

- ・「はい」 …… 6校
- ・「いいえ」 …… 22校
- ・「いいえ」と回答した理由
  - ・評価項目が一部に過ぎず、公表する段階ではない（将来的には公表できるよう検討、努力）→4校
  - ・個人、経営に関する情報なので公表を控えている
  - ・公表するとすると自己評価が甘くなる
  - ・公表することが必要と思えない

### Q9. ガイドラインが参考になったか

- ・「はい」 …… 29校
- ・「いいえ」 …… 2校
- ・どのような点が参考になったか？
  - ・点検・評価項目の例示
  - ・評価方法の例示
  - ・点検・評価の進め方
  - ・授業アンケートなどの資料を活用
  - ・学生の満足度向上が重要である点 など

### 今後の方針について

- ・アンケートの結果について確め、会員各校に送付、更なる啓蒙に努める
- ・分野別に担当者を決め、特に自己点検・評価実施率、アンケート回答率の低い分野について、着ししやすい点検・評価から始めることなどを助言し、実施率の向上に努める

## 総 括

今回の調査研究は、現在、努力義務とされている専修学校の自己点検・自己評価が将来義務化されるであろうこと、その実施が専修学校教育の質的向上に結びつくであろうという観点から、全ての専修学校がその重要性を十分に理解したうえで、将来100%の実施率が達せられることを目的とした啓発活動でもあった。

従って、今回の調査研究は全国専修学校各種学校総連合会の会員である私立専修学校2,265校を対象に1次調査を実施したが、「調査アンケート回収率の低さ（1次調査52%）」から、会員校の「自己点検・自己評価」に対する理解が薄いことを痛感した。

しかし、各委員と各都道府県専修学校各種学校協会等事務局の努力が実を結び、2次調査をもってその回収率は71%まで向上した。

自己点検・自己評価の実施率も、委員会にて作成した簡易チェック様式の導入モデルを送付したこともあり、最終的には63%に向上した。

これらのことから、今後、より実施率を上げていくためには、各学校の実情にあった自己点検・自己評価システムモデルの開発・提供と同時に、地域ごとの啓発活動が非常に重要であることを実感した。

一方、このような積極的な調査研究活動の結果、今年度は自己点検・自己評価が単なる「努力義務」ではなく、「教育の質の向上に繋がるもの」として理解され始め、各県または学校単位での「自己点検・自己評価」の研修会も開催され、開催にあたっての講師派遣・資料請求の依頼を受けるようになったことは、大きな成果であった。

本委員会としては、今後とも自己点検・自己評価の実施率向上のための方法を検討するとともに、将来的には「第三者評価」、「学校情報の公開」についても専修学校が対応できるよう検討していきたいことを述べ、本年度の調査研究の報告とする。

自己点検・評価に関する調査研究委員会  
委員長 中村 徹

平成17年度 文部科学省委託事業

私立専修学校の自己点検・評価に関する調査研究報告書

平成18年3月

発行 財団法人専修学校教育振興会  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25  
(私学会館別館)  
電話 03(3230)4814